

食品安全モニター課題報告

「食品の安全性に関する意識等について」（平成 21 年 7 月実施）の結果

1. 調査目的

食品安全委員会では、定点調査として、毎年、食品安全モニターの方を対象に、食品の安全性に関する意識等について調査を実施しており、今年度においても、平成 21 年 7 月 31 日から 8 月 17 日を調査実施期間として、食品安全モニター 470 名を対象に調査を実施（有効回答数 406 名（86.4%））した。なお、平成 20 年度において、定点調査とは別にリスク認知の形成要因等に関するインターネット調査（平成 20 年 10 月実施）を一般の方々 2,000 人を対象に行っており、以下では今回調査との比較も行った。

【食品安全モニターを対象とした調査】

- ・「食の安全性に関する意識調査」（以下「平成 16 年度調査」という。）
- ・「食の安全性に関する意識等について」（以下「平成 17 年度調査」という。）
- ・「食の安全性に関する意識等について」（以下「平成 18 年度調査」という。）
- ・「食の安全性に関する意識等について」（以下「平成 19 年度調査」という。）
- ・「食の安全性に関する意識等について」（以下「平成 20 年度調査」という。）

【全国の 20 歳以上を対象に実施した平成 20 年度インターネット調査】

- ・『リスク認知の形成要因等に関する調査 調査報告書』（平成 21 年 1 月）中の「食生活に関する調査」（平成 20 年 10 月実施、以下「平成 20 年度インターネット調査」という。）

2. 調査項目

次の 4 項目である。

- 1) 食品の安全性に係る危害要因等について
(食分野の安全性に係る不安感の程度、不安を感じる理由等)
- 2) 食品の安全性に関する情報について
(食品の安全性に関する情報源等)
- 3) 食品の安全性の確保について
(食品の安全性の確保に向けた取り組みの評価等)
- 4) 食品安全委員会のイメージ・認識について
(食品安全委員会に対するイメージ等)

3. 実施期間

平成 21 年 7 月 31 日～8 月 17 日

4. 対象

食品安全モニター	470 名	
有効回答数	406 名	(有効回答率：86.4%)

1) 食品安全モニターの回答者数の内訳

① 男女別：

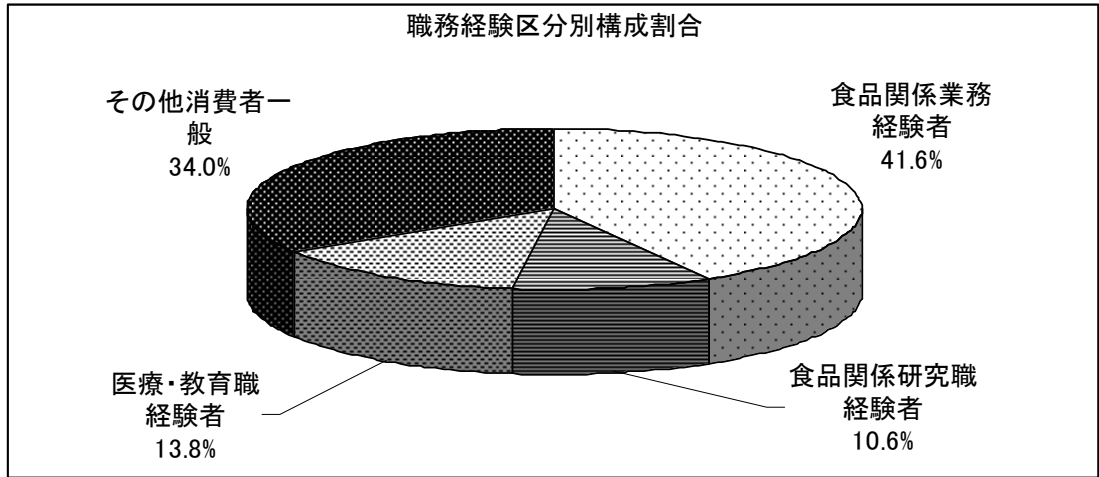
	回答者数	割合
全体	406 人	100.0%
男性	148 人	36.5%
女性	258 人	63.5%

② 年齢別：

	回答者数	割合
全体	406 人	100.0%
20～29 歳	27 人	6.7%
30～39 歳	93 人	22.9%
40～49 歳	115 人	28.3%
50～59 歳	66 人	16.3%
60～69 歳	95 人	23.4%
70 歳以上	10 人	2.5%

③ 職務経験区分別：

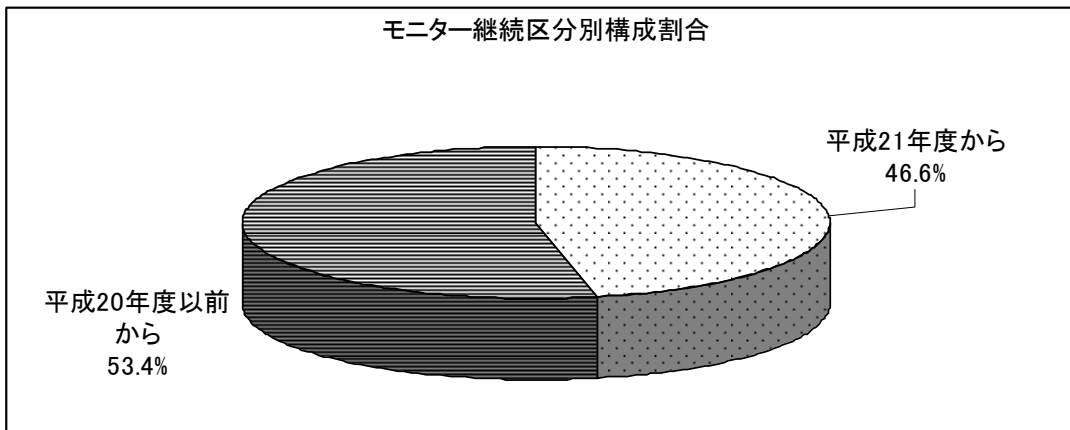
食品関係業務経験者	・現在もしくは過去において、食品の生産、加工、流通、販売等に関する職業(飲食物調理従事者、会社・団体等役員などを含む)に就いた経験を5年以上有している方 ・過去に食品の安全に関する行政に従事した経験を5年以上有している方	169 人
食品関係研究職経験者	・現在もしくは過去において、試験研究機関(民間の試験研究機関を含む)、大学等で食品の研究に関する専門的な職業に就いた経験を5年以上有している方	43 人
医療・教育職経験者	・現在もしくは過去において、医療・教育に関する職業(医師、獣医師、薬剤師、看護師、小中高校教師等)に就いた経験を5年以上有している方	56 人
その他消費者一般	・上記の項目に該当しない方	138 人



	男女別		年代区分別			全体
	男性	女性	20～39歳	40～59歳	60歳以上	
食品関係業務経験者	89人	80人	45人	73人	51人	169人
	52.7%	47.3%	26.7%	43.2%	30.2%	100.0%
食品関係研究職経験者	26人	17人	9人	14人	20人	43人
	60.5%	39.5%	21.0%	32.5%	46.5%	100.0%
医療・教育職経験者	13人	43人	12人	29人	15人	56人
	23.2%	76.8%	21.4%	51.7%	26.8%	100.0%
その他消費者一般	20人	118人	54人	65人	19人	138人
	14.5%	85.5%	39.2%	47.1%	13.8%	100.0%

④ モニター継続区分別：

- 過去においても食品安全モニターに依頼されていた方
(以下、「経験モニター」という) 217人
- 平成21年度から、食品安全モニターに依頼された方
(以下、「新規モニター」という) 189人



2) 平成 20 年度インターネット調査の回答者数の内訳

① 男女別 :

	回答者数	割合
全体	2,000 人	100.0%
男性	960 人	48.0%
女性	1,040 人	52.0%

② 年代区分別 :

	回答者数	割合
全体	2,000 人	100.0%
20～29 歳	289 人	14.4%
30～39 歳	347 人	17.3%
40～49 歳	305 人	15.2%
50～59 歳	375 人	18.7%
60 歳以上	684 人	34.2%

5. 調査結果

1) 食品の安全性に係る危害要因等について

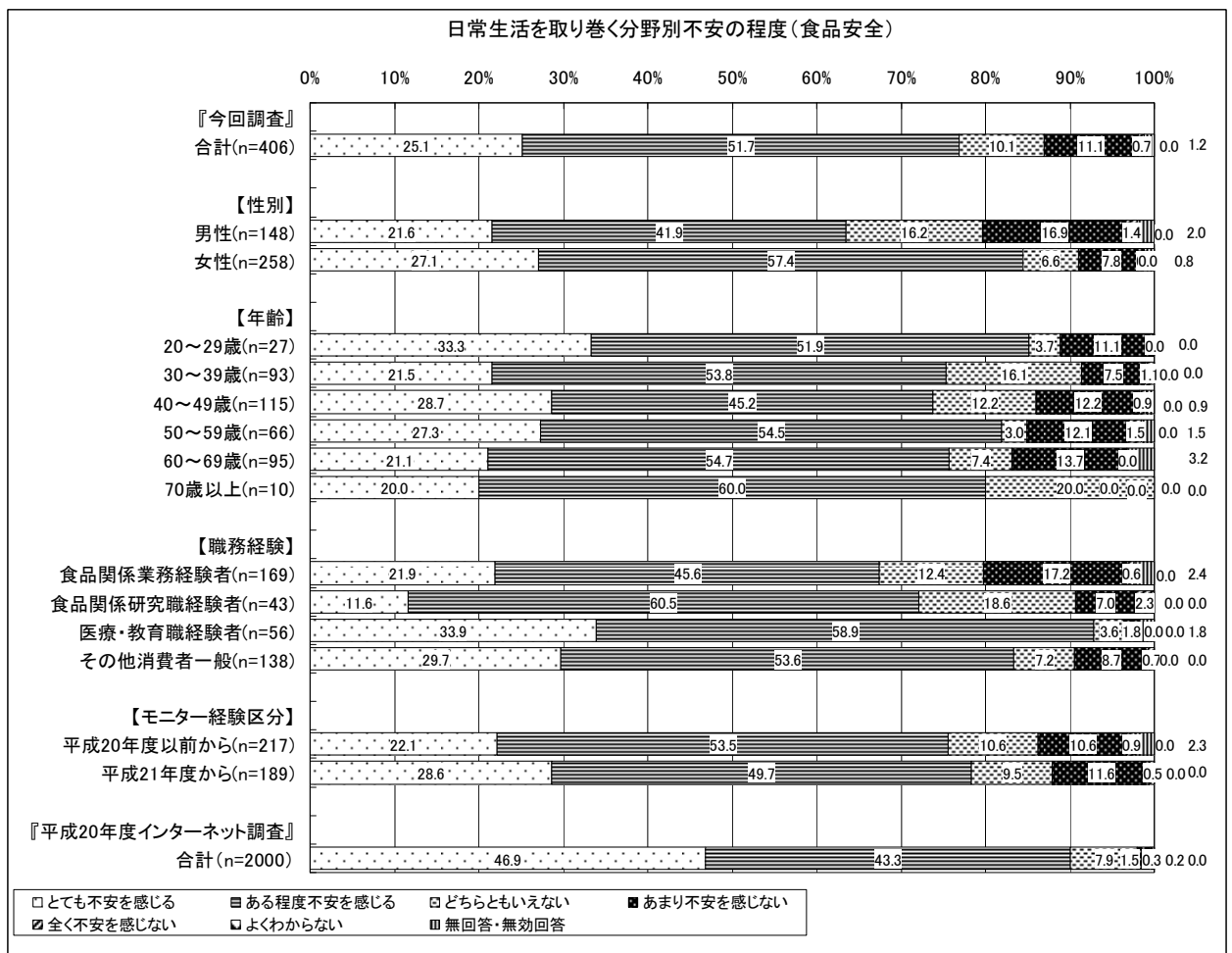
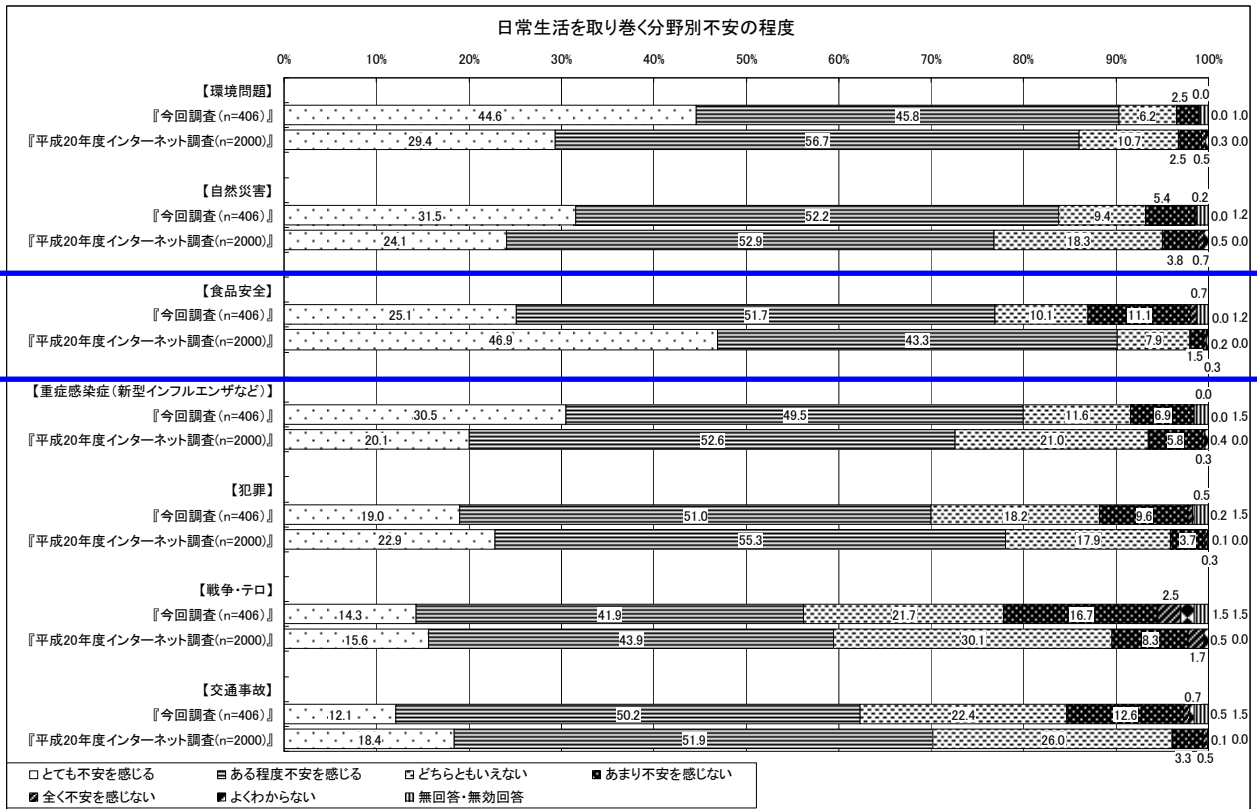
①日常生活を取り巻く分野別不安の程度（問1）

問1 次に掲げる分野について、あなたはどのように思いますか。それぞれの分野について、選択肢の中から1つずつ選んでください。

- ◆ 平成21年度調査（以下「今回調査」という。）では、食品安全について「とても不安を感じる」「ある程度不安を感じる」とする回答割合は76.8%であり、環境問題（90.4%）や自然災害（83.7%）、重症感染症（新型インフルエンザなど）（80.0%）に比べると低いものの、犯罪（70.0%）や戦争・テロ（56.2%）、交通事故（62.3%）よりは高い
- ◆ 今回調査では、食品安全について「とても不安を感じる」「ある程度不安を感じる」とする回答割合が76.8%であったが、平成20年度インターネット調査では90.2%と今回調査に比べて食品安全分野への不安感が強い
- ◆ 今回調査では、食品安全について「あまり不安を感じない」とする割合は、性別では男性が高く、職務経験別では食品関係業務経験者が高かった

今回調査では、日常生活を取り巻く分野のうち「とても不安を感じる」、「ある程度不安を感じる」とする回答割合が最も高い分野は環境問題で90.4%、その次が自然災害で83.7%、重症感染症（新型インフルエンザなど）は80.0%、食品安全は76.8%、犯罪は70.0%、交通事故は62.3%、戦争・テロは56.2%と続く。一方、平成20年度インターネット調査では「とても不安を感じる」、「ある程度不安を感じる」とする回答割合が最も高い分野は食品安全で90.2%であり、今回調査に比べて食品安全分野に対する不安感が強い。

今回調査の食品安全の不安の程度の属性比較をすると、性別と職務経験区分別に差があった。「とても不安を感じる」、「ある程度不安を感じる」とする回答割合は、男性では63.5%、女性では84.5%で、男性より女性の方が高く、職務経験区分別では食品関係業務経験者67.5%、食品関係研究職経験者72.1%、医療・教育職経験者92.8%、その他消費者一般83.3%であり、食品関係業務経験者の回答割合が最も低く、医療・教育職経験者が最も高い。



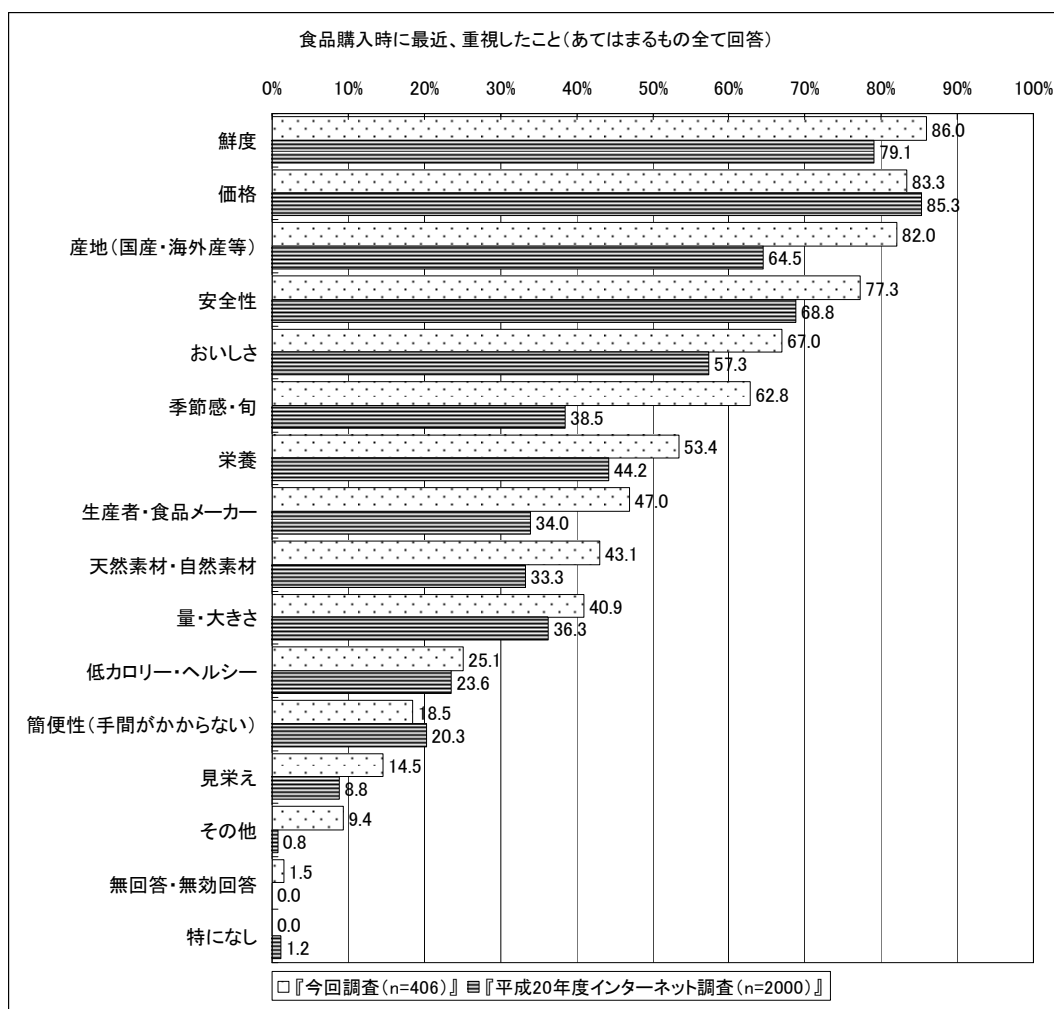
②食品購入時に最近、重視したこと（問2）

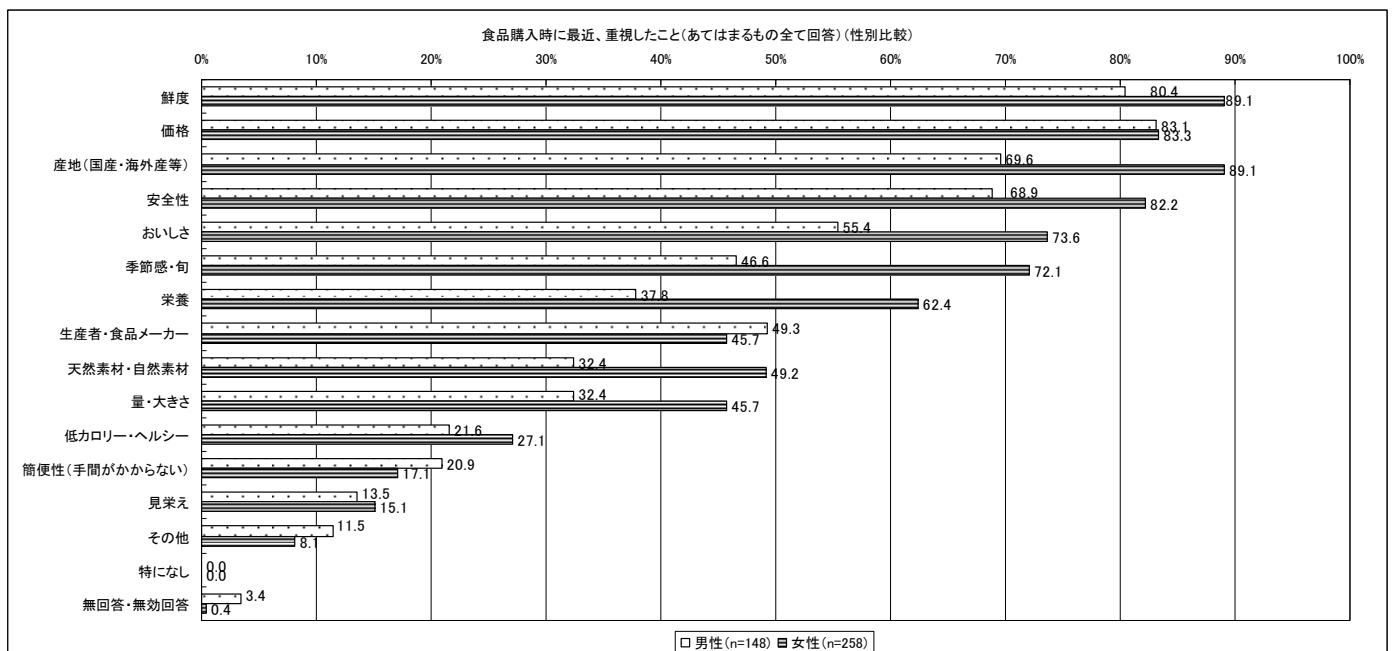
問2 最近、あなたが食品を購入したときに気をつけたこと、重視したことは何ですか。あてはまるものを全て選んでください。

- ◆ 今回調査では、食品購入時に最近、重視したことは「鮮度」(86.0%)、「価格」(83.3%)、「産地(国産・海外産等)」(82.0%)の順
- ◆ 食品購入時に最近、重視したことについて、回答割合が8割を超えるものは、男性は「価格」(83.1%)と「鮮度」(80.4%)、女性は「鮮度」(89.1%)、「産地(国産・海外産等)」(89.1%)、価格(83.3%)、安全性(82.2%)
- ◆ 平成20年度インターネット調査では、食品購入時に最近、重視したことは「価格」(85.3%)、「鮮度」(79.1%)、「安全性」(68.8%)の順

今回調査では、食品購入時に最近、重視したことは「鮮度」が最も多く、回答割合は86.0%で、次いで「価格」の83.3%、「産地(国産・海外産等)」の82.0%となっている。一方、平成20年度インターネット調査では、「価格」が最も多く85.3%で、次いで「鮮度」の79.1%、「安全性」の68.8%となっており、今回調査で3番目となっていた「産地(国産・海外産等)」は4番目であり、64.5%あった。

また今回調査において、性別で優先順位は異なり、男性の回答割合が最も高いのは「価格」で83.1%、次いで「鮮度」は80.4%であり、女性は「鮮度」と「産地(国産・海外産等)」が最も高く共に89.1%、そして「価格」が83.3%、「安全性」が82.2%と続く。





問2：⑭その他（具体的に記入してください）（回答者数 38 名）

食品購入時に最近、重視したことについては、添加物に関する意見が最も多く、次いで、原材料の表示や賞味期限・消費期限、食品に係る事業者、産地（地元産）、アレルギー物質の有無に関する意見等があった。その他の意見として、キャラクターやコラボレートの有無、友人やインターネットから得た評判、包装素材、新製品、保管状態、偽装などがあつた。

③食品の安全性の観点から感じている不安の程度（問3）

問3 以下の10個の食品や物質等それぞれについて、食品の安全性の観点からあなたはどうかお感じですか。選択肢の中から1つずつ選んでください。また、以下の10個の食品や物質等以外に気になっているものがあれば、併せて「11 その他」に食品や物質名を記入し、選択肢の中からも1つ選んでください。

- ◆ 今回調査は、平成20年度調査に比べて、BSE（牛海綿状脳症）以外の全ての要因で「非常に不安である」「ある程度不安である」とする回答割合が増加
- ◆ 今回調査で、「非常に不安である」「ある程度不安である」という回答要因の上位3要因は、有害微生物（細菌・ウイルス・食中毒）(79.6%)、汚染物質（カドミウム、メチル水銀等）(78.1%)、農薬(73.1%)であり、平成20年度調査と同様
- ◆ いわゆる健康食品は、今回調査(61.6%)の方が平成20年度インターネット調査(26.1%)に比べて、「非常に不安である」「ある程度不安である」とする回答割合が高い
- ◆ 食品添加物、農薬、BSE（牛海綿状脳症）は、今回調査の方が平成20年度インターネット調査に比べて「非常に不安である」「ある程度不安である」とする回答割合が低い
- ◆ 今回調査のすべての要因において、男性より女性の方が不安を感じている程度は高い
食品の安全性の観点から感じている不安の程度について、今回調査と平成20年度調査を比

較すると、全ての要因で「ある程度不安である」と「あまり不安を感じない」の合計の回答割合が増加した。

「ある程度不安である」、「あまり不安を感じない」とする回答割合の上位3要因の順位は、今回調査、前年度調査結果ともに同じで、「有害微生物（細菌・ウイルス・食中毒）」、「汚染物質（カドミウム、メチル水銀等）」、「農薬」であり、今回調査の回答割合は順に、79.6%、78.1%、73.1%であった。

今回調査と平成20年度インターネット調査の差が大きい要因は「いわゆる健康食品」であり、「非常に不安である」と「ある程度不安である」の回答割合の合計を比較すると、今回調査は61.8%、平成20年度インターネット調査は26.1%であった。

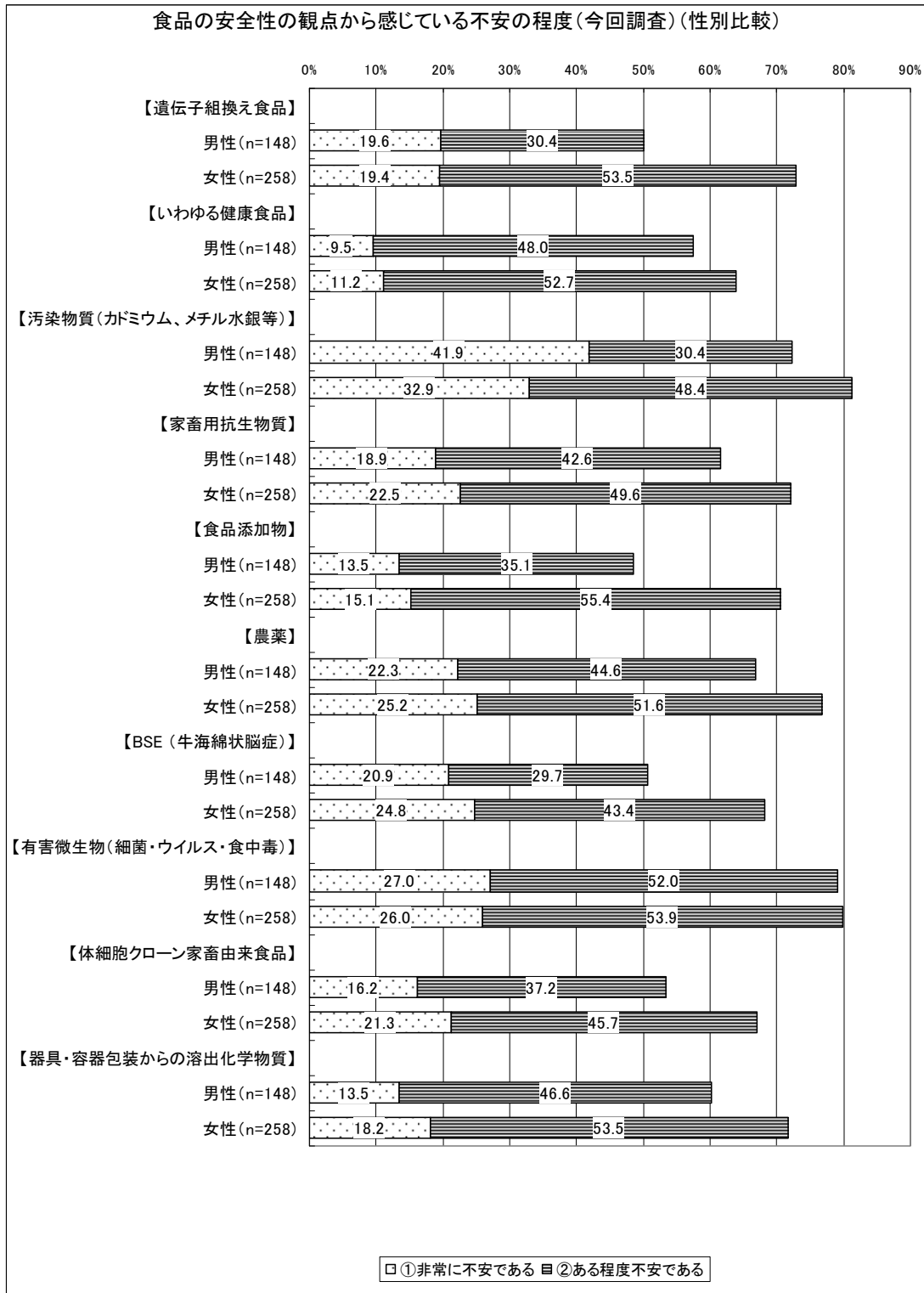
また「食品添加物」、「農薬」、「BSE（牛海綿状脳症）」について、「非常に不安である」と「ある程度不安である」とする回答割合は今回調査の方が平成20年度インターネット調査より低く、「食品添加物」では今回調査が62.5%に対し平成20年度インターネット調査は79.2%、「農薬」は73.1%に対し87.0%、「BSE（牛海綿状脳症）」は61.8%に対し70.9%という結果だった。

今回調査において、すべての要因で、男性より女性の方が「ある程度不安である」、「あまり不安を感じない」とする回答割合が高かった。男女差が約2割であったのは「遺伝子組換え食品」で男性が50.0%に対し、女性は72.9%、「食品添加物」は男性が48.6%に対し、女性は70.5%、「BSE（牛海綿状脳症）」は男性50.6%に対し、女性は68.2%であった。

問3 食品の安全性の観点から感じている不安の程度（単位：％）

	非常に不安である	ある程度不安である	あまり不安を感じない	全く不安を感じない	よく知らない	どちらともいえない	無回答・無効回答
『今回調査(n=406)』	19.5	45.1	27.1	7.1	0.5		0.7
『平成20年度調査(n=405)』	16.5	42.0	24.7	7.7	0.5		8.6
『平成19年度調査(n=438)』	18.3	43.2	27.4	5.3	0.9		5.0
『平成18年度調査(n=448)』	23.0	46.4	23.4	3.8	1.1		2.2
『平成17年度調査(n=469)』	25.6	51.4	16.8	3.0	0.9		2.3
『平成16年度調査(n=456)』	26.5	48.2	18.2	2.6	1.1		3.3
『平成20年度インターネット調査(n=2000)』	21.6	40.7	7.3	1.8	1.2	27.5	0.0
【いわゆる健康食品】							
『今回調査(n=406)』	10.6	51.0	32.0	3.4	2.2		0.7
『平成20年度調査(n=405)』	10.4	42.5	32.6	3.0	2.5		9.1
『平成19年度調査(n=438)』	8.9	53.9	29.5	1.8	1.1		4.8
『平成18年度調査(n=448)』	14.5	50.7	26.3	4.7	1.3		2.5
『平成17年度調査(n=469)』	13.0	49.0	30.5	3.0	1.5		3.0
『平成16年度調査(n=456)』	16.9	48.0	28.3	2.4	1.1		3.3
『平成20年度インターネット調査(n=2000)』	5.3	20.8	54.3	14.5	2.2	3.1	0.0
【汚染物質(カドミウム、メチル水銀等)】							
『今回調査(n=406)』	36.2	41.9	18.2	1.0	2.0		0.7
『平成20年度調査(n=405)』	34.8	40.0	14.6	0.2	1.2		9.1
『平成19年度調査(n=438)』	48.9	39.5	5.5	0.5	0.5		5.3
『平成18年度調査(n=448)』	48.2	40.2	7.6	1.1	1.1		1.8
『平成17年度調査(n=469)』	51.4	38.8	6.2	0.2	0.6		2.8
『平成16年度調査(n=456)』	61.2	30.5	3.3	0.2	1.1		3.7
【家畜用抗生物質】							
『今回調査(n=406)』	21.2	47.0	21.4	2.7	6.7		1.0
『平成20年度調査(n=405)』	20.2	44.2	19.0	2.7	4.2		9.6
『平成19年度調査(n=438)』	24.9	49.3	12.3	3.4	4.6		5.5
『平成18年度調査(n=448)』	28.6	48.7	13.4	2.9	4.2		2.2
『平成17年度調査(n=469)』	30.7	49.7	12.2	0.9	4.3		2.3
『平成16年度調査(n=456)』	38.8	44.7	8.3	0.4	3.9		3.7
【食品添加物】							
『今回調査(n=406)』	14.5	48.0	30.3	6.7	0.0		0.5
『平成20年度調査(n=405)』	17.0	40.5	27.4	5.9	1.2		7.9
『平成19年度調査(n=438)』	21.9	45.4	20.1	7.8	0.2		4.6
『平成18年度調査(n=448)』	24.3	48.4	21.0	4.0	0.2		2.0
『平成17年度調査(n=469)』	27.3	45.2	19.2	4.9	0.4		3.0
『平成16年度調査(n=456)』	24.6	51.8	17.1	3.3	0.0		3.3
『平成20年度インターネット調査(n=2000)』	26.5	52.7	3.8	0.7	0.2	16.2	0.0
【農薬】							
『今回調査(n=406)』	24.1	49.0	22.9	3.0	0.2		0.7
『平成20年度調査(n=405)』	28.1	42.5	18.5	3.2	0.2		7.4
『平成19年度調査(n=438)』	31.1	49.1	11.4	3.4	0.7		4.3
『平成18年度調査(n=448)』	36.4	46.4	13.2	2.0	0.2		1.8
『平成17年度調査(n=469)』	38.2	48.2	8.7	1.7	0.4		2.8
『平成16年度調査(n=456)』	44.7	45.0	5.5	1.1	0.0		3.7
『平成20年度インターネット調査(n=2000)』	35.2	51.8	2.9	0.3	0.3	9.5	0.0
【BSE(牛海綿状脳症)】							
『今回調査(n=406)』	23.4	38.4	29.6	6.7	1.2		0.7
『平成20年度調査(n=405)』	28.9	33.6	22.7	4.9	0.5		9.4
『平成19年度調査(n=438)』	27.2	37.2	22.1	8.0	0.2		5.3
『平成18年度調査(n=448)』	38.4	36.6	18.3	4.5	0.0		2.2
『平成17年度調査(n=469)』	37.5	37.7	16.4	4.9	0.2		3.2
『平成16年度調査(n=456)』	35.5	39.0	18.4	2.9	0.7		3.5
『平成20年度インターネット調査(n=2000)』	27.8	43.1	6.2	1.0	0.3	21.7	0.0
【有害微生物(細菌・ウイルス・食中毒)】							
『今回調査(n=406)』	26.4	53.2	17.7	1.0	0.7		1.0
『平成20年度調査(n=405)』	28.9	46.4	15.1	0.5	0.7		8.4
『平成19年度調査(n=438)』	33.6	44.7	15.1	0.5	1.4		4.8
『平成18年度調査(n=448)』	36.4	44.2	13.8	0.7	2.2		2.7
『平成17年度調査(n=469)』	30.9	48.4	14.5	0.4	3.0		2.8
『平成16年度調査(n=456)』	44.1	36.8	12.9	0.7	1.5		3.9
【体細胞クローン家畜由来食品】							
『今回調査(n=406)』	19.5	42.6	23.2	5.4	8.6		0.7
『平成20年度調査(n=405)』	20.2	39.0	19.5	4.9	6.7		9.6
【器具・容器包装からの溶出化学物質】							
『今回調査(n=406)』	16.5	51.0	26.1	3.2	2.5		0.7
『平成20年度調査(n=405)』	13.8	49.4	23.2	3.0	1.2		9.4

(注) 平成20年度インターネット調査のみ、選択肢に「どちらともいえない」がある



問3：⑩その他(具体的に記入してください)(回答者数 29名)

10個の要因以外に食品の安全性の観点から不安を感じているものとして、うなぎやカビ毒、洗剤、油に関する意見が複数見られた。その他の意見として、アレルギー物質、コラーゲン、サプリメント、次亜塩素酸、事業者のモラル、賞味期限・消費期限、薬品、成長ホルモン、旨味調味料、毒物、切花、タンパク加水分解物、輸入食品、産業廃棄物からの有害物質、ソバ、牛乳、自然素材、保存料、空気などがあつた。

④食品の安全性の観点から不安を感じている理由（問 4a）

問 4a 問 3 において、「①非常に不安である」、「②ある程度不安である」を選択した食品や物質等についてお聞きします。選択した食品や物質等について不安を感じる理由を1つずつ選んでください。

- ◆ 「科学的な根拠に疑問」の回答割合が高いのは、体細胞クローン家畜由来食品（52.4%）、遺伝子組換え食品（48.2%）
- ◆ 「過去に問題となった事例があり、不安」の回答割合が高いのは、汚染物質（カドミウム、メチル水銀等）（49.5%）、BSE（牛海綿状脳症）（39.0%）
- ◆ 「事業者の法令順守や衛生管理の実態に疑問」の回答割合が高いのは、有害微生物（細菌・ウイルス・食中毒）（40.8%）、家畜用抗生物質（35.4%）、農薬（34.7%）、食品添加物（28.0%）
- ◆ 「規格基準や表示等の規制が不十分」の回答割合が高いのはいわゆる健康食品（28.4%）、器具・容器包装からの溶出化学物質（27.0%）

要因別の回答割合が高かった理由とその割合は次の通りであった。

「科学的根拠に疑問」は、「遺伝子組換え食品」では 49.2%、「体細胞クローン家畜由来食品」では 52.4%であった。特に「体細胞クローン家畜由来食品」では、平成 20 年度調査と比較して回答割合が 40.0%から 52.4%へと増加した。

「過去に問題になった事例があり、不安」については、「汚染物質（カドミウム、メチル水銀等）」が 49.5%、「BSE（牛海綿状脳症）」では 39.0%であった。

「事業者の法令遵守や衛生管理が不十分」は、「有害微生物（細菌・ウイルス・食中毒）」では 40.9%、「農薬」では 34.7%、「家畜用抗生物質」では 35.4%、「食品添加物」では 28.0%であった。特に「有害微生物（細菌・ウイルス・食中毒）」では、平成 20 年度調査と比較して回答割合が 30.5%から 40.9%へと大きく増加した。

「規格基準や表示等の規制が不十分」は「いわゆる健康食品」では 28.4%、「器具・容器包装からの溶出化学物質」では 27.0%であった。また「いわゆる健康食品」については、回答割合が 2 番目に高かった理由は「科学的根拠に疑問」で 25.6%であった。

問4 a 食品の安全性の観点から不安を感じている理由（単位：％）

	科学的な根拠に疑問	規格基準や表示等の規制が不十分	事業者の法令遵守や衛生管理が不十分	食品の安全性に関する情報が不十分	過去に問題になった事例があり、不安	漠然とした不安	その他	無回答・無効回答
【遺伝子組換え食品】								
『今回調査(n=262)』	49.2	12.2	4.2	19.1	1.1	9.2	5.0	0.0
『平成20年度調査(n=237)』	45.6	12.2	3.4	23.2	1.3	6.3	6.3	1.7
『平成19年度調査(n=269)』	46.5	10.8	3.7	17.1	1.9	8.9	8.9	2.2
『平成18年度調査(n=92)』	40.2	13.0	6.5	17.4	3.3	4.3	8.7	4.3
『平成17年度調査(n=95)』	43.2	9.5	10.5	16.8	1.1	9.5	8.4	9.5
『平成16年度調査(n=83)』	55.4	10.8	3.6	9.6	2.4	8.4	7.2	8.4
【いわゆる健康食品】								
『今回調査(n=250)』	25.6	28.4	18.0	10.4	10.8	2.8	3.2	0.8
『平成20年度調査(n=214)』	28.5	28.0	18.7	7.9	9.8	1.4	4.2	1.4
『平成19年度調査(n=275)』	29.5	30.2	14.2	9.5	10.5	1.5	2.2	2.5
『平成18年度調査(n=97)』	30.9	22.7	21.6	10.3	6.2	0.0	3.1	0.0
『平成17年度調査(n=95)』	30.5	18.9	31.6	5.3	7.4	1.1	5.3	1.1
『平成16年度調査(n=87)』	23.0	36.8	23.0	4.6	8.0	1.1	2.3	1.1
【汚染物質(カドミウム・メチル水銀等)】								
『今回調査(n=317)』	7.3	6.9	18.0	8.8	49.5	6.3	2.8	0.3
『平成20年度調査(n=303)』	4.0	9.9	16.5	7.3	51.2	6.6	3.3	1.3
『平成19年度調査(n=387)』	8.5	11.1	30.7	8.8	28.2	7.0	3.9	1.8
『平成18年度調査(n=132)』	9.8	10.6	24.2	14.4	28.0	2.3	4.5	2.3
『平成17年度調査(n=129)』	7.0	13.2	20.9	7.8	34.1	7.0	7.8	7.0
『平成16年度調査(n=119)』	4.2	14.3	21.8	14.3	37.0	3.4	2.5	3.4
【家畜用抗生物質】								
『今回調査(n=277)』	14.4	12.6	35.4	19.5	5.4	9.0	3.2	0.4
『平成20年度調査(n=261)』	10.0	11.5	39.8	13.8	6.5	12.6	4.2	1.5
『平成19年度調査(n=325)』	13.2	16.3	39.7	13.5	6.8	7.1	1.8	1.5
『平成18年度調査(n=111)』	7.2	10.8	46.8	18.0	4.5	2.7	3.6	2.7
『平成17年度調査(n=107)』	10.3	11.2	48.6	18.7	3.7	5.6	1.9	5.6
『平成16年度調査(n=102)』	11.8	16.7	49.0	14.7	2.0	3.9	2.0	3.9
【食品添加物】								
『今回調査(n=254)』	10.6	25.6	28.0	16.1	11.0	4.7	3.9	0.0
『平成20年度調査(n=233)』	11.6	26.2	27.0	18.9	8.2	4.7	0.9	2.6
『平成19年度調査(n=295)』	17.3	25.8	25.1	13.9	10.8	2.7	3.1	1.4
『平成18年度調査(n=86)』	8.1	20.9	29.1	25.6	7.0	1.2	1.2	1.2
『平成17年度調査(n=86)』	7.0	23.3	41.9	14.0	10.5	1.2	2.3	1.2
『平成16年度調査(n=83)』	16.9	19.3	37.3	14.5	8.4	2.4	1.2	2.4
【農業】								
『今回調査(n=297)』	8.8	18.2	34.7	10.8	16.5	5.7	5.1	0.3
『平成20年度調査(n=286)』	6.3	16.4	43.7	6.6	17.5	4.5	2.1	2.8
『平成19年度調査(n=351)』	8.0	20.5	40.2	9.7	14.0	3.4	2.3	2.0
『平成18年度調査(n=122)』	4.1	27.0	40.2	10.7	7.4	1.6	4.9	1.6
『平成17年度調査(n=121)』	8.3	23.1	42.1	5.0	12.4	2.5	4.1	2.5
『平成16年度調査(n=111)』	8.1	22.5	35.1	13.5	15.3	2.7	0.9	2.7
【BSE(牛海綿状脳症)】								
『今回調査(n=251)』	20.3	4.8	18.7	5.2	39.0	8.0	3.6	0.4
『平成20年度調査(n=253)』	13.4	7.5	17.4	7.1	43.5	5.9	3.6	1.6
『平成19年度調査(n=282)』	15.6	5.0	22.3	6.0	40.4	5.7	2.1	2.8
『平成18年度調査(n=102)』	23.5	5.9	33.3	5.9	15.7	3.9	6.9	3.9
『平成17年度調査(n=95)』	35.8	6.3	14.7	7.4	17.9	8.4	5.3	8.4
『平成16年度調査(n=88)』	21.6	8.0	21.6	15.9	20.5	5.7	4.5	5.7
【有害微生物(細菌・ウイルス・食中毒)】								
『今回調査(n=323)』	5.3	5.0	40.9	6.8	27.9	9.6	3.7	0.9
『平成20年度調査(n=305)』	4.9	3.0	30.5	12.5	18.4	21.0	6.9	3.0
『平成19年度調査(n=343)』	5.2	6.7	31.2	11.1	17.8	16.3	5.8	5.8
『平成18年度調査(n=125)』	4.8	6.4	31.2	9.6	21.6	13.6	5.6	13.6
『平成17年度調査(n=114)』	5.3	4.4	48.2	4.4	19.3	10.5	7.0	10.5
『平成16年度調査(n=115)』	3.5	3.5	37.4	19.1	20.9	8.7	5.2	8.7
【体細胞クローン家畜由来食品】								
『今回調査(n=252)』	52.4	6.3	3.2	14.3	2.4	15.1	4.4	2.0
『平成20年度調査(n=240)』	40.0	5.8	2.1	22.1	2.1	23.8	2.9	1.3
【器具・容器包装からの溶出化学物質】								
『今回調査(n=274)』	10.9	27.0	18.2	10.6	16.1	13.1	4.0	0.0
『平成20年度調査(n=256)』	14.1	24.2	12.9	16.4	12.5	16.0	2.7	1.2

問4a：その他（具体的に記入してください）

（1）遺伝子組換え食品について、不安を感じる理由（回答者数13名）

食べ続けることによる将来的な影響が分からない、自然の摂理に反するなどの意見が複数見られた。その他の意見としては、海外では食用として使用されていないものがある、一般人に認知されていない、食品としての歴史が短い、未検証である組換え遺伝子の遺伝的影響が分からない、過去に問題になったにもかかわらずその後情報が手に入りにくくなっているなどがあった。

（2）いわゆる健康食品について、不安を感じる理由（回答者数8名）

国民が期待する効果と実際の健康への効果に差がある、併害の可能性はある、過去に問題になったにもかかわらずその後情報が手に入りにくくなっている、副作用の可能性はある、体質的に個人差があるにもかかわらず効果を過大宣伝している、過剰摂取による影響が不明、実際に健康被害の事例を報告、専門職でなくても販売可能などの意見があった。

（3）汚染物質（カドミウム、メチル水銀等）について、不安を感じる理由（回答者数9名）

海外での法令遵守や検査体制が十分でない、目に見えるものではないので汚染の程度が分からないなどの意見が複数見られた。その他の意見としては、過去に問題になったにもかかわらずその後情報が手に入りにくくなっている、魚類など生産・流通の制限が難しい場合がある、環境保全が不十分、いつ影響が出るか分からない、被害にあっても救済されないなどがあった。

（4）家畜用抗生物質について、不安を感じる理由（回答者数8名）

人体への影響が分からない、使用量の基準が曖昧とする意見が複数見られた。その他の意見としては、過去に問題になったにもかかわらずその後情報が手に入りにくくなっている、うわさ話を耳にして、必要性が理解できないなどがあった。

（5）食品添加物について、不安を感じる理由（回答者数10名）

人体への影響が分からない、国によって基準が異なるとする意見が複数見られた。その他の意見としては、過去に問題になったにもかかわらずその後情報が手に入りにくくなっている、個々の安全基準をクリアしていても複数の食品を食するのでなどがあった。

（6）農薬について、不安を感じる理由（回答者数15名）

農薬に関する規制が不十分である、輸入食品の検査基準や事業者を信用できない、人体への影響が分からないとする意見が複数見られた。その他の意見としては、過去に問題になったにもかかわらずその後情報が手に入りにくくなっている、事業者が信頼できない、分析数量が少ない、食糧自給率40%への希望が見出せないなどがあった。

（7）BSE（牛海綿状脳症）について、不安を感じる理由（回答者数9名）

輸入食品の検査基準や検査体制が十分でないとする意見が複数見られた。その他の意見として、危険の程度が不明、正しい情報提供をしてくれるところが曖昧、過去に問題になったにもかかわらずその後情報が手に入りにくくなっている、動物の立場になって考えるべきなどがあった。

(8) 有害微生物（細菌・ウイルス・食中毒）について、不安を感じる理由（回答者数 11 名）

有害微生物を管理しきれない、突然変異による耐性の獲得、消費者の認識不足、人体への影響があるとする意見が複数見られた。その他の意見として、自然発生はどこでもあり有害微生物によるテロも起こらないという保障はないなどの意見があった。

(9) 体細胞クローン家畜由来食品について、不安を感じる理由（回答者数 11 名）

危険であるという根拠が曖昧、消費者への情報提供が不十分、人体への影響が分からないとする意見が複数見られた。その他の意見としては、必要性が明確でないなどがあった。

(10) 器具・容器包装からの溶出化学物質について、不安を感じる理由（回答者数 10 名）

人体に影響がある、消費者への情報提供が不十分、法制度や管理体制が不十分とする意見が複数見られた。

⑤食品の安全性の観点から不安を感じていない理由（問 4b）

問 4b 問 3 において、「③あまり不安を感じない」、「④全く不安を感じない」を選択した食品や物質等についてお聞きします。選択した食品や物質等について不安を感じない理由を 1 つずつ選んでください。

- ◆ 「規格基準や表示等の規制が十分なされている」とする回答割合が高いのは、食品添加物 (52.7%)、農薬 (43.8%)、器具・容器包装からの溶出化学物質 (35.3%)、汚染物質（カドミウム、メチル水銀等） (34.6%)、家畜用抗生物質 (32.7%)
- ◆ 「科学的な根拠に納得」の回答割合が高いのは、遺伝子組換え食品 (48.2%)、体細胞クローン家畜由来食品 (47.4%)、BSE（牛海綿状脳症） (28.6%)
- ◆ 「事業者の法令順守や衛生管理が十分になされている」とする回答割合が高いのは、有害微生物（細菌・ウイルス・食中毒） (32.9%)
- ◆ いわゆる健康食品では「漠然とした安心」とする回答割合が高く (20.8%)、「規格基準や表示等の規制が十分なされている」 (18.1%)
- ◆ 一部の要因で、回答割合の高い不安を感じる理由と感じない理由に相対するものがあり、遺伝子組換え食品と体細胞クローン家畜由来食品では「科学的根拠」、器具・容器包装からの溶出化学物質では「規格基準や表示の規制」、有害微生物（細菌・ウイルス・食中毒）では「事業者の条例遵守や衛生管理」
- ◆ 不安を感じている理由と不安を感じていない理由を性別に比べてみると、「科学的な根拠に疑問・納得」について、ほぼすべての要因で、不安の有無にかかわらず、男性の方が女性より回答割合が高い。特に、遺伝子組換え食品、BSE（牛海綿状脳症）、体細胞クローン家畜由来食品、器具・容器包装からの溶出化学物質では、顕著な差

要因別の回答割合が高かった理由とその割合は次の通りであった。

「規格基準や表示等の規制が十分」は、「食品添加物」では 52.7%、「農薬」では 43.8%、「器具・容器包装からの溶出化学物質」では 35.3%、「汚染物質（カドミウム、メチル水銀等）」では 34.6%、「家畜用抗生物質」では 32.7%であった。ただし、前述の通り、「器具・容器包

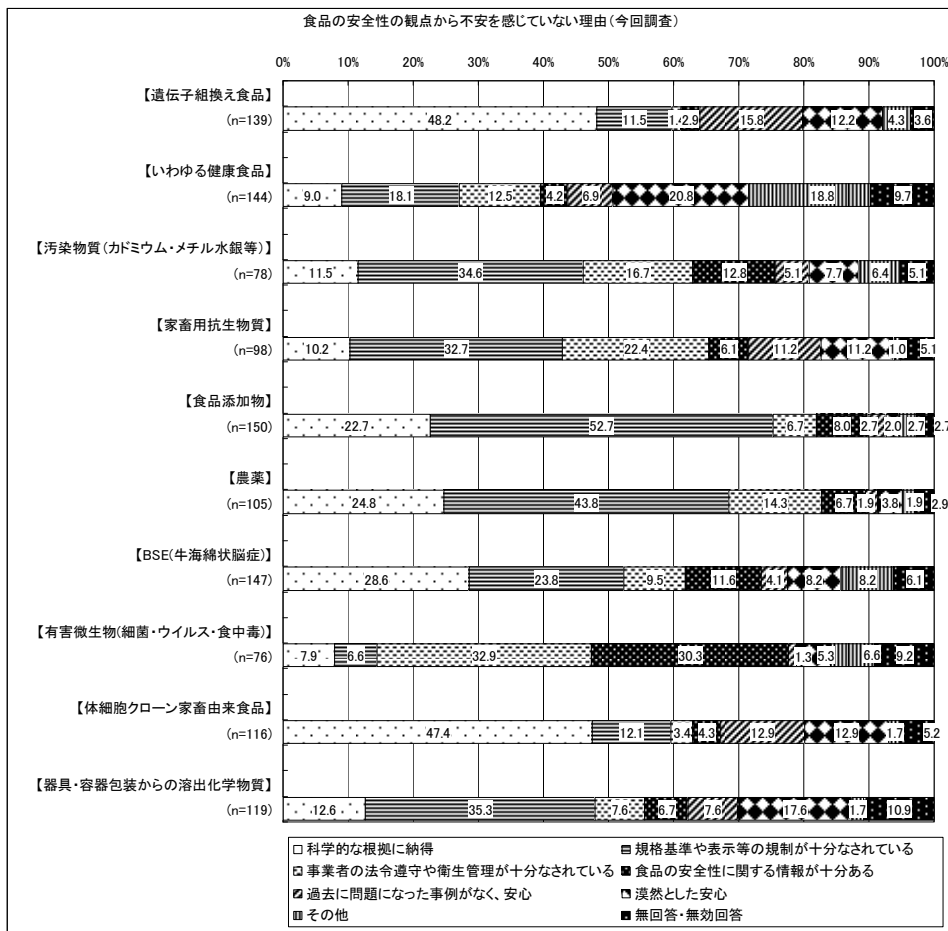
装からの溶出化学物質」は「規格基準や表示等の規制が不十分」なので、不安を感じるという回答割合も最も高かった。

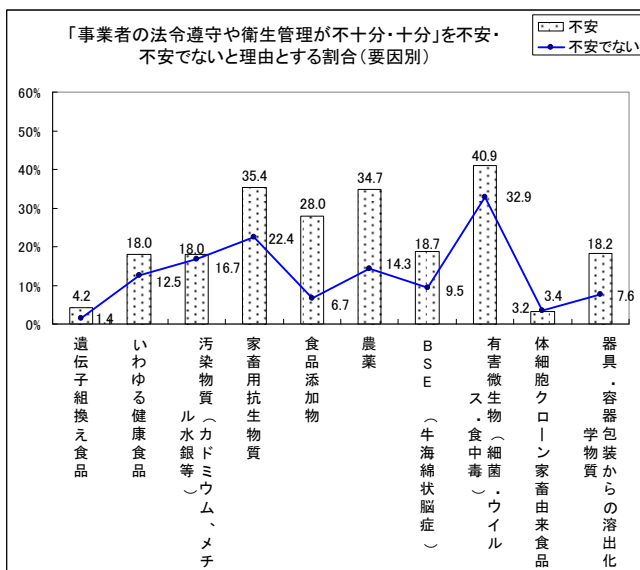
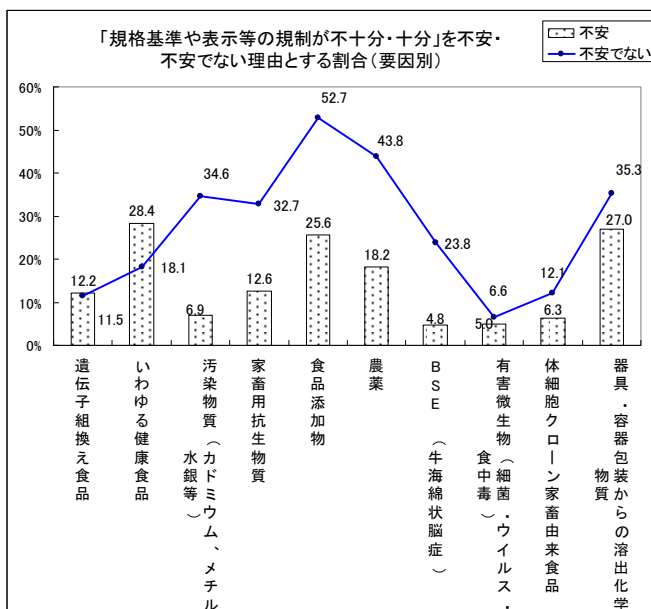
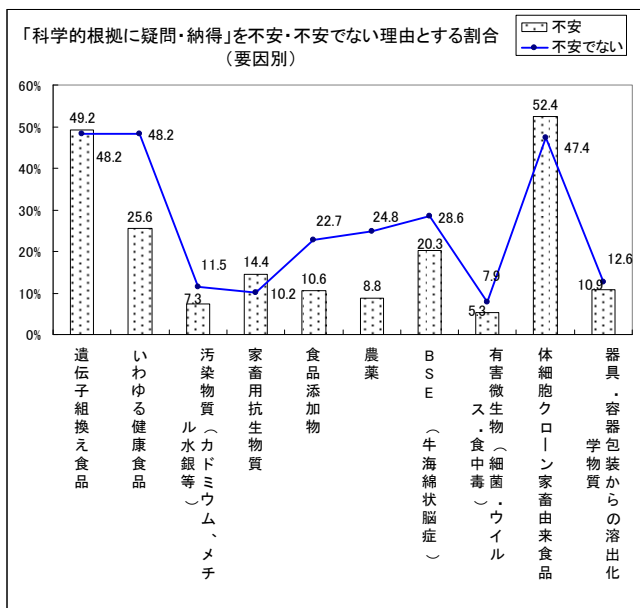
「科学的根拠に納得」は、「遺伝子組換え食品」では 48.2%、「体細胞クローン家畜由来食品」では 47.4%、「BSE（牛海綿状脳症）」では 28.6%あった。一方、前述の通り、「遺伝子組換え食品」、「体細胞クローン家畜由来食品」はともに、不安を感じる理由として「科学的根拠に疑問」とする回答割合が最も高かった。

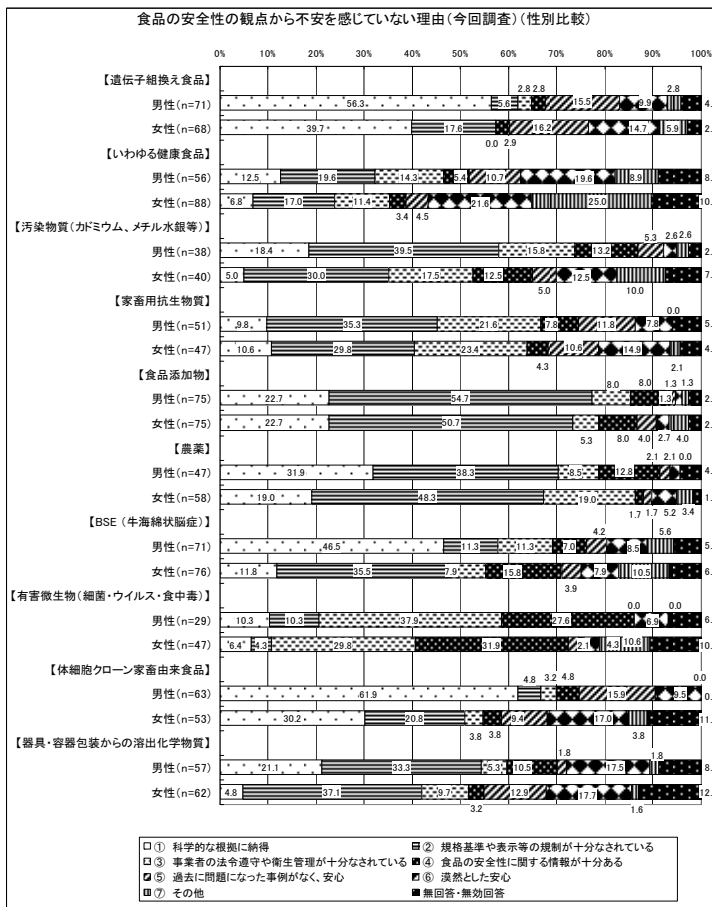
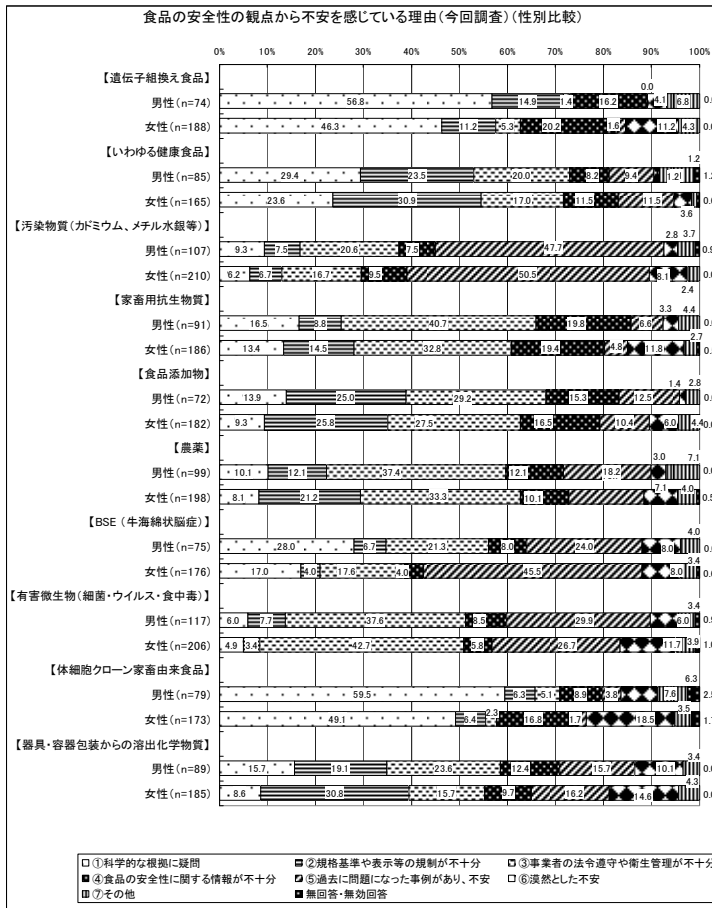
「事業者の法令遵守や衛生管理が十分」は、「有害微生物（細菌・ウイルス・食中毒）」では 32.9%、家畜用抗生物質では 22.4%であった。

「漠然とした安心」は、「いわゆる健康食品」では 20.8%であった。

不安を感じている理由と不安を感じていない理由について、性別に比べると、「科学的な根拠に疑問」、「科学的な根拠に納得」の回答割合は、ほぼすべての要因で男性の方が女性より高かった。特に遺伝子組換え食品、BSE（牛海面状態脳症）、体細胞クローン家畜由来食品では、顕著であった。遺伝子組換え食品について「科学的な根拠に疑問」の回答割合は、男性が 56.8%に対し、女性が 46.3%、「科学的な根拠に納得」は、男性が 58.3%、女性が 38.7%であった。BSE（牛海面状態脳症）について「科学的な根拠に疑問」の回答割合は、男性が 28.0%に対し、女性が 17.0%、「科学的な根拠に納得」は、男性が 46.5%、女性が 11.8%であった。体細胞クローン家畜由来食品について「科学的な根拠に疑問」の回答割合は、男性が 59.5%に対し、女性が 49.1%、「科学的な根拠に納得」は、男性が 61.9%、女性が 30.2%であった。







問4b: その他(具体的に記入してください)

- (1) 遺伝子組換え食品について、不安を感じない理由（回答者数 6 名）
遺伝子組換えは自然でも起こる、情報が無いとする意見が複数見られた。その他の意見としては、政府の安全基準を信頼などの意見があった。
- (2) いわゆる健康食品について、不安を感じない理由（回答者数 26 名）
健康食品を買わない・食べないとする意見が最も多く、その他の意見としては、自己責任である、政府の安全基準を信頼などの意見があった。
- (3) 汚染物質（カドミウム、メチル水銀等）について、不安を感じない理由（回答者数 5 名）
現在は管理できており問題ないとする意見が複数見られた。その他の意見としては、最近では汚染物質に関する報道を見ないなどの意見があった。
。
- (4) 家畜用抗生物質について、不安を感じない理由（回答者数 1 名）
政府の安全基準を信頼という意見であった。
- (5) 食品添加物について、不安を感じない理由（回答者数 4 名）
現在判明しているリスクは対応可能、食品表示を見て自分で選択できる、必要な添加物もある、政府の安全基準を信頼などの意見があった。
- (6) 農薬について、不安を感じない理由（回答者数 2 名）
安心できる場所から購入、政府の安全基準を信頼という意見であった。
- (7) BSE（牛海綿状脳症）について、不安を感じない理由（回答者数 12 名）
牛肉をほとんど食べない、BSE（牛海綿状脳症）の発症例が少ないとする意見が複数見られた。その他の意見としては、不安をあおりすぎている、最近では BSE（牛海綿状脳症）に関する報道を見ない、社会に BSE（牛海綿状脳症）に関する知識が浸透、人には感染しないと聞いたなどがあった。
- (8) 有害微生物（細菌・ウイルス・食中毒）について、不安を感じない理由（回答者数 4 名）
適切な衛生管理によりある程度は予防可能とする意見が複数見られた。その他の意見としては、社会に有害微生物に関する知識が浸透しているなどがあった。
- (9) 体細胞クローン家畜由来食品について、不安を感じない理由（回答者数 2 名）
政府の安全基準を信頼、まだ一般に出回っていないという意見であった。
- (10) 器具・容器包装からの溶出化学物質について、不安を感じない理由（回答者数 2 名）
政府の安全基準を信頼、日常的に多く使用されているという意見であった。
- (11) その他について、不安を感じない理由（回答者数 1 名）
食品添加物だけでなく薬品についても話題にすべきとの意見であった。

⑥食品の安全性の観点から不安を感じたきっかけ(問 5a)

問 5a 問 3 において、「①非常に不安である」又は「②ある程度不安である」を選択した食品や物質等についてお聞きします。選択した食品や物質について不安を感じるようになったきっかけは何ですか。あてはまるものを全て選んでください。

- ◆ 全ての要因で、「事件・事故のニュース・報道を見て」「否定的・警鐘的な論調に接して」「危険性・有害性を示すデータを見て」のいずれかが、回答割合の上位 3 位に含まれているが、BSE（牛海綿状脳症）、体細胞クローン家畜由来食品では、「危険性・有害性を示すデータを見て」に代わり、それぞれ「テレビで衝撃的な映像を見て」、「なんとなく」が 3 位
- ◆ 有害微生物（細菌・ウイルス・食中毒）では、「事件・事故のニュース・報道を見て」「危険性・有害性を示すデータを見て」が上位 2 位で、「身の回りで健康被害を受けた人がいる」が 3 位
- ◆ BSE（牛海綿状脳症）では、「テレビで衝撃的な映像を見て」とする回答割合が他の要因に比べて高い
- ◆ 食品の安全性の観点から不安を感じたきっかけとして、「なんとなく」という回答割合について、性別比較をすると、BSE（牛海綿状脳症）と有害微生物（細菌・ウイルス・食中毒）では、男性より女性の方が回答割合が高い
- ◆ 平成 20 年度インターネット調査との比較（遺伝子組換え食品、食品添加物、農薬、BSE（牛海綿状脳症））では、いずれもきっかけの回答割合上位「事件・事故のニュース・報道を見て」「否定的・警鐘的な論調に接して」「テレビで衝撃的な映像を見て」の順であり、今回調査に比べ「テレビで衝撃的な映像を見て」の順位が高い

「遺伝子組換え食品」、「食品添加物」、「農薬」、「いわゆる健康食品」、「汚染物質（カドミウム、メチル水銀等）」、「家畜用抗生物質」、「器具・容器包装からの溶出化学物質」について、食品の安全性の観点から不安を感じたきっかけの回答割合の上位 3 つは「事件・事故のニュース・報道を見て」、「危険性・有害性を示すデータを見て」、「否定的・警鐘的な論調に接して」であった。

「BSE（牛海綿状脳症）」、「体細胞クローン家畜由来食品」は、「事件・事故のニュース・報道を見て」、「危険性・有害性を示すデータを見て」が上位 2 位であり、「BSE（牛海綿状脳症）」の 3 位は「テレビで衝撃的な映像を見て」、「体細胞クローン家畜由来食品」の 3 位は「なんとなく」であった。

「有害微生物（細菌・ウイルス・食中毒）」は、「事件・事故のニュース・報道を見て」、「危険性・有害性を示すデータを見て」が 2 位であり、「身のまわりで健康被害を受けた人がいる」が 3 位であった。

「テレビで衝撃的な映像を見て」は、「BSE（牛海綿状脳症）」で 29.1%と最も高く、次いで「汚染物質（カドミウム、メチル水銀等）」が 22.1%、「農薬」が 18.9%と続く。

食品の安全性の観点から不安を感じたきっかけとして「なんとなく」という回答割合は、「BSE（牛海綿状脳症）」と「有害微生物（細菌・ウイルス・食中毒）」以外は、女性より男性の方が回答割合が高かった。

平成 20 年度インターネット調査では、遺伝子組換え食品、食品添加物、農薬、BSE（牛海綿状脳症）について調査を行ったが、「事件・事故のニュース・報道を見て」、「否定的・

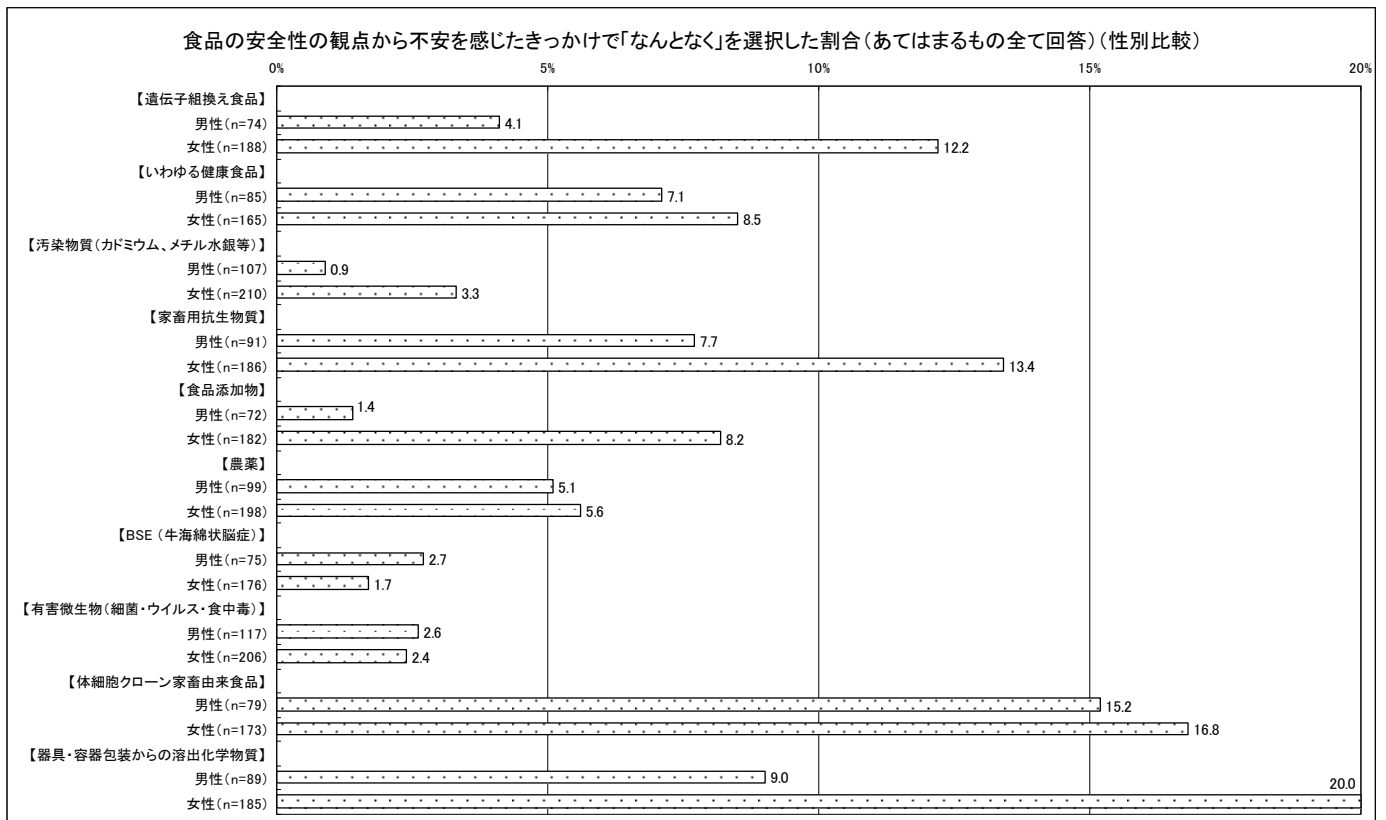
警鐘的な論調に接して、「テレビで衝撃的な映像を見て」、「危険性・有害性を示すデータを見て」の順に回答割合は高かった。

問5 a 食品の安全性の観点から不安を感じたきっかけ (単位: %)

(今回調査・あてはまるもの全て回答)

	自分が健康被害を受けたことがある	身のわりで健康被害を受けた人がある	事件・事故のニュース・報道を見て	危険性・有害性を示すデータを見て	否定的・警鐘的な論調に接して	テレビなどで衝撃的な映像を見て	学校の授業を受けて	講習会・セミナー等に参加して	国や研究機関などの報告を見て	家族や知人などから話を聞いて	なんとなく	その他	無回答・無効回答
遺伝子組換え食品	0.0	0.4	22.1	19.1	54.6	8.4	3.4	13.4	5.0	2.3	9.9	6.5	1.9
いわゆる健康食品	2.0	8.8	51.6	15.2	31.2	8.4	4.0	10.4	9.2	6.4	8.0	7.5	1.6
汚染物質(カドミウム・メチル水銀等)	0.6	4.4	52.4	32.5	23.3	22.1	13.6	6.6	10.7	1.3	2.5	1.9	1.6
家畜用抗生物質	0.0	0.4	25.6	23.1	39.0	9.4	3.2	10.8	4.7	6.1	11.6	4.3	1.4
食品添加物	0.8	5.5	27.2	36.6	37.8	9.8	10.6	16.9	5.5	7.9	6.3	4.7	0.8
農薬	1.0	7.7	44.4	31.3	32.0	18.9	7.7	13.1	3.4	5.1	5.4	2.7	1.7
BSE(牛海綿状脳症)	0.0	0.0	61.0	18.3	32.7	29.1	2.8	6.8	12.0	3.2	2.0	1.2	1.6
有害微生物(細菌・ウイルス・食中毒)	11.1	21.7	58.5	23.5	16.4	11.1	8.7	16.1	10.2	4.0	2.5	1.9	2.8
体細胞クローン家畜由来食品	0.0	0.4	25.8	15.1	49.2	12.3	2.4	8.7	6.0	1.6	16.3	4.4	2.4
器具・容器包装からの溶出化学物質	1.1	1.8	28.5	29.2	28.1	7.7	4.4	11.3	5.8	4.7	16.4	4.7	4.0

食品の安全性の観点から不安を感じたきっかけで「なんとなく」を選択した割合(あてはまるもの全て回答)(性別比較)



問5 a 食品の安全性の観点から不安を感じたきっかけ（単位：％）

（今回調査と平成20年度インターネット調査の比較・あてはまるもの全て回答）

	自分自身が健康被害を受けたことがある	身のまわりで健康被害を受けた人がある	事件・事故のニュース・報道を見て	危険性・有害性を示すデータを見て	否定的・警鐘的な論調に接して	テレビなどで衝撃的な映像を見て	学校の授業を受けて	講習会・セミナー等に参加して	国や研究機関などからの勧告を見て	家族や知人などから話を聞いて	なんとなく
①遺伝子組換え食品『今回調査(n=262)』	0.0	0.4	22.1	19.1	54.6	8.4	3.4	13.4	5.0	2.3	9.9
①遺伝子組換え食品『平成20年度インターネット調査』	0.2	0.4	44.9	19.9	35.0	31.5	0.3	2.3	2.9	13.8	7.1
②食品添加物『今回調査』	0.8	5.5	27.2	36.6	37.8	9.8	10.6	16.9	5.5	7.9	6.3
②食品添加物『平成20年度インターネット調査(n=1583)』	1.3	2.5	65.9	22.7	39.0	28.4	2.4	3.4	4.5	18.5	11.6
③農薬『今回調査(n=297)』	1.0	7.7	44.4	31.3	32.0	18.9	7.7	13.1	3.4	5.1	5.4
③農薬『平成20年度インターネット調査(n=1740)』	0.5	1.8	89.8	31.8	43.3	35.9	1.0	3.0	4.1	8.4	4.4
④BSE(牛海綿状脳症)『今回調査』	0.0	0.0	61.0	18.3	32.7	29.1	2.8	6.8	12.0	3.2	2.0
④BSE(牛海綿状脳症)『平成20年度インターネット調査(n=1417)』	0.3	1.0	82.7	23.6	42.7	35.8	0.3	1.1	2.9	7.9	4.6

問5 a：その他（具体的に記入してください）

（1）遺伝子組換え食品について、不安を感じるようになったきっかけ（回答者数 17名）

食品として無害であるという確証がないから、自然のものではないであるとする意見が複数見られた。その他の意見としては、欧州で禁止されている、インターネットを見てなどがあった。

（2）いわゆる健康食品について、不安を感じるようになったきっかけ（回答者数 18名）

各種メディアによる過大広告、健康食品に関係する事業者が悪質、根拠がないとする意見が複数見られた。その他の意見としては、ある特定の栄養素だけの健康食品から摂るのは危険などがあった。

- (3) 汚染物質（カドミウム、メチル水銀等）について、不安を感じるようになったきっかけ（回答者数 6 名）
実際に公害病が発生している、情報不足であるとする意見が複数見られた。
- (4) 家畜用抗生物質について、不安を感じるようになったきっかけ（回答者数 12 名）
情報不足である、人体への影響が分からない、実際の使用事例を知ってとする意見が複数見られた。その他の意見としては、海外の事業者が信用できない、動物用は軽視されがちなどがあった。
- (5) 食品添加物について、不安を感じるようになったきっかけ（回答者数 12 名）
事業者のモラルに問題があった、輸入品における基準が曖昧とする意見が複数見られた。その他の意見としては、複合的な摂取への安全検証が十分でない、環境ホルモンなどがあった。
- (6) 農薬について、不安を感じるようになったきっかけ（回答者数 7 名）
農薬の使用が適正でない、輸入品の基準が曖昧とする意見が複数見られた。
- (7) BSE（牛海綿状脳症）について、不安を感じるようになったきっかけ（回答者数 3 名）
国の対応と検査体制、根拠がない、輸入禁止になったという意見であった。
- (8) 有害微生物（細菌・ウイルス・食中毒）について、不安を感じるようになったきっかけ（回答者数 4 名）
食品事業者等が取り扱いを誤ればいつでも食中毒になる、耐性を持った強力な微生物が出現、発生時の原因が究明できていない、目にみえにくいものだからという意見であった。
- (9) 体細胞クローン家畜由来食品について、不安を感じるようになったきっかけ（回答者数 11 名）
安全であるという根拠がない、自然のものではない、情報不足とする意見などが複数見られた。
- (10) 器具・容器包装からの溶出化学物質について、不安を感じるようになったきっかけ（回答者数 11 名）
溶出物質に関する研究や検査が十分でない、においや味など溶出化学物質の存在を実際に経験したとする意見が複数見られた。その他の意見としては、容器などは軽視されがち、問題なく管理できているという情報を見たことがない、などの意見があった。

⑦食品の安全性の観点から不安を感じた情報(問 5b)

問 5b 問 3 において、「①非常に不安である」又は「②ある程度不安である」を選択した食品や物質等についてお聞きします。選択した食品や物質について不安を感じたのは、どのような情報源からですか。あてはまるものを全て選んでください。

- ◆ 食品添加物以外は「テレビ：ニュース・報道番組」の回答割合が最も高く、食品添加物は「書籍」が最も高い
- ◆ その他の主な情報としては、「書籍」「テレビ：ワイドショー・情報番組」「新聞」が上位である
- ◆ 今回調査と平成 20 年度インターネット調査との比較（遺伝子組換え食品、食品添加物、農薬、BSE（牛海綿状脳症））では、遺伝子組換え食品、食品添加物、農薬、BSE（牛海綿状脳症）のいずれも回答割合の順位に相違があり、平成 20 年度インターネット調査では、いずれも回答割合は「テレビ：ニュース・報道番組」「新聞」「テレビ：ワイドショー・情報番組」の順

「食品添加物」を除く全ての要因について、食品の安全性の観点から不安を感じたきっかけの回答割合は「テレビ：ニュース・報道番組」が最も高く 31.4%から 72.1%、次いで「新聞」が高く回答割合は 38.7%から 22.0%となっている。「食品添加物」は「書籍」が最も多く 37.4%で、次いで「テレビ：ニュース・報道番組」の 26.4%であった。

「遺伝子組換え食品」、「家畜用抗生物質」、「食品添加物」、「農薬」、「有害物質（細菌・ウイルス・食中毒）」、「器具・容器包装からの溶出物質」の回答割合の 3 位は「書籍」であり、回答割合から 16.8%から 24.9%であった。なお、「農薬」は「テレビ：ドキュメンタリー番組」も同率で 3 位であった。

「BSE（牛海綿状脳症）」、「体細胞クローン家畜由来食品」の回答割合の 3 位は「テレビ：ワイドショー・情報番組」であり、回答割合はそれぞれ 23.1%、23.0%であった。

「いわゆる健康食品」の回答割合の 3 位は、「テレビ：ワイドショー・情報番組」であり回答割合は 23.6%、「汚染物質（カドミウム、メチル水銀等）」では「テレビ：ワイドショー・情報番組」であり 33.1%であった。

平成 20 年度インターネット調査では遺伝子組換え食品、食品添加物、農薬、BSE（牛海綿状脳症）について調査を行ったが、全ての要因について、食品の安全性の観点から不安を感じたきっかけの回答割合の順位は、「テレビ：ニュース・報道番組」、「新聞」、「テレビ：ワイドショー・情報番組」であった。今回調査とは、食品添加物以外では、第 1 位と第 2 位の「テレビ：ニュース・報道番組」、「新聞」は同じ結果であったが、第 3 位は異なる。

問5 b ①食品の安全性の観点から不安を感じた情報（単位：％）

（今回調査・あてはまるもの全て回答）

	テレビ：ニュース・報道番組	テレビ：ワイドショー・情報番組	テレビ：ドキュメンタリー番組	ラジオ	新聞	雑誌	書籍	インターネット上のニュースサイト	インターネット上のコミュニティサイト（SNS等）	個人のブログ	行政（国、地方自治体等）	生産者・食品メーカー	スーパー・小売店	生協などの協同組合	大学・研究機関・研究者	学校（幼稚園、小学、中学校、高校）	病院	NPO・消費者団体	家族・知人	その他	特になし	無回答・無効回答
遺伝子組換え食品	40.8	16.0	19.1	2.3	27.9	13.4	21.0	4.6	1.1	0.8	5.3	2.3	1.1	11.1	9.5	0.8	0.8	7.3	3.1	2.3	1.1	6.1
いわゆる健康食品	46.0	23.6	12.0	3.2	28.0	14.0	13.6	7.6	1.6	0.8	11.2	4.0	1.2	3.6	14.0	1.2	1.6	3.2	9.2	2.8	1.2	4.0
汚染物質（カドミウム、メチル水銀等）	47.3	16.1	33.1	3.5	33.4	10.4	20.2	3.8	0.6	0.3	8.5	1.3	0.6	2.2	15.8	8.8	0.6	2.8	2.2	1.3	1.3	5.0
家畜用抗生物質	31.4	14.1	15.9	2.2	22.0	15.5	18.1	5.1	1.4	0.4	6.9	2.9	1.4	7.9	9.7	1.8	1.1	5.4	5.4	1.1	3.2	5.8
食品添加物	26.4	14.2	14.6	2.8	24.4	19.3	37.4	3.1	1.2	0.4	9.1	4.7	1.2	12.6	16.1	3.5	0.4	6.7	8.3	0.4	2.0	3.5
農薬	44.8	18.2	24.9	2.7	30.3	15.5	24.9	4.7	2.0	1.0	7.7	5.7	1.3	8.4	11.1	4.0	0.3	5.7	6.7	1.0	2.4	4.4
BSE（牛海綿状脳症）	72.1	22.3	23.1	4.4	34.7	10.4	15.1	5.6	1.6	0.4	8.0	0.8	1.2	3.2	9.6	1.2	0.4	4.0	2.4	0.0	0.0	5.6
有害微生物（細菌・ウイルス・食中毒）	52.0	13.9	13.9	4.3	38.7	9.6	18.3	6.2	0.9	0.3	18.6	3.7	0.6	2.8	17.0	2.5	4.6	4.0	9.6	3.1	0.9	5.3
体細胞クローン家畜由来食品	46.0	19.8	23.0	3.6	30.6	16.3	13.1	6.0	1.2	0.4	7.1	0.8	0.8	6.3	6.7	1.2	0.4	6.3	2.8	2.4	5.6	5.6
器具・容器包装からの溶出化学物質	34.3	13.5	13.1	1.8	22.6	15.7	16.8	5.8	1.8	0.4	6.6	2.6	1.8	6.2	11.3	2.6	0.4	6.9	5.1	2.6	5.8	6.6

問5b ②食品の安全性の観点から不安を感じた情報（単位：％）

（今回調査と平成20年度インターネット調査の比較・あてはまるもの全て回答）

	テレビ：ニュース・報道番組	テレビ：ワイドショー・情報番組	テレビドキュメンタリー番組	ラジオ	新聞	雑誌	書籍	インターネット上のニュースサイト	インターネット上のコミュニティサイト（SNS等）	個人のブログ	行政（国、地方自治体等）	生産者・食品メーカー	スーパー・小売店	生協などの協同組合	大学・研究機関・研究者	学校（幼稚園、小・中学校、高校）	病院	NP〇・消費者団体	家族・知人	その他	特になし	無回答・無効回答
①遺伝子組換え食品『今回調査（n=262）』	40.8	16.0	19.1	2.3	27.9	13.4	21.0	4.6	1.1	0.8	5.3	2.3	1.1	11.1	9.5	0.8	0.8	7.3	3.1	2.3	1.1	6.1
①遺伝子組換え食品『平成20年度インターネット調査（n=1246）』	56.1	31.9	21.5	2.6	32.8	9.8	3.5	10.4	2.0	0.8	2.3	5.8	2.4	5.8	1.6	0.2	0.6	2.2	4.8	1.0	23.9	0.0
②食品添加物『今回調査（n=254）』	26.4	14.2	14.6	2.8	24.4	19.3	37.4	3.1	1.2	0.4	9.1	4.7	1.2	12.6	16.1	3.5	0.4	6.7	8.3	0.4	2.0	3.5
②食品添加物『平成20年度インターネット調査（n=1583）』	64.5	38.0	22.5	4.3	38.2	12.2	4.7	14.7	2.0	1.8	2.7	10.1	3.2	10.4	2.0	1.1	1.5	2.1	7.5	0.8	16.7	0.0
③農薬『今回調査（n=297）』	44.8	18.2	24.9	2.7	30.3	15.5	24.9	4.7	2.0	1.0	7.7	5.7	1.3	8.4	11.1	4.0	0.3	5.7	6.7	1.0	2.4	4.4
③農薬『平成20年度インターネット調査（n=1740）』	87.4	46.3	26.0	5.6	51.2	10.1	7.1	25.5	2.5	1.6	3.6	7.6	3.9	7.7	2.5	0.3	1.5	2.9	7.6	0.5	5.5	0.0
④BSE（牛海綿状脳症）『今回調査（n=251）』	72.1	22.3	23.1	4.4	34.7	10.4	15.1	5.6	1.6	0.4	8.0	0.8	1.2	3.2	9.6	1.2	0.4	4.0	2.4	0.0	0.0	5.6
④BSE（牛海綿状脳症）『平成20年度インターネット調査（n=1417）』	81.8	42.3	31.3	3.2	46.2	9.7	3.3	15.1	1.6	1.1	2.2	4.8	2.3	4.9	1.6	0.1	0.8	1.8	3.7	0.1	10.2	0.0

問5b：その他（具体的に記入してください）

（1）遺伝子組換え食品について、不安を感じた情報（回答者数4名）

食品に表示されるようになってからなどの意見があった。

- (2) いわゆる健康食品について、不安を感じた情報（回答者数 6 名）
各種メディアによる広告という意見が複数見られた。その他の意見としては、自分が摂取してみてもよかった。
- (3) 汚染物質（カドミウム、メチル水銀等）について、不安を感じた情報（回答者数 4 名）
公害についての歴史の教科書、食品衛生法、ホームページなどの意見があった。
- (4) 家畜用抗生物質について、不安を感じた情報（回答者数 2 名）
映画という意見があった。情報源が分かりにくいとする意見もあった。
- (5) 食品添加物について、不安を感じた情報（回答者数 0 名）
回答者はその他を選択したが、回答欄に記載なし。
- (6) 農薬について、不安を感じた情報（回答者数 3 名）
研修会講師などの意見があった。
- (7) BSE（牛海綿状脳症）について、不安を感じた情報（回答者数 0 名）
回答者なし。
- (8) 有害微生物（細菌・ウイルス・食中毒）について、不安を感じた情報（回答者数 9 名）
自分の業務を通してとする意見が最も多く、その他の意見としては、自分の体験、セミナーがあった。
- (9) 体細胞クローン家畜由来食品について、不安を感じた情報（回答者数 4 名）
食品安全委員会のリスクコミュニケーションなどの意見があった。
- (10) 器具・容器包装からの溶出化学物質について、不安を感じた情報（回答者数 4 名）
食品衛生法に関する講演や実物を触ってなどの意見があった。

⑧食品や物質等へのイメージ等(問6)

問6 問3の「食品や物質等」に掲げた10個(遺伝子組換え食品、いわゆる健康食品等)について、それぞれどのようにお考えですか。次に掲げる項目ごとに、選択肢の中からそれぞれ1つずつ選んでください。

- ◆ 今回調査と平成20年度インターネット調査の比較(遺伝子組換え食品、食品添加物、農薬、BSE)では、全ての要因で合意の回答割合に差が見られた
- ◆ 「国の安全基準が科学的な健康影響評価によって設定されている」「国など行政における安全管理施策・体制が確立されている」についての今回調査と平成20年度インターネット調査の比較では、今回調査の方が平成20年度インターネット調査より合意の回答割合は高く、今回調査の中でも食品添加物と農薬の回答割合は高く、遺伝子組換え食品は低い
- ◆ 「国の安全基準が科学的な健康影響評価によって設定されている」、「国など行政による安全管理施策・体制が確立している」、「生産者、食品の製造・流通過程の安全管理施策・体制が確立している」について、「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」の回答割合の合計(以下「合意の回答割合」という。)は、汚染物質、家畜用抗生物質、食品添加物、農薬、BSE、有害微生物、器具・容器包装からの溶出物質では、全ての項目で過半数以上
- ◆ 「人体に悪い影響を与える」、「事件・事故が発生したときの被害が大きい」、「事件・事故が発生する確率が高い」について、合意の回答割合が高いのは汚染物質、農薬、有害微生物で3つの項目で過半数以上、遺伝子組換え食品、家畜用抗生物質、食品添加物、BSE、体細胞クローン由来食品、器具・容器包装からの溶出物質は2つの項目で、いわゆる健康食品は1つの項目で過半数以上
- ◆ 「将来世代にまで健康に影響を及ぼす」、「摂取するたびに人体に蓄積されている」、「いったん健康に被害を受けると回復がむずかしい」の合意の回答割合が高いのは、汚染物質、家畜用抗生物質、食品添加物、農薬、BSE、体細胞クローン由来食品、器具・容器包装からの溶出物質は3つの項目で過半数以上、遺伝子組換え食品は2つの項目、いわゆる健康食品は1つの項目で過半数以上であったが、有害微生物は全てのイメージで過半数以下
- ◆ 「安全性を判断する材料が不十分」について、合意の回答割合が高い順は、体細胞クローン由来食品、遺伝子組換え食品、家畜用抗生物質、いわゆる健康食品、器具・容器包装からの溶出物質、BSE、農薬、汚染物質が過半数以上であり、続いて食品添加物、有害微生物

問6 食品や物質等へのイメージへの合意（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計
（単位：％） （注）太字は60%以上

設問項目	遺伝子組換え食品		食品添加物		農薬		BSE		いわゆる健康食品	汚染物質	家畜用抗生物質	有害微生物	体細胞クローン由来食品	器具・容器包装からの溶出物質
	今回調査	平成20年度インターネット調査	今回調査	平成20年度インターネット調査	今回調査	平成20年度インターネット調査	今回調査	平成20年度インターネット調査						
国の安全基準が科学的な健康影響評価によって設定されている	64.7	27.9	87.9	40.7	88.4	39.4	77.6	40.4	47.0	82.3	75.8	82.5	52.7	71.9
国など行政による安全管理施策・体制が確立されている	56.9	23.4	84.0	28.3	80.5	20.0	75.4	38.2	42.1	74.7	67.8	77.6	49.7	65.7
生産者、食品の製造流通過程の安全管理施策・体制が確立している	40.9	21.7	64.5	25.9	58.2	18.4	65.5	34.6	29.9	/	50.5	62.3	36.7	52.7
健康にどのような被害・影響があるのか知っている	33.3	22.8	67.3	39.6	69.4	57.4	72.9	69.4	42.6	80.5	43.3	81.1	23.9	49.8
どのようにすれば健康被害を回避できるか知っている	32.5	17.1	57.1	22.1	54.9	27.8	63.6	44.5	24.2	40.9	34.2	63.8	24.6	37.9
どのように安全管理されているか知っている	35.2	21.1	59.9	25.1	50.4	29.1	57.4	43.0	46.5	43.9	29.1	72.9	22.9	36.2
食品表示によって消費者の選択肢が確保されている	66.7	38.8	76.8	38.8	35.8	27.2	50.0	34.0	52.7	/	19.2	/	27.4	/
人体に悪い影響を与える	54.5	69.1	68.2	87.3	84.5	98.6	88.2	96.9	44.8	96.8	80.1	94.8	61.8	88.9
事件・事故が発生したときの被害が大きい	61.8	71.2	66.0	72.9	89.2	94.0	85.9	95.2	64.8	97.1	76.4	93.4	65.8	74.7
事故・事件が発生する確率が高い	35.7	52.7	38.4	56.1	55.2	81.4	44.5	80.6	43.9	62.6	40.9	78.3	40.4	43.1
科学的に未知、不確かなものである	71.9	83.5	35.2	68.5	34.5	61.4	58.9	74.2	64.8	29.6	45.8	30.3	75.4	45.1
得体が知れない	58.1	82.6	31.8	70.2	32.5	71.0	55.2	81.8	51.2	33.0	45.8	33.0	70.2	42.7
怖い、恐ろしい	48.3	67.4	35.7	68.2	55.6	89.4	69.9	93.2	36.2	80.5	56.9	64.0	65.5	52.5
将来世代にまで健康に影響を及ぼす	59.8	74.1	52.0	77.4	71.2	90.3	65.3	84.2	35.7	89.2	63.8	30.3	62.6	59.1
摂取するたびに人体に蓄積されている	44.3	62.7	68.7	85.5	76.1	95.7	62.8	80.7	48.3	96.3	70.0	24.4	50.7	76.1
いったん健康に被害を受けると回復がむずかしい	55.7	70.5	56.6	74.7	75.6	85.6	89.9	94.3	55.1	97.1	65.8	38.9	60.8	70.0
安全性を判断する材料が不十分	74.4	87.6	48.8	86.8	56.4	93.5	63.6	87.3	70.2	54.5	70.9	41.9	81.7	64.5
人工的・人為的である	91.3	95.2	87.7	94.2	88.7	94.4	61.1	74.2	83.8	77.1	88.9	36.9	92.9	87.7
自分の生活の中で役立っている	50.0	24.8	66.2	45.9	80.1	40.8	/	/	/	/	/	/	/	/
社会にとって有益なものである（体細胞クローン由来食品：畜産の分野以外にも実験用動物の生産手段、医薬品等の製造手段及び希少動物の保護、再生手段への利用が期待できる）	66.8	37.8	79.6	48.9	87.7	41.0	/	/	/	/	/	/	64.8	/
畜産の分野で、生産性や品質の向上等を目的とした家畜の改良を進めるための有効な手段の1つである	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	48.5	/
わずかでも健康に悪影響があるならば、一切禁止すべきである（BSEは、「牛肉は全てBSEに感染していないことを確認した上でなければ、一切流通させるべきではない）	62.1	68.0	49.5	55.2	43.6	52.3	67.2	83.1	/	/	/	/	/	/
健康への悪影響が生じる確率をゼロにすることはできない	83.2	79.5	89.1	88.0	89.0	87.9	77.4	70.2	/	/	/	/	/	/
メリットは認めるので、ある程度は受け入れることができる	61.9	47.6	81.8	68.0	59.6	45.6	/	/	/	/	/	/	/	/
国の法律・基準に則って認められているのであれば、〇〇（××を使用した食品）でも摂ることができる	49.0	38.2	74.9	59.6	74.7	54.4	67.2	50.5	/	/	/	/	/	/
多少高くても、〇〇でない食品を選ぶようにしている	69.2	70.7	62.5	65.5	60.4	67.7	/	/	/	/	/	/	/	/
子どもに対しては〇〇（××を使用した食品）は食べさせない（BSEは「子どもに対してはBSEの影響が心配なので、牛肉は食べさせない」）	70.2	74.9	64.0	71.2	55.2	73.4	19.7	34.0	/	/	/	/	/	/
国産のものであれば、〇〇かどうかは気にしない（BSE：国産牛肉であれば、BSEのことは気にせず食べている）	26.6	31.4	28.8	41.6	30.8	35.0	60.9	56.3	/	/	/	/	/	/
牛肉を購入する際、原産国を「気にして購入している	/	/	/	/	/	/	84.7	84.6	/	/	/	/	/	/
BSE騒動以来、牛肉を食べる頻度が少なくなった	/	/	/	/	/	/	43.6	52.7	/	/	/	/	/	/

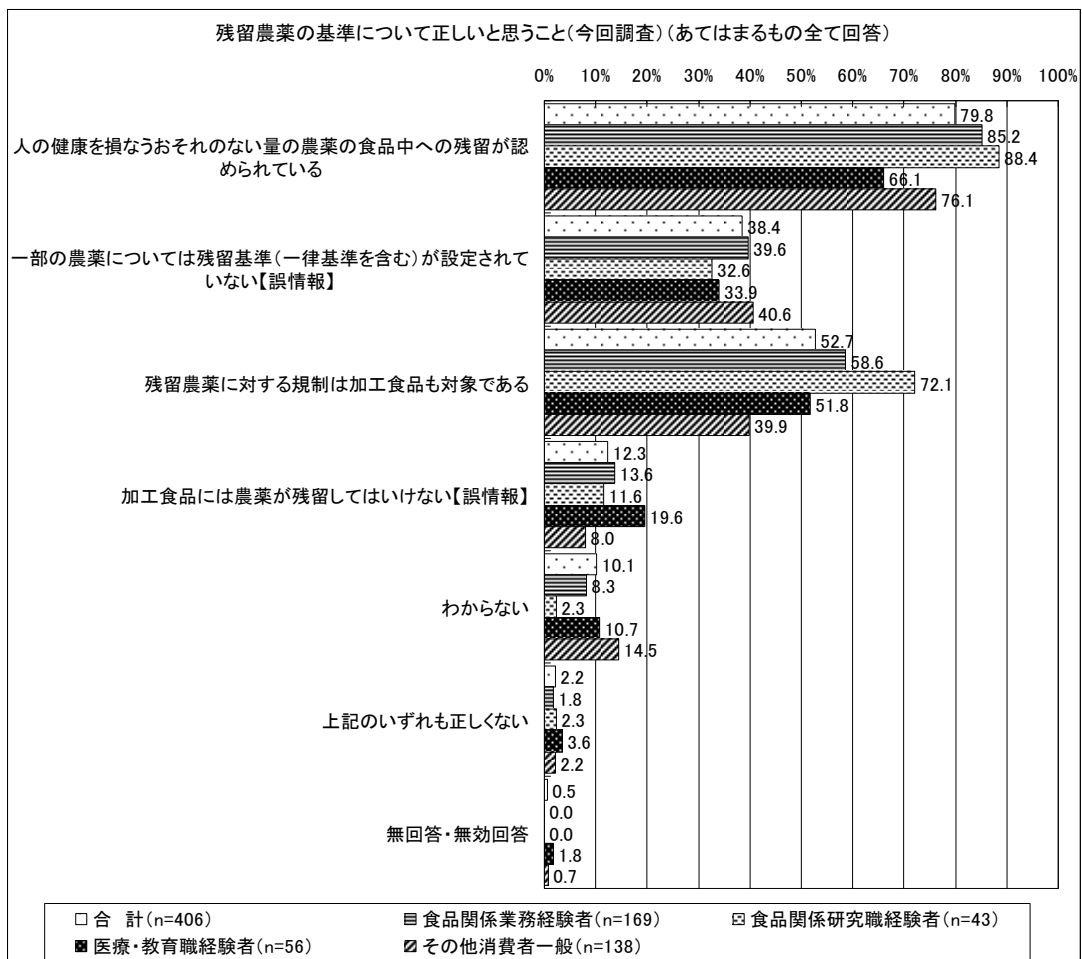
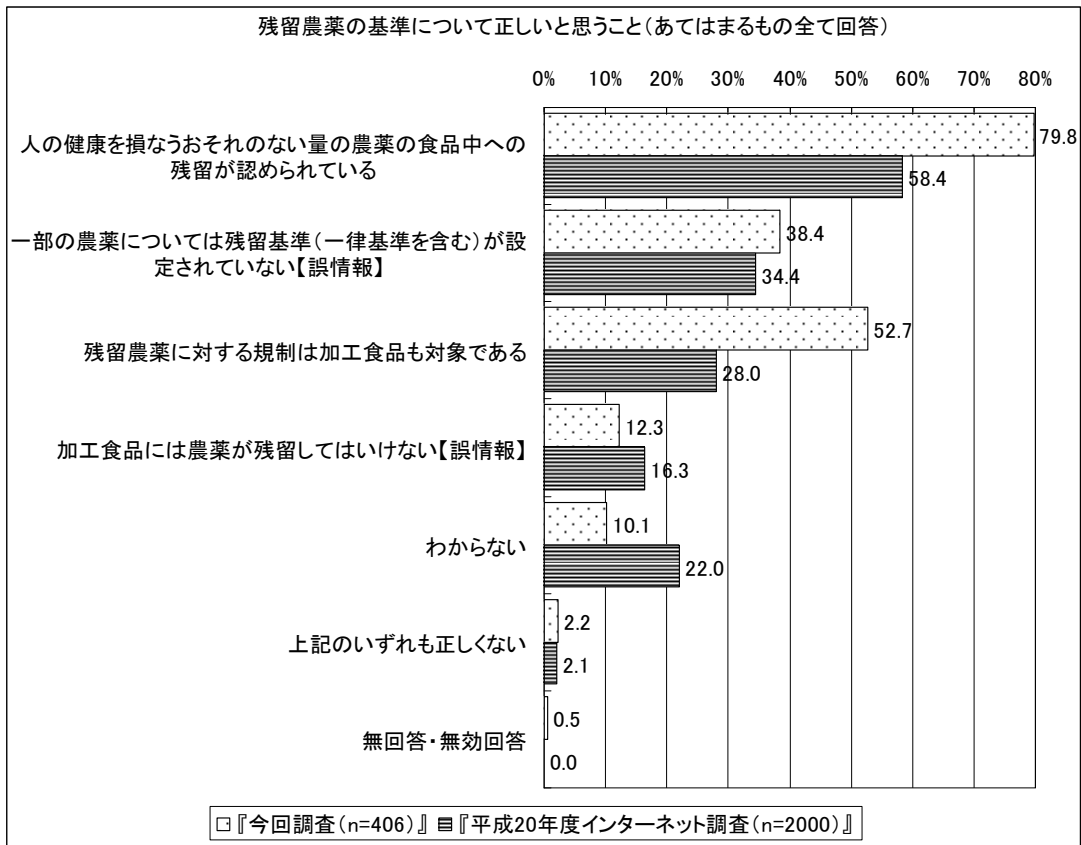
⑨残留農薬の基準について正しいと思うこと(問7)

問7 食品中に残留する農薬の基準について、正しいと思うものを全て選んでください。

- ◆ 正しい認識をしている回答割合は、「人の健康を損なうおそれのない量の農薬の食品中への残留が認められている」は今回調査では79.8%、平成20年度インターネット調査では58.4%、「残留農薬に対する規制は加工食品も対象である」は今回調査では52.7%、平成20年度インターネット調査では28.0%
- ◆ 誤った認識をしている回答割合は、「一部の農薬については、残留基準(一律基準を含む)が設定されていない」は今回調査では38.4%、平成20年度インターネット調査では34.4%、「加工食品には農薬が残留してはいけない」は今回調査では12.3%、平成20年度インターネット調査では16.3%
- ◆ 職務経験別に比較すると、食品関係研究職経験者では他の職務区分に比べて、「人の健康を損なうおそれのない量の農薬の食品中への残留が認められている」、「残留農薬に対する規制は加工食品も対象である」の正しいものについての回答割合がそれぞれもっとも高く、また誤ったものについての回答割合は「一部の農薬については、残留基準(一律基準を含む)が設定されていない」では最も低く、「加工食品には農薬が残留してはいけない」では2番目に低く、農薬に関して正しい認識は比較的多い

正しい認識をしている回答割合は、「人の健康を損なうおそれのない量の農薬の食品中への残留が認められている」では今回調査は79.8%、平成20年度インターネット調査は58.4%、「残留農薬に対する規制は加工食品も対象である」では今回調査は52.7%、平成20年度インターネット調査は28.0%であった。誤った認識をしている回答割合は、「一部の農薬については、残留基準(一律基準を含む)が設定されていない」では今回調査は38.4%、平成20年度インターネット調査は34.4%、「加工食品には農薬が残留してはいけない」では今回調査は12.3%、平成20年度インターネット調査は16.3%であった。

職務経験別では、正しい認識である「人の健康を損なうおそれのない量の農薬の食品中への残留が認められている」の回答割合が88.4%、「残留農薬に対する規制は加工食品も対象である」では72.1%であり最も回答割合が高かった。また誤った認識である「一部の農薬については、残留基準(一律基準を含む)が設定されていない」では32.6%で最も低い回答割合であり、「加工食品には農薬が残留してはいけない」では2番目に低い11.6%であった。



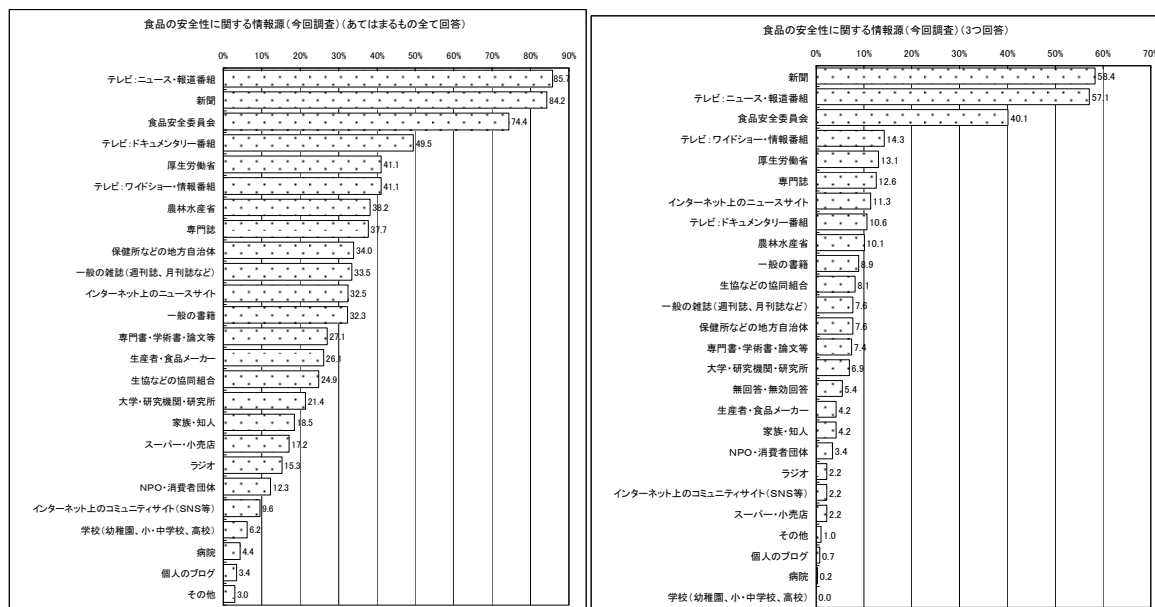
2) 食品の安全性に関する情報源について

①食品の安全性に関する情報源（問8）

問8 あなたは、食品の安全性に関する情報をどこから得ていますか。あなたが情報を得ているものを全て選んでください。また、情報を多く得ている先から順に3つ選んでください。

- ◆ 今回調査では、食品の安全性に関する情報源の回答割合の高かった順は、「テレビ：ニュース・報道番組」(85.7%)、「新聞」(84.2%)、「食品安全委員会」(74.4%)
- ◆ 食品の安全性に関する情報源の上位3つに限定した回答割合は、「新聞」(58.4%)、「テレビ：ニュース・報道番組」(57.1%)、「食品安全委員会」(40.1%)の順で、その他の情報源の回答割合とは大きな差

今回調査では、食品の安全性に関する情報源について、あてはまるもの全てを選択する設問では、「テレビ：ニュース・報道番組」とする回答割合が最も多く85.7%、次いで「新聞」の84.2%、「食品安全委員会」の74.4%となっている。回答を上位3つに限定した場合は、「新聞」58.4%、「テレビ：ニュース・報道番組」57.1%、「食品安全委員会」40.1%となる。



問8：その他（具体的に記入してください）（回答者数12名）

食品の安全性に関する情報源としては、インターネットサイトから得ているという意見が最も多く、その他の意見としては、国の研究所や業界団体などの専門機関、セミナーや会議、教科書出版社の発行する書籍などがあつた。

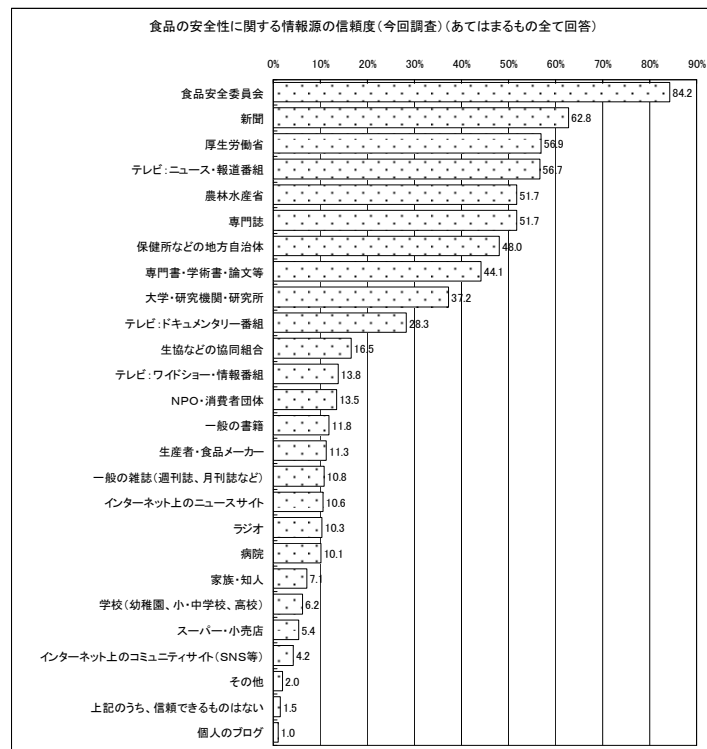
②食品の安全性に関する情報源の信頼度（問9）

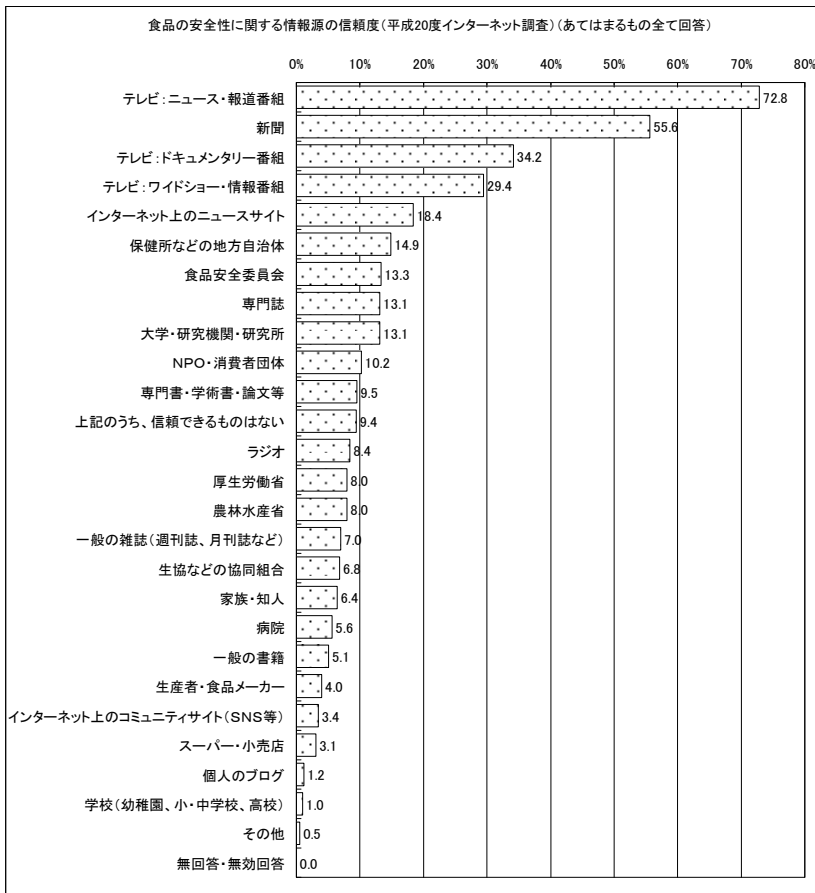
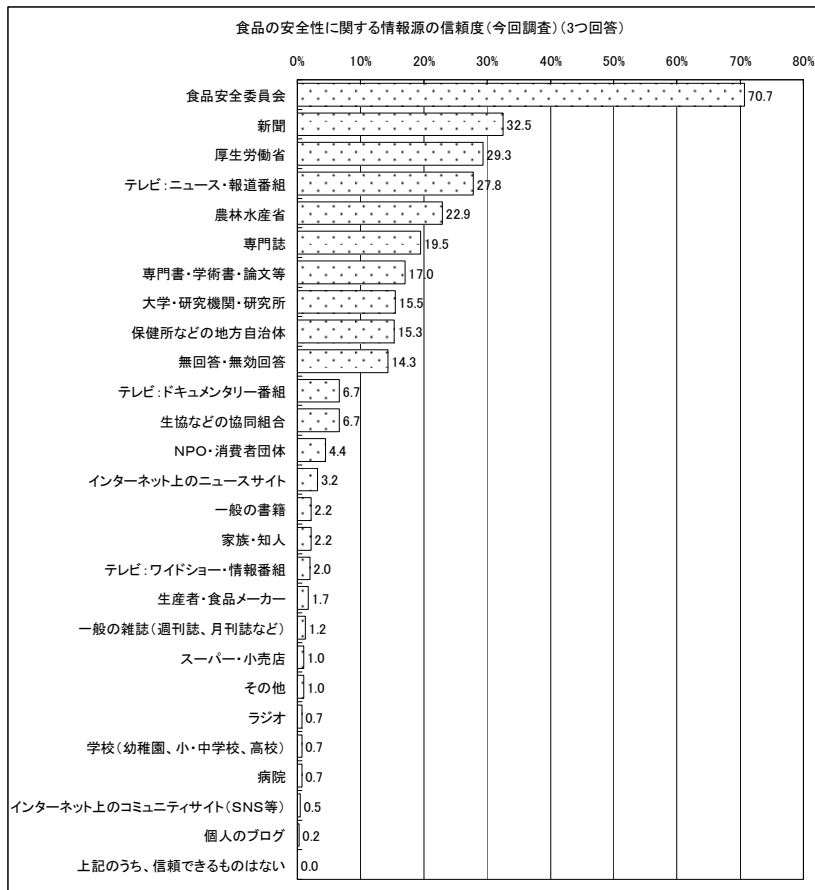
問9 食品の安全性に関する情報を得る場合、次に掲げるメディアや機関・団体等の情報について、あなたが信頼できるものを全て選んでください。また、その中から信頼できる順に3つ選んでください。

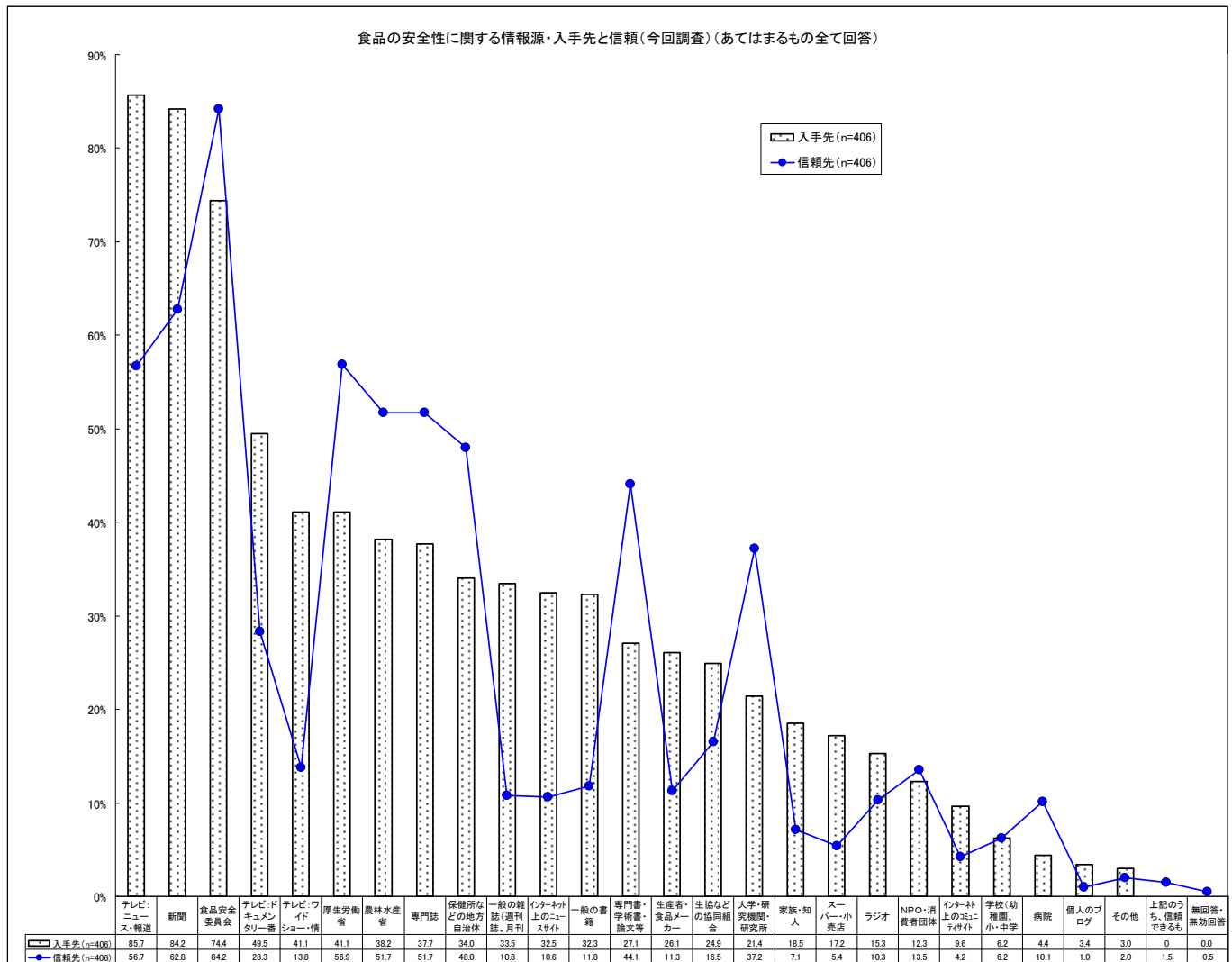
- ◆ 今回調査では、食品の安全性に関する情報の入手先の信頼度の回答割合の高かった順は、「食品安全委員会」（84.2%）、「新聞」（62.8%）、「厚生労働省」（56.9%）
- ◆ 食品の安全性に関する情報源の上位3つに限定した回答割合も「食品安全委員会」、「新聞」、「厚生労働省」の順であり、「食品安全委員会」のみ突出
- ◆ 平成20年度インターネット調査では、「テレビ：ニュース・報道番組」（72.8%）、「新聞」（55.6%）、「テレビ：ドキュメンタリー番組」（34.2%）の順
- ◆ 問8の食品の安全性に関する情報源と問9の情報源の信頼度について、今回調査では、情報源としては3位であった「食品安全委員会」が信頼度の1位、情報源の2位であった「新聞」が信頼度の2位、情報源の1位であった「テレビ：ニュース・報道番組」が信頼度の3位

今回調査では、食品の安全性に関する情報源の信頼できるものについて、あてはまるもの全てを選択する設問では、「食品安全委員会」とする回答割合が最も多く84.2%、次いで「新聞」の82.8%、「厚生労働省」の56.8%となっている。回答を上位3つに限定した場合も同様の順位であり、「食品安全委員会」のみ突出した結果であった。

問8の食品の安全性に関する情報源と問9の信頼できるものの結果を一緒に見ると、上位3位にあがっているものは同じであったが、情報源の3位であった「食品安全委員会」が信頼度の1位であり、信頼度の2位は情報源2位の「新聞」、信頼度の3位は情報源の1位の「テレビ：ニュース・報道番組」であった。







問9：その他（具体的に記入してください）（回答者数8名）

食品の安全性の観点から信頼できる情報源については、国の研究所や業界団体などの専門機関が信頼できるとする意見が最も多く、その他、信じられるものがないなどの意見もあった。

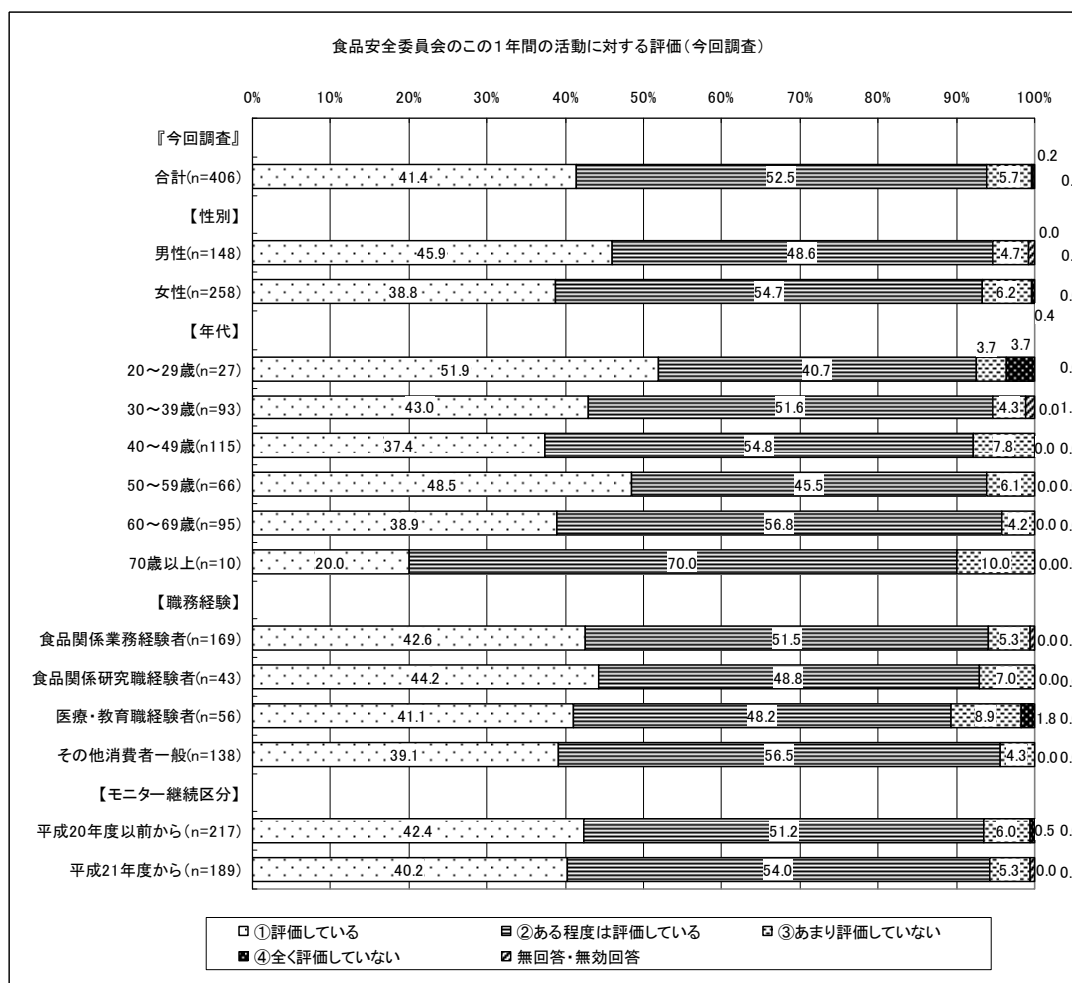
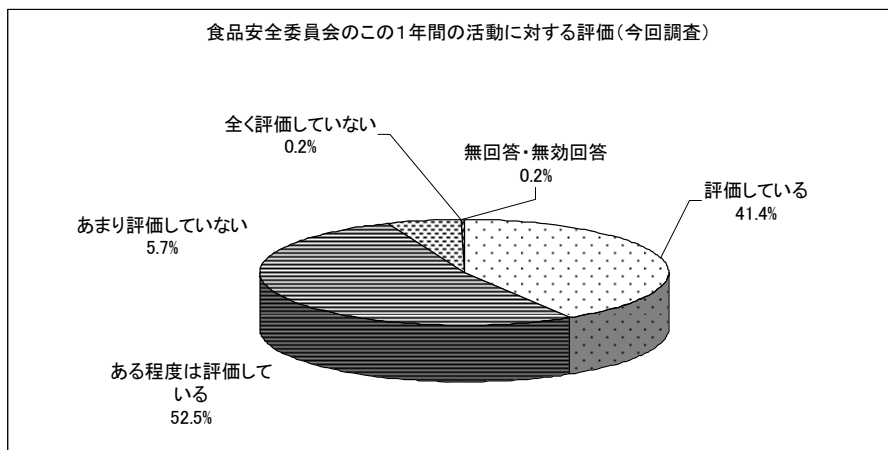
3) 食品の安全性の確保について

① 食品安全委員会のこの1年間の活動に対する評価 (問10)

問10 あなたは、食品安全委員会のこの1年間の活動を評価していますか。1つ選んでください。

- ◆ 「評価している」「ある程度評価している」とする回答割合は 93.9%
- ◆ 属性別による回答割合で目立ったものはない

「評価している」とする回答割合は 41.5%、「ある程度は評価している」とする回答割合は 52.6%であり、合計すると 94.1%であった。



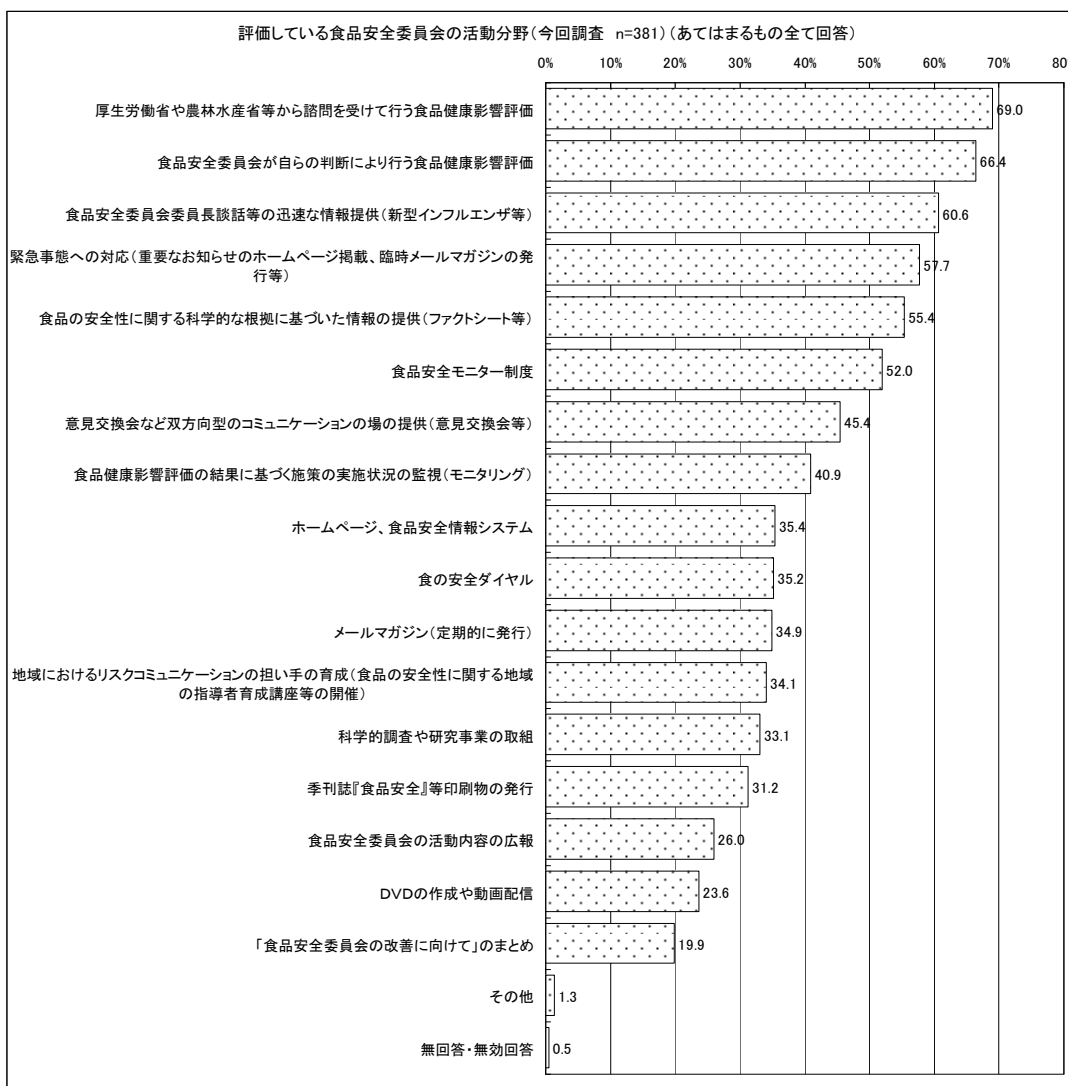
②評価している食品安全委員会の活動分野（問11）

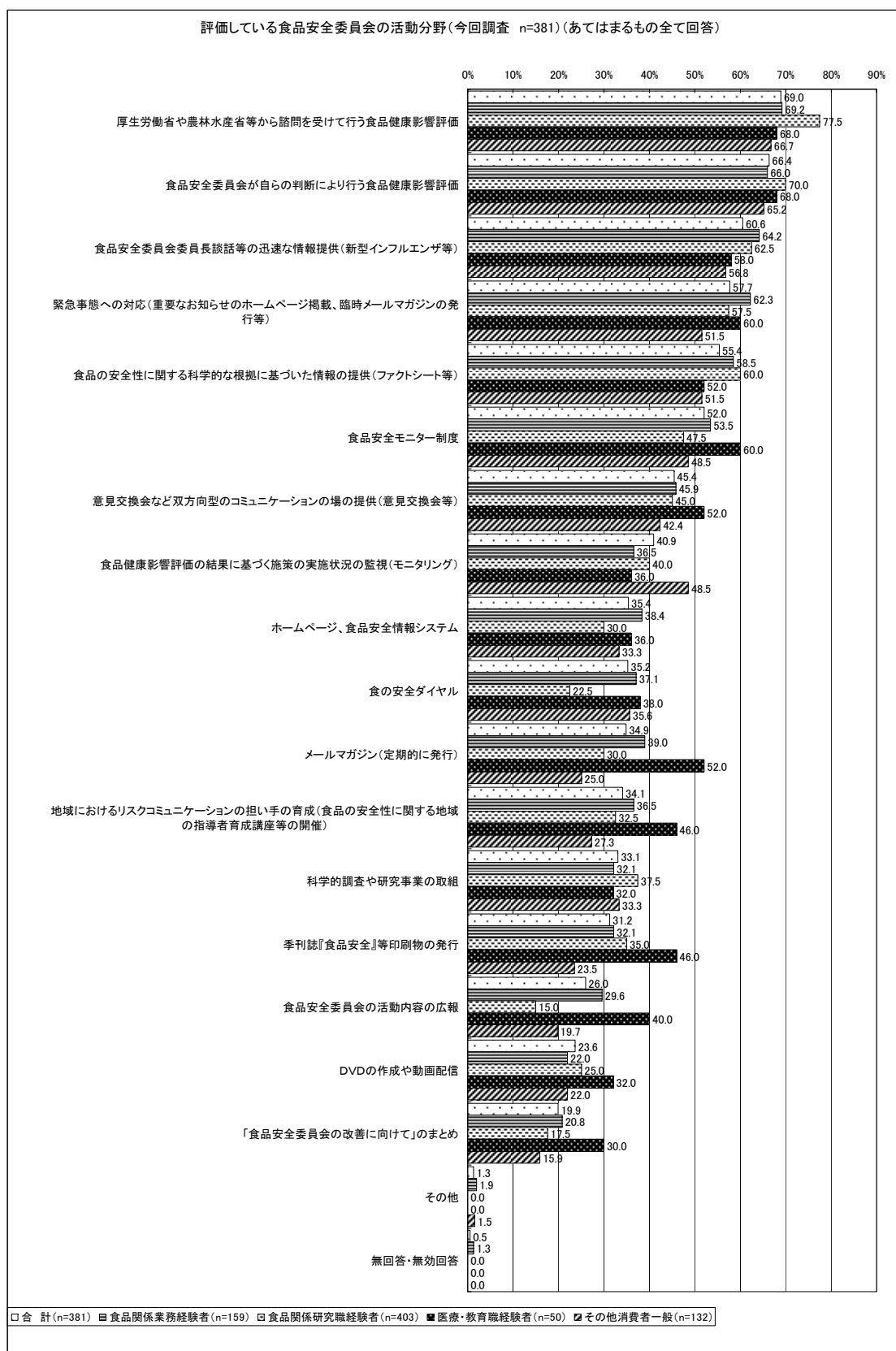
問11 問10において、「①評価している」又は「②ある程度は評価している」を選んだ方にお聞きします。その理由は、食品安全委員会のどの活動分野を評価しているからですか。あてはまるものを全て選んでください。

- ◆ 問10において食品安全委員会のこの1年間の活動を「評価している」「ある程度は評価している」と答えた381名に対して、評価している食品安全委員会の活動分野をきいたところ、「厚生労働省や農林水産省等から諮問を受けて行う食品健康影響評価」(69.0%)、「食品安全委員会が自らの判断により行う食品健康影響評価」(66.4%)、「食品安全委員会委員長談話等の迅速な情報提供（新型インフルエンザ等）」(60.6%)の順
- ◆ 医療・教育職経験者は他の職務経験者に比べて、意見交換会などリスクコミュニケーション関係、広報関係の回答割合が高い

評価している食品委員会の活動分野については、「厚生労働省や農林水産省等から諮問を受けて行う食品健康影響評価」が最も多く69.0%、次いで「食品安全委員会が自らの判断により行う食品健康影響評価」の66.4%、「緊急事態への対応」の60.6%であった。

医療・教育職経験者は他の職務経験者に比べて、「意見交換会など双方向のコミュニケーションの場の提供」、「地域におけるリスクコミュニケーションの担い手の育成」、「食品安全委員会の広報」、「季刊誌『食品安全』等印刷物の発行」「メールマガジン（定期的に発行）」の回答割合が高かった。





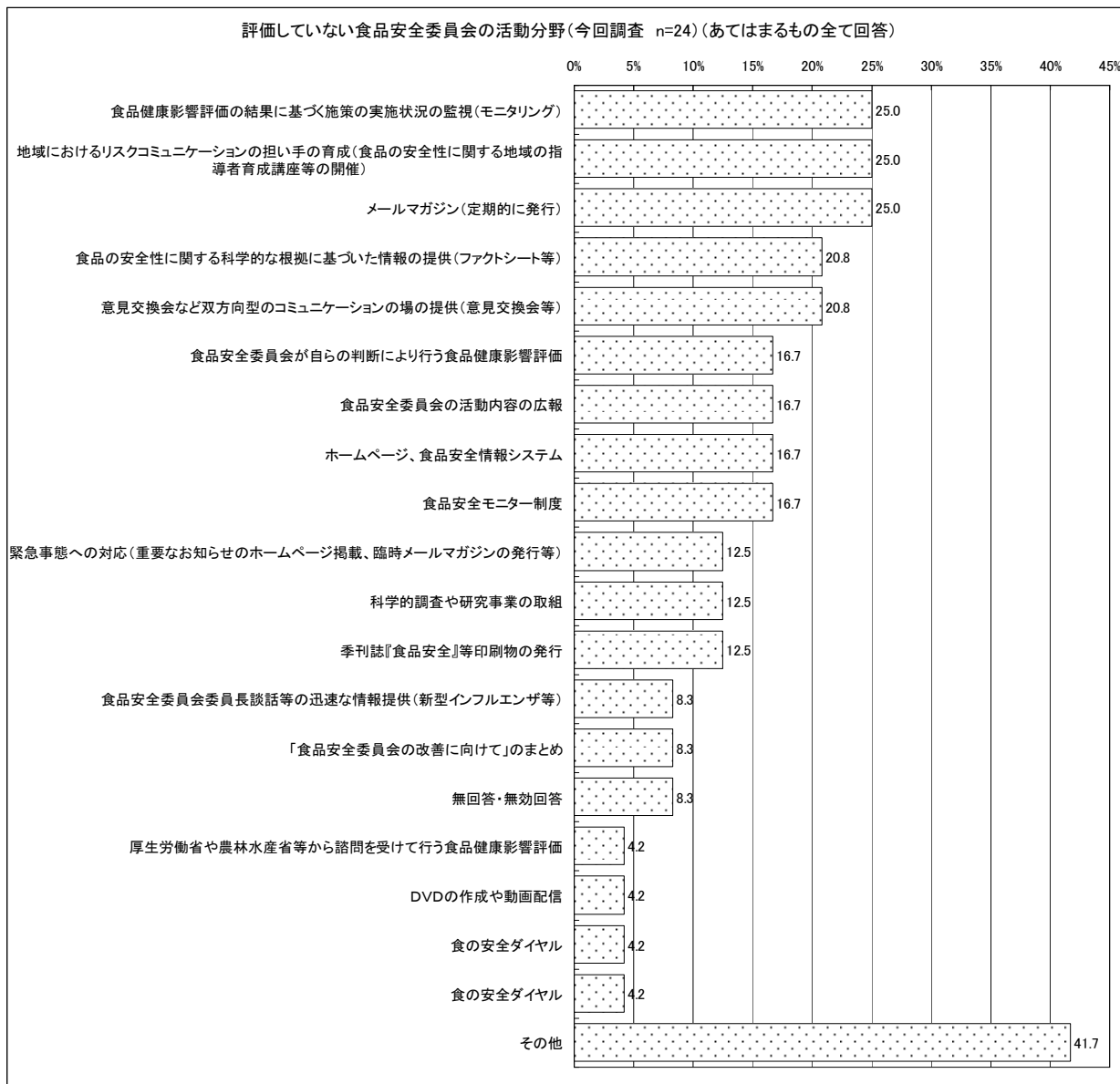
問11：その他（具体的に記入してください）（回答者数5名）

評価している食品安全委員会の活動分野としては、意見交換会などの情報提供を評価しているとの意見が複数見られた。その他の意見として、緊急時の対応の早さや科学的な中立性などがあつた。

③評価していない食品安全委員会の活動分野（問 12）

問 1 2 問 1 0 において、「③あまり評価していない」又は「④全く評価していない」を選んだ方にお聞きします。その理由は、食品安全委員会のどの活動分野を評価していないからですか。あてはまるものを全て選んでください。

- ◆ 問 10 において食品安全委員会のこの 1 年間の活動を「あまり評価していない」「全く評価していない」と答えた 24 名に対して、評価していない食品安全委員会の活動分野をきいたところ、「食品健康影響評価の結果に基づく施策の実施状況の監視（モニタリング）」（25.0%）、「地域におけるリスクコミュニケーションの担い手の育成（食品の安全性に関する地域の指導者育成講座等の開催）」（25.0%）、「メールマガジン（定期的に発行）」（25.0%）の順
- ◆ 評価していない食品委員会の活動分野については、「食品健康影響評価の結果に基づく施策の実施状況の監視（モニタリング）」、「地域におけるリスクコミュニケーションの担い手の育成」、「メールマガジン」の回答割合がそれぞれ 25.0%



問 1 2 : その他（具体的に記入してください）（回答者数 10 名）

評価していない食品安全委員会の活動分野としては、知名度が低いといった広報関係、リ

スクコミュニケーション、輸入食品への対応などがあつた。

④食品安全委員会に期待すること（問13）

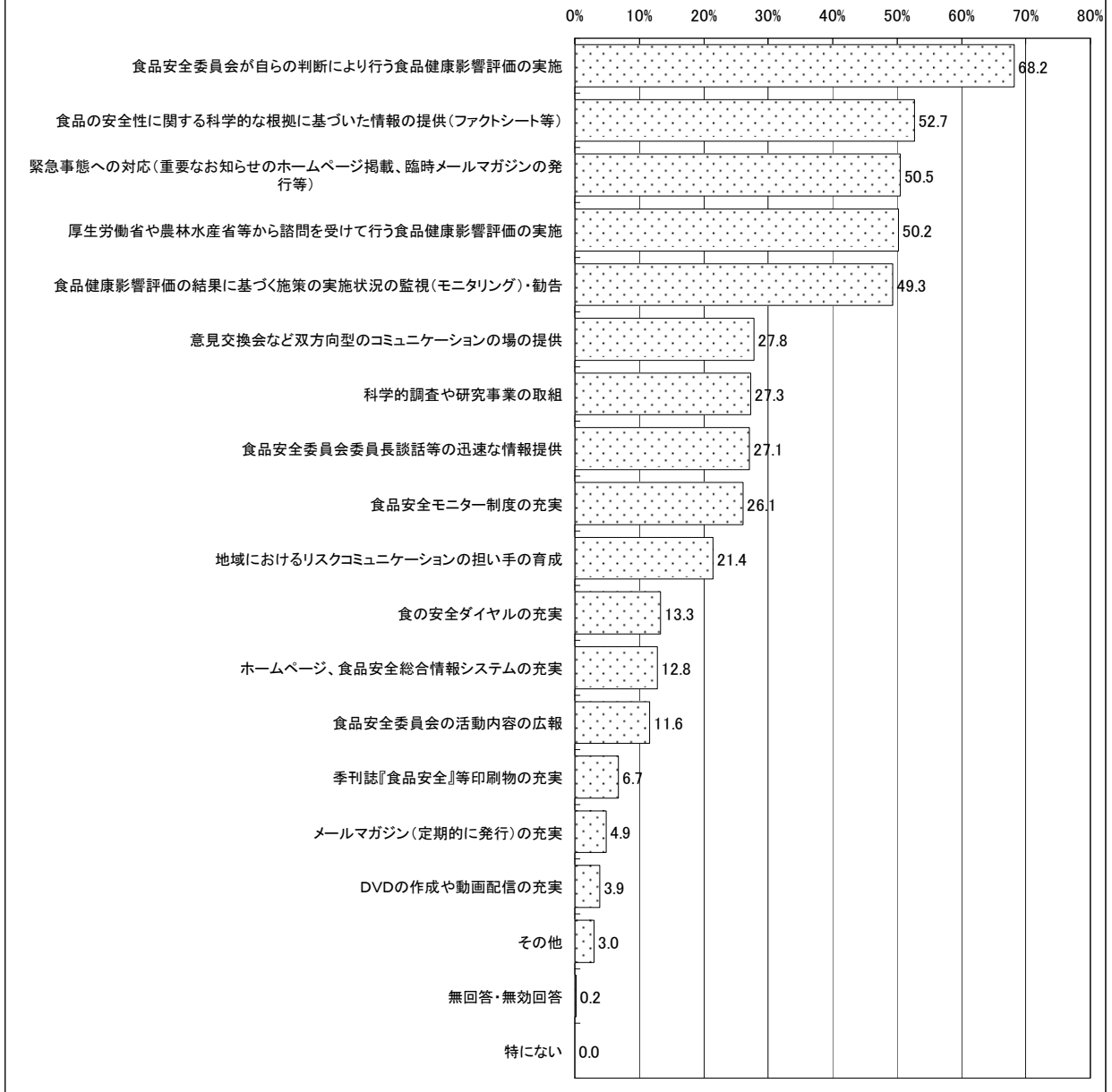
問13 あなたは、食品安全委員会に何を期待しますか、あてはまるものを5つ以内で選んでください。

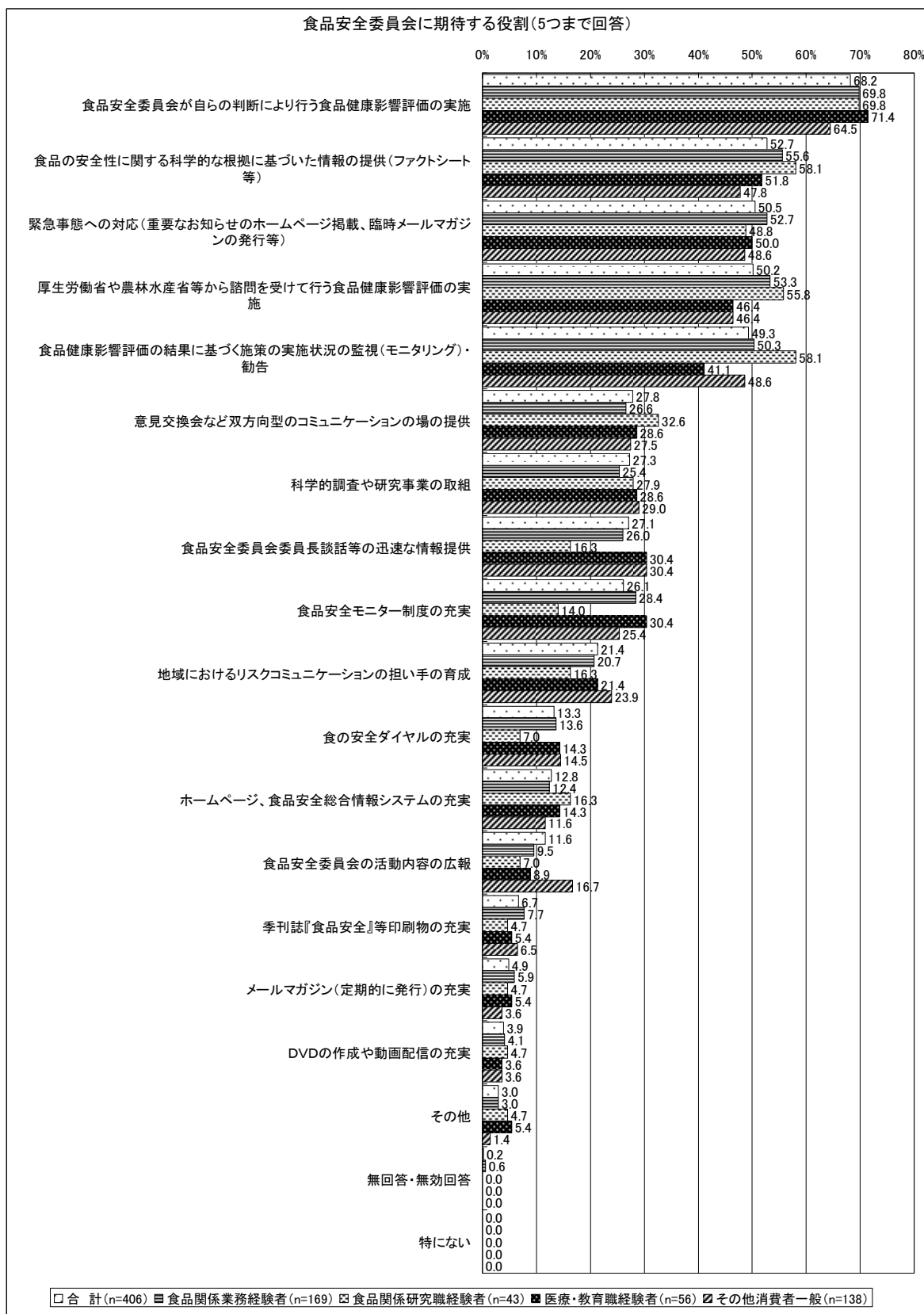
- ◆ 食品安全委員会に期待することについて、回答割合が約半数以上のものは「食品安全委員会が自らの判断により行う食品健康影響評価の実施」（68.2%）、「食品の安全性に関する科学的な根拠に基づいた情報の提供（ファクトシート等）」（52.7%）、「緊急事態への対応（重要なお知らせのホームページ掲載、臨時メールマガジンの発行等）」（50.5%）、「厚生労働省や農林水産省等から諮問を受けて行う食品健康影響評価の実施」（50.2%）、「食品健康影響評価の結果に基づく施策の実施状況の監視（モニタリング）・勧告」（49.3%）
- ◆ 食品関係研究職経験者は他の職務経験者に比べて「食品健康影響評価結果に基づく施策の実施状況の監視（モニタリング）・勧告」を期待する回答割合が高いが、「食品安全委員会委員長談話等の迅速な情報提供」、「食品安全モニター制度の充実」、「食の安全ダイヤルの充実」とする回答割合が低い

食品安全委員会に期待することについては、「食品安全委員会が自らの判断により行う食品健康影響評価の実施」が最も多く68.2%、次いで「食品の安全性に関する科学的な根拠に基づいた情報の提供」の52.7%、「緊急事態への対応」の50.5%、「厚生労働省や農林水産省等から諮問を受けて行う食品健康影響評価の実施」の50.2%、「食品健康影響評価の結果に基づく施策の実施状況の監視（モニタリング）・勧告」の49.3%と続く。

職務経験区分別にみると、食品関係研究職経験者は、「食品健康影響評価の結果に基づく施策の実施状況の監視（モニタリング）・勧告」を期待する回答割合が最も高いが、「食品安全委員会委員長談話等の迅速な情報提供」「食品安全モニター制度の充実」「地域におけるリスクコミュニケーションの担い手の育成」、「食の安全ダイヤルの充実」の回答割合は最も低かった。

食品安全委員会に期待する役割(今回調査)(5つまで回答)





問13：その他（具体的に記入してください）（回答者数 12名）

食品安全委員会に期待する役割としては、各種メディアの活用、食育の推進、法制度の整備や施策の検討を期待しているとの意見が複数見られた。

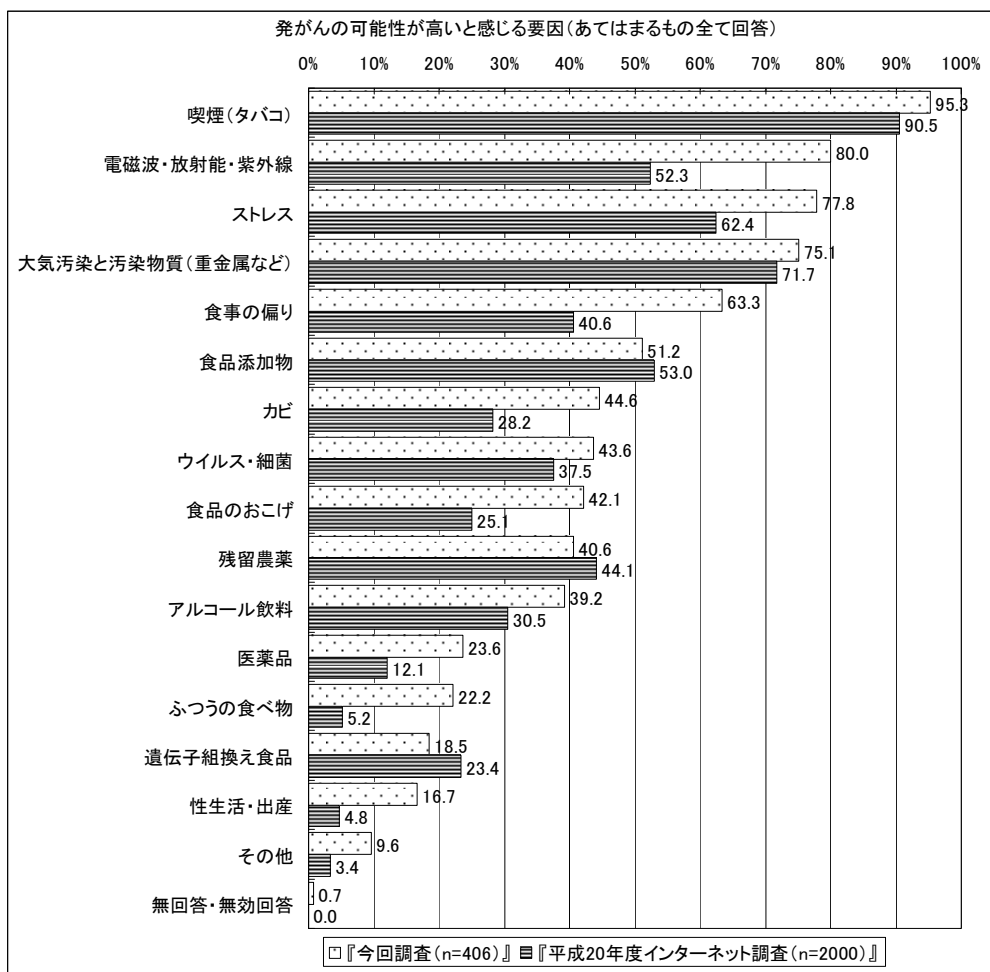
⑤発がんの可能性が高いと感じる要因（問 14）

問 1 4 癌の原因になるものは何だと思えますか。あなたが癌の原因になると思うものを全て選んでください。

- ◆ 今回調査において、発がんの可能性が高いと感じる要因として多い順は、「喫煙(タバコ)」(95.3%)、「電磁波・放射能・紫外線」(80.0%)、「ストレス」(77.8%)、「大気汚染と汚染物質(重金属など)」(75.1%)、「食事の偏り」(63.3%)、「食品添加物」(51.2%)
- ◆ 平成 20 年度インターネット調査において、発ガンの可能性が高いと感じる要因として多い順は、「喫煙(タバコ)」(90.5%)、「大気汚染・汚染物質(重金属など)」(71.7%)、「ストレス」(62.4%)、「食品添加物」(53.0%)、「電磁波・放射能・紫外線」(52.3%)、

今回調査では、発ガンの可能性が高いと感じる要因は「喫煙(タバコ)」が最も高く 95.3%、次いで「電磁波・放射能・紫外線」の 80.0%、「ストレス」の 77.8%、「大気汚染と汚染物質(重金属など)」の 75.1%、「食事の偏り」の 63.3%、「食品添加物」の 51.2%の順となっている。

平成 20 年度インターネット調査でも「喫煙(タバコ)」とする割合が最も高く 90.5%、次いで「大気汚染・汚染物質」の 71.7%、「ストレス」の 62.4%、「食品添加物」の 53.0%、「電磁波・放射能・紫外線」の 52.3%の順であった。



問 1 4 : その他(具体的に記入してください)(回答者数 33 名)

癌の原因となるものについては、遺伝が原因とする意見が最も多く、生活習慣や運動、年齢、食品などの意見も複数見られた。その他の意見としては、アスベスト、暴飲暴食などの

意見もあった。

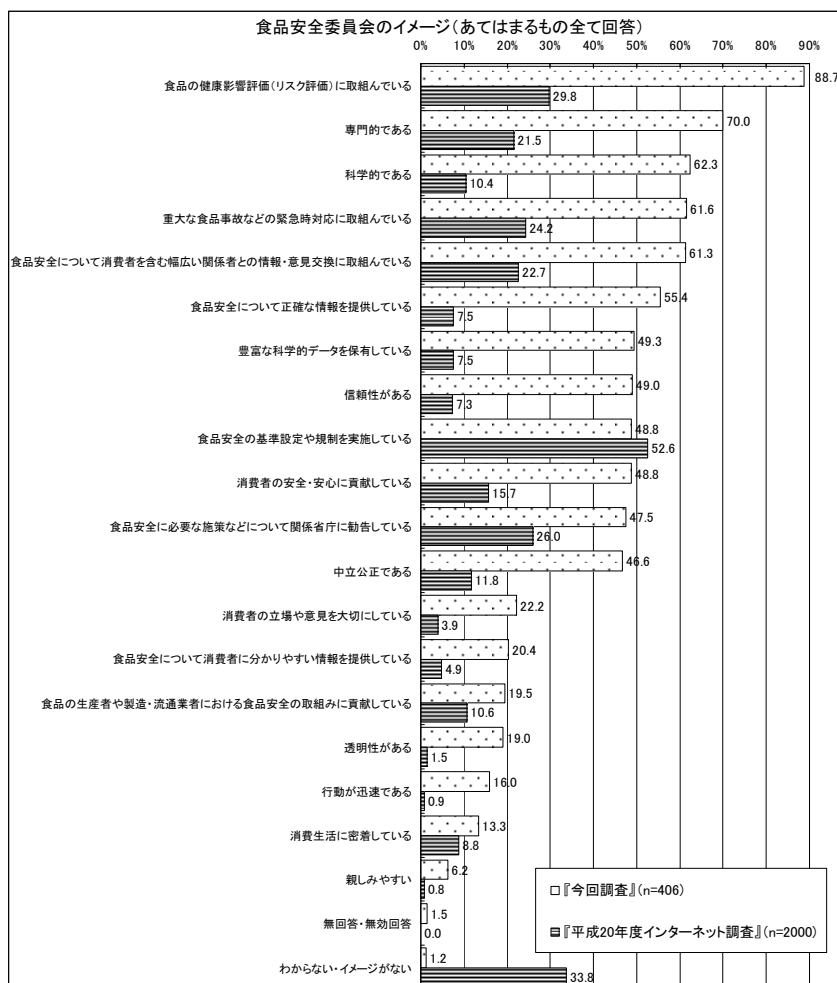
4) 食品の安全性に関する情報について

① 食品安全委員会に対するイメージ (問 15)

問 15 あなたの食品安全委員会に対するイメージ・認識として、あてはまるものを全て選んでください。

- ◆ 今回調査では、食品委員会に対するイメージの回答割合は「食品の健康影響評価（リスク評価）に取り組んでいる」（88.7%）、「専門的である」（70.0%）、「科学的である」（62.3%）の順
- ◆ 平成 20 年度インターネット調査では、食品安全委員会に対するイメージの多い順は「食品安全の基準設定や規制を実施している」（52.6%）、「わからない・イメージがない」（33.8%）、「食品の健康影響評価（リスク評価）に取り組んでいる」（29.8%）」

今回調査では、食品安全委員会に対するイメージは「食品の健康影響評価（リスク評価）に取り組んでいる」の回答割合が最も高く 88.7%、次いで「専門的である」は 70.0%、「科学的である」は 62.3%であった。一方、平成 20 年度インターネット調査では、「食品安全の基準設定や規制を実施している」が最も高く 52.6%、次いで「わからない・イメージがない」の 33.8%、「食品の健康影響評価（リスク評価）に取り組んでいる」の 29.8%と続く。



分類整理表

1) 食品の安全性に係る危害要因等について

②食品購入時に最近、重視したこと（問2）

問2 最近、あなたが食品を購入したときに気をつけたこと、重視したことは何ですか。あてはまるものを全て選んでください。

(回答者数=38人)

職務経験	性別	年代	回答
食品関係 業務経験者	男性	30～39 歳	小売店の取組み
			賞味期限
		40～49 歳	キャラクター使用、コラボレート価値も最近に附加される
			友人やインターネットでの評判
		50～59 歳	包装素材、新製品
			保管状態
			過去の違反、逮捕歴の有無
		60～69 歳	偽装
			添加物表示及び添加物
			原料組成
	食品名の記載漏れ		
	添加物等表示		
	女性	30～39 歳	動物性か植物性か(油脂やタンパク質など)
			賞味・消費期限
			添加物
地元食材、食品添加物の入り具合			
50～59 歳		原材料・保存方法・消費期限など	
		添加物の内容	
		地域で(現住所)生産されたものを優先的	
60～69 歳		添加物	
食品関係研 究職経験者	男性	50～59 歳	遺伝子組換え食品、食品添加物、塩分
		60～69 歳	消費期限
	女性	60～69 歳	流通業者

職務経験	性別	年代	回答
医療・教育職 経験者	男性	40～49 歳	オーガニック
	女性	30～39 歳	アレルギーが含まれているかどうか
		40～49 歳	表示・広告
		50～59 歳	アレルギー物質の有無
		70 歳以上	目に見える範囲－生鮮類
その他 消費者一般	男性	40～49 歳	販売者の対応 賞味期限
	女性	20～29 歳	価格は少々上がっても産地や、安全マークがついている方を選ぶ 食品添加物を含む原材料名
		30～39 歳	地産地消、三重県産
		40～49 歳	流通経路から推測される原材料の品質
			添加物、無添加とある場合、使用されている薬品（PH調整剤など）
			生活クラブ生協は、食品の安全性やエコに気を使っているの、殆んどそこから買っている
		50～59 歳	匂い
	70 歳以上	表示＝期間、添加物、成分	

③食品の安全性の観点から感じている不安の程度（問3）

問3 以下の10個の食品や物質等それぞれについて、食品の安全性の観点からあなたはどのように思いますか。選択肢の中から1つずつ選んでください。また、以下の10個の食品や物質等以外に気になっているものがあれば、併せて「11 その他」に食品や物質名を記入し、選択肢の中からも1つ選んでください。

(回答者数=29人)

職務経験	性別	年代	回答
食品関係 業務経験者	男性	30～39歳	意図的な危害混入
			コラーゲン
		40～49歳	サプリメント
			メラミン、塩酸クレンブテロールetc(意図しない用途の化学物質)
			次亜塩素酸
		60～69歳	ウナギ
	生産・加工・販売者のモラル		
	消費期限・賞味期限		
	女性	30～39歳	アレルギーを誘発するもの(ヒスタミンや一部の油など)
			カゼ薬、頭痛薬など、よく飲む薬
			成長ホルモン
			旨味調味料
		40～49歳	毒物
		50～59歳	切花
たん白加水分解物			
60～69歳	輸入食品全般の食品の安全		
食品関係研 究職経験者	女性	40～49歳	産廃からの有害物質
医療・教育職 経験者	男性	40～49歳	プロピレングリコール(シャンプー等含有物)
		60～69歳	カビ毒(アフラトキシン等)
			ウナギ
			過去に事件になったサラダ油
	女性	40～49歳	洗剤
		50～59歳	ソバ
			牛乳

職務経験	性別	年代	回答
その他 消費者一般	男性	70歳以上	自然素材(例わらび)の変種
	女性	30～39歳	保存料
		40～49歳	カビ毒
			空気(中国からの黄砂)
50～59歳	トランス脂肪酸		

④食品の安全性の観点から不安を感じている理由（問4a）

問4a 問3において、「①非常に不安である」、「②ある程度不安である」を選択した食品や物質等についてお聞きします。選択した食品や物質等について、不安を感じる理由を1つずつ選んでください。

（1）遺伝子組換え食品について、不安を感じる理由 その他（具体的に記入）

（回答者数＝13人）

職務経験	性別	年代	回答
食品関係業 務経験者	男性	30～39歳	自分の子供、孫への影響が実際に分からない
		40～49歳	過去問題になったにもかかわらず、熱しやすくさめやすい報道体質で情報が遮断され、その後には正確な情報が手に入れにくい環境におかれているという問題意識をもっている
	将来何が起るか不明		
	女性	50～59歳	食べ続けた検証がない
医療・教育職 経験者	女性	40～49歳	一般人に認知されているとは思えないから
		50～59歳	外国では食用として使用されていないものも有るから不安
		60～69歳	「未検証」組換え遺伝子の遺伝的影響
その他消費 者一般	男性	30～39歳	自然界でも遺伝子組換えが行っているので「非常に不安がある」ではない
		60～69歳	危険である証拠はないが、食品としての歴史が短かすぎる
	女性	20～29歳	自然界に反しているため、科学的に安全でも何か人間のおごりを感じる
		40～49歳	自然でない。種の支配、毒性が未知
			最終的な人体への影響などが、はっきりしていないから
60～69歳	長い間、食べ続けたらどうなるか、まだわからない		

(2) いわゆる健康食品について、不安を感じる理由 その他（具体的に記入）

(回答者数=8人)

職務経験	性別	年代	回答
食品関係業務経験者	男性	30～39歳	実際の健康影響と国民の受け取り方に差があるのではと感じる 本来の摂食行動とは異なり、併害の恐れが考えられる
		40～49歳	過去問題になったにもかかわらず、熱しやすくさめやすい報道体質で情報が遮断され、その後には正確な情報が手に入れにくい環境におかれているという問題意識をもっている 副作用が起こりそう
	女性	50～59歳	効果が過大宣伝で、体質的に個人差も大きいと思うから
	食品関係研究職経験者	男性	60～69歳
医療・教育職経験者	男性	40～49歳	実際に健康被害の事例を報告した
	女性	20～29歳	専門職でなくても売ることができるため

(3) 汚染物質（カドミウム、メチル水銀等）について、不安を感じる理由

その他（具体的に記入）

(回答者数=9人)

職務経験	性別	年代	回答
食品関係業務経験者	男性	40～49歳	過去問題になったにもかかわらず、熱しやすくさめやすい報道体質で情報が遮断され、その後には正確な情報が手に入れにくい環境におかれているという問題意識をもっている 妊娠への魚類の制限など、生産・流通が防げられない問題がある
		女性	20～29歳
	女性	50～59歳	輸入食品等の検査体制が十分でないため
	食品関係研究職経験者	男性	30～39歳
男性		50～59歳	食品製造加工者だけでなく、環境保全が不十分のことあり
女性		30～39歳	汚染の程度がよく分からない
医療・教育職経験者	女性	40～49歳	すぐに影響のあるものでなく、先にならなければわからないから 被害にあっても救済されないと思うから

(4) 家畜用抗生物質について、不安を感じる理由 その他（具体的に記入）

(回答者数=8人)

職務経験	性別	年代	回答
食品関係業務経験者	男性	30～39歳	家畜→人への影響が検討されているかよく見えてこない
		40～49歳	過去問題になったにもかかわらず、熱しやすくさめやすい報道体質で情報が遮断され、その後には正確な情報が手に入れにくい環境におかれているという問題意識をもっている
			人体で何が起こるか不明
食品関係研究職経験者	女性	40～49歳	使用量等の不明瞭
医療・教育職経験者	女性	30～39歳	うわさ話を耳にして
		40～49歳	購入時点で十分確認できないから
その他消費者一般	女性	40～49歳	抗生物質を使う必要性が理解できていない
			抗生物質入りのエサを食べた動物を食べると、人間が病気になった時、抗生物質が効かないと聞いているから

(5) 食品添加物について、不安を感じる理由 その他（具体的に記入）

(回答者数=10人)

職務経験	性別	年代	回答
食品関係業務経験者	男性	40～49歳	過去問題になったにもかかわらず、熱しやすくさめやすい報道体質で情報が遮断され、その後には正確な情報が手に入れにくい環境におかれているという問題意識をもっている
			人体に悪影響をおよぼしそう
	女性	30～39歳	何種類も多く摂った際、長期でどうなるのかわからない
		50～59歳	長期常用による人体への影響
食品関係研究職経験者	女性	40～49歳	アレルギー体質なので
その他消費者一般	女性	30～39歳	添加物を使用してすぐに体への害は出ないが、いずれ出る(長い間の積みかさねで)ように思えるから
		40～49歳	短期的に具体的な症状が出なくても、長期的に摂取していると、病気の原因になったり、子孫への影響が心配
			添加物の基準が、国により違っているため
			1つ1つは安全基準をクリアしていても複数の食品を食するので

(6) 農薬について、不安を感じる理由 その他（具体的に記入）

(回答者数=15人)

職務経験	性別	年代	回答
食品関係業務経験者	男性	40～49歳	過去問題になったにもかかわらず、熱しやすくさめやすい報道体質で情報が遮断され、その後正確な情報が手に入れにくい環境におかれているという問題意識をもっている 人体に悪影響を及ぼしそう
		50～59歳	個人が入手できるため犯罪が不安
	女性	40～49歳	事業者の無知と悪意 規格は厳格であるが、検査が十分に追いつかないように思える
		50～59歳	使用量や使用方法に不安あり(表示を守らない等) 輸入食品の検査体制が十分でないため
食品関係研究職経験者	男性	30～39歳	海外での法令遵守に不安である
	女性	40～49歳	アレルギー体質なので
医療・教育職経験者	女性	40～49歳	海外の事業者に対する不安
		50～59歳	食料自給率40%という現実への希望が見い出せない
その他消費者一般	男性	20～29歳	基準超過よりも、事件・事故による混入に対して不安を感じる
		30～39歳	農薬の種類が多すぎて規制できない。でも必要不可欠である
		60～69歳	分析数量が少ない
	女性	40～49歳	農薬は虫を殺す、いわば毒だから、人間にもいいはずがない

(7) BSE（牛海綿状脳症）について、不安を感じる理由 その他（具体的に記入）

(回答者数=9人)

職務経験	性別	年代	回答
食品関係業務経験者	男性	40～49歳	過去問題になったにもかかわらず、熱しやすくさめやすい報道体質で情報が遮断され、その後正確な情報が手に入れにくい環境におかれているという問題意識をもっている
	女性	30～39歳	輸入品の輸出先の管理に不安を感じる
		50～59歳	輸入製品の違反が絶えないため 輸入食品の検査体制が十分でないため
食品関係研究職経験者	男性	50～59歳	外国からの輸入品検査は完全を期しがたい
		60～69歳	危険の程度がやや不明
医療・教育職経験者	女性	40～49歳	海外の事業者に対する不安
		50～59歳	正しい情報提供してくれるところが曖昧に思える
その他消費者一般	女性	40～49歳	本来、草食の動物である牛に違うエサをあげた事が問題。動物の立場になって考えるべき

(8) 有害微生物（細菌・ウイルス・食中毒）について、不安を感じる理由
 その他（具体的に記入）

(回答者数=11人)

職務経験	性別	年代	回答
食品関係業 務経験者	男性	30～39歳	細菌はある程度管理できるが、ウイルスは管理できないから
		40～49歳	過去問題になったにもかかわらず、熱しやすくさめやすい報道体質で情報が遮断され、その後には正確な情報が手に入れにくい環境におかれているという問題意識をもっている
		50～59歳	突然変異による微生物の薬剤耐性、耐熱性の取得
	女性	30～39歳	人体に明らかに有害であることが分かっており、注意必要
			変異や耐性もあるため
			消費者の認識の低さを感じる
		40～49歳	整備体制が徹底されていても、不注意でおちいりやすい項目
			管理しきれぬものであるのか、確信が持てない
未知な点も多くあり、今後どのような害があるか不明、対策も不明			
自然発生はどこでもありうるし、人的テロなども起らない保障はない			

(9) 体細胞クローン家畜由来食品について、不安を感じる理由 その他（具体的に記入）

(回答者数=11人)

職務経験	性別	年代	回答
食品関係業 務経験者	男性	30～39歳	自分の子供、孫への影響が実際に分からない
		40～49歳	過去問題になったにもかかわらず、熱しやすくさめやすい報道体質で情報が遮断され、その後には正確な情報が手に入れにくい環境におかれているという問題意識をもっている
			将来何が起こるか不明
	60～69歳	クローン家畜は近親相姦とかわらないのではと思っています	
	女性	50～59歳	食べ続けた検証がない 知識不足
その他消費 者一般	男性	60～69歳	危険である証拠はないが、食品としての歴史が短かすぎる
	女性	20～29歳	人間のおごりを感じ、何か現時点では分からない問題がありそう
		40～49歳	自然に起きない事は、必ず何か併害が、未来に起きると思う
			最終的な人体への影響などが、はっきりしていないから
50～59歳	クローン家畜の必要性が明確でないから		

(10) 器具・容器包装からの溶出化学物質について、不安を感じる理由

その他（具体的に記入）

(回答者数=10人)

職務経験	性別	年代	回答
食品関係業務経験者	男性	40～49歳	過去問題になったにもかかわらず、熱しやすくさめやすい報道体質で情報が遮断され、その後には正確な情報が手に入れにくい環境におかれているという問題意識をもっている 人体に悪影響をおよぼしそう
	女性	40～49歳	管理しきれぬものであるのか、確信が持てない
食品関係研究職経験者	男性	50～59歳	現在の規制物質では不十分と感じるから。非常に多様な材質が開発されるがいったい何なのか、不安である
	女性	40～49歳	アレルギー体質なので
医療・教育職経験者	女性	40～49歳	情報が一般に伝わっていない 購入時点で十分確認できないから
		50～59歳	お茶の水女子大学ライフワールドウォッチセンターの再教育講座で不安になる話を聞いたから
その他消費者一般	女性	20～29歳	カップラーメンからも溶け出すと聞いたから
		40～49歳	アルミニウムがアルツハイマーの原因と聞いている。食用油がプラスチック容器に入っていると、その成分が油に溶け出すと聞いて、缶入りの物を買っているが、殆どの方が知らない ので、影響が心配

(11) その他について、不安を感じる理由 その他（具体的に記入）

(回答者数=9人)

職務経験	性別	年代	回答
食品関係業務経験者	男性	30～39歳	管理不能な為 コラーゲン食品、飲料は本当に体に良いのか？
		40～49歳	事業者の営利目的(悪意)で安全性も何も判らないまま使用される可能性(海外)
		60～69歳	偽装があっても産地のみならず違う魚(海へび)をかば焼き状態にしている実態がすぐに改善されるとは思えないから 科学的根拠に疑問・生産者に有利になっている
	女性	30～39歳	過剰摂取による味覚障害など
		40～49歳	故意の混入に対しては防止しきれないのではと思うから
		60～69歳	各国により食品の安全基準が違うので
その他消費者一般	女性	50～59歳	2006年12月ニューヨークで、2008年7月以降条例に反した者は罰すると決められたのに、日本ではほとんど紹介されていない

⑤食品の安全性の観点から不安を感じない理由（問4b）

問4b 問3において、「③あまり不安を感じない」、「④全く不安を感じない」を選択した食品や物質等についてお聞きします。選択した食品や物質等について、不安を感じない理由を1つずつ選んでください。

（1）遺伝子組換え食品について、不安を感じない理由 その他（具体的に記入）

（回答者数=6人）

職務経験	性別	年代	回答
食品関係業務経験者	男性	60～69歳	突然変異のひとつ
	女性	40～49歳	国産について政府の安全基準を信じている
食品関係研究職経験者	男性	50～59歳	遺伝子と消化吸収による関係が明らかでない
	女性	60～69歳	これまで自然にも品種改良されている
医療・教育職経験者	女性	50～59歳	情報があまりないので
その他消費者一般	女性	30～39歳	自然に起きる組み換えや、人工的な交配で得られた食品と同じだから

（2）いわゆる健康食品について、不安を感じない理由 その他（具体的に記入）

（回答者数=26人）

職務経験	性別	年代	回答
食品関係業務経験者	男性	40～49歳	基本、食品から摂取するので買わない事になっている為
		60～69歳	使用していない為
			贅沢に慣れた我国では健康食品、サプリメントは不要
	女性	20～29歳	あまり利用するものではないから いわゆる健康食品については、最近ではそこまで信用はしていないから
		30～39歳	利用しようと思わないから
			不安を感じる表記の食品は利用しないので
			利用しないため。量や頻度により安全性が違うため
		40～49歳	購入しなくても生活できるため
			国産について政府の安全基準を信じている
		50～59歳	自分の納得での購入だから。自己責任である 利用しないから
医療・教育職経験者	女性	30～39歳	作る人と責任感
		40～49歳	選択の自由がある
			あまり購入しないから
			買わない 効果は疑問だが毒にもならないと思うから

職務経験	性別	年代	回答
その他消費者一般	男性	30～39 歳	あまりにも多くの商品があり、自分が口にしないので
			メーカー、産地などである程度判断(プラス、エビデンス)
	女性	20～29 歳	購入するかしないかが、本人の希望に大きく左右されるため
		30～39 歳	あまり購入することがないため
		40～49 歳	健康食品そのものが科学的根拠のない物なので一切摂取しないと決めているから関心がな
			自分が健康食品を摂取していないから
		50～59 歳	あまり利用しないから
		60～69 歳	使用した事もなく興味もないので
自分では使うつもりがないので…			

(3) 汚染物質(カドミウム、メチル水銀等)について、不安を感じない理由
 その他(具体的に記入)

(回答者数=5人)

職務経験	性別	年代	回答
食品関係業務経験者	男性	30～39 歳	リスクが明らかになっている物質はある程度管理可能
	女性	30～39 歳	現在の食生活で摂取する量では、問題にならないと考える為
		50～59 歳	近年では、あまり報道を見ないので
		60～69 歳	現在ではコントロールされていると思う
その他消費者一般	女性	40～49 歳	小泉先生の6月の会合でお話を聞いたから

(4) 家畜用抗生物質について、不安を感じない理由 その他(具体的に記入)

(回答者数=1人)

職務経験	性別	年代	回答
食品関係業務経験者	女性	40～49 歳	国産について政府の安全基準を信じている

(5) 食品添加物について、不安を感じない理由 その他(具体的に記入)

(回答者数=4人)

職務経験	性別	年代	回答
食品関係業務経験者	男性	30～39 歳	現在分かっているリスクには対応できるが、未知のリスクに懸念
	女性	30～39 歳	表示がしてあるので、自分で選択できるから
		40～49 歳	国産について政府の安全基準を信じている
医療・教育職経験者	女性	40～49 歳	必要な添加物も多数あるから

(6) 農薬について、不安を感じない理由 その他（具体的に記入）

(回答者数=2人)

職務経験	性別	年代	回答
食品関係業務経験者	女性	40～49歳	国産について政府の安全基準を信じている
医療・教育職経験者	女性	40～49歳	安心できるところから購入している

(7) BSE（牛海綿状脳症）について、不安を感じない理由 その他（具体的に記入）

(回答者数=12人)

職務経験	性別	年代	回答
食品関係業務経験者	男性	40～49歳	最近、特別大きな問題が発生していない
		60～69歳	日本国内においては、骨ずいのみを口にする事が少ないと感じる
食品関係研究職経験者	男性	60～69歳	発症数が少ない
	女性	40～49歳	牛、ほとんど食べない
		60～69歳	不安をあおりすぎ
医療・教育職経験者	女性	40～49歳	報道でも事件などの話題は最近聞かなくなった為。最新情報はあれば是非とも良い悪い含めて知りたいです
			牛肉は買わない
			知識がかなり浸透しているから(社会に)
その他消費者一般	男性	30～39歳	食べないので
	女性	20～29歳	厳しく規制がされているため、発生確率が低い
			人には感染しないと聞いたから
		40～49歳	小泉先生の6月の会合でお話を聞いたから

(8) 有害微生物（細菌・ウイルス・食中毒）について、不安を感じない理由

その他（具体的に記入）

(回答者数=4人)

職務経験	性別	年代	回答
食品関係業務経験者	女性	50～59歳	ある程度は予防できる知識があるつもり
医療・教育職経験者	女性	30～39歳	食中毒などは自分の衛生管理をしっかり行えばある程度、大丈夫かと思う
		40～49歳	ある程度個人で対応できる・防げる 社会に知識がかなり浸透しているから

(9) 体細胞クローン家畜由来食品について、不安を感じない理由

その他（具体的に記入）

(回答者数=2人)

職務経験	性別	年代	回答
食品関係業務経験者	女性	40～49歳	国産について政府の安全基準を信じている
医療・教育職経験者	女性	40～49歳	まだ一般に出回っていないと思うので

(10) 器具・容器包装からの溶出化学物質について、不安を感じない理由

その他（具体的に記入）

(回答者数=2人)

職務経験	性別	年代	回答
食品関係業務経験者	女性	40～49歳	国産について政府の安全基準を信じている
食品関係研究職経験者	男性	60～69歳	日常的に多く使用されているので

(11) その他について、不安を感じない理由 その他（具体的に記入）

(回答者数=1人)

職務経験	性別	年代	回答
食品関係業務経験者	女性	30～39歳	不安はあまり感じないが、食品添加物がこれだけ不安をあおられているのに「薬」が話題にならないのはおかしい 比較してみるとよい？

⑥食品の安全性の観点から不安を感じたきっかけ（問 5a）

問 5 a 問 3 において、「①非常に不安である」又は「②ある程度不安である」を選択した食品や物質等についてお聞きします。選択した食品や物質について不安を感じるようになったきっかけは何ですか。あてはまるものを全て選んでください。

（1）遺伝子組換え食品について、不安を感じるようになったきっかけ

その他（具体的に記入）

（回答者数=17人）

職務経験	性別	年代	回答
食品関係業務経験者	男性	30～39 歳	無害であるという確証がないから
		40～49 歳	新しい技術なのでデータ不足だと思う
			今までにないものができている
	60～69 歳	生協の学習会	
		技術の進歩に安全性の検証が追いつかないと思うから	
		欧州で使用禁止	
女性	30～39 歳	安全な根拠がないから	
	60～69 歳	食料としての実績が短い	
食品関係研究職経験者	男性	50～59 歳	遺伝子の拡散性による自然の仕組みへの影響を危ぐ
医療・教育職経験者	女性	40～49 歳	情報の不足（今後の状況もふまえて）
			食品加工品などで組換え食品がととも増えてきている為
その他消費者一般	女性	30～39 歳	遺伝子を操作することに対する不安
			表示がよく見られるようになったこと
			食品として可能であるという結果が出ていないため
			自然のものではなく、人間が作ったものだから
			不自然なことだから

(2) いわゆる健康食品について、不安を感じるようになったきっかけ
 その他（具体的に記入）

(回答者数=18人)

職務経験	性別	年代	回答
食品関係業務経験者	男性	60～69歳	製造メーカーの姿勢
			スポーツ選手等が食する為
	女性	30～39歳	DNA・RNA入り健康食品を親が買っている。なぜ健康食品となるのか理解できなかった
			倫理的に悪質な業者があるため
			客観的科学的根拠が少ない気がする
			ある特定の栄養素だけを健康食品から摂るのは危険だと考える為
	40～49歳	「良い」という情報だけにふりまわされているから	
	40～49歳	無知、モラルのない業者に接した経験	
食品関係研究職経験者	男性	50～59歳	科学的データ(安全)が乏しいから
	女性	60～69歳	自分が摂取してみた
			人為的、CM等で不安をあおっている 過剰摂取の観点が弱い
医療・教育職経験者	女性	30～39歳	一般消費者と接していて、過信したり誤った情報を信じている人が多いから
その他消費者一般	男性	30～39歳	安全性ではなく効果に対する過剰な表示に不満
		60～69歳	テレビコマーシャル等、サプリメントには誘引的、放置しすぎる
	女性	40～49歳	中毒が出たりしていた
			自分で調べてみて
			メーカーの説明が多く、本当の効用が信じ難い
		50～59歳	広告では良いことばかり書いているが、本当だろうかと思った

(3) 汚染物質（カドミウム、メチル水銀等）について、不安を感じるようになったきっかけ
 その他（具体的に記入）

(回答者数=6人)

職務経験	性別	年代	回答
食品関係業務経験者	男性	40～49歳	取り引き先や販売先からのデータ提出業務を担当したので、実態を見えています
			公害病で起こっている
		60～69歳	検査体制と情報公開不十分
	女性	30～39歳	工業的な問題
医療・教育職経験者	女性	40～49歳	情報の不足
その他消費者一般	女性	40～49歳	中国など原産国での汚染が進んでいる

(4) 家畜用抗生物質について、不安を感じるようになったきっかけ

その他（具体的に記入）

(回答者数=12人)

職務経験	性別	年代	回答
食品関係業務経験者	男性	60～69歳	検査体制と情報公開不十分
			以前に獣医師が不許可調剤した事例があった、抗生物質の検査しきれない
			輸入食材(肉)は外国の業者が信用できない
	女性	30～39歳	生協などで一般飼育の抗生物質使用の実態を知って
		40～49歳	動物用は軽視されがちだから
食品関係研究職経験者	男性	50～59歳	使用されている薬の残留による健康への影響がまだ明らかにされていないのではないかと
医療・教育職経験者	女性	40～49歳	現場での状況への情報の不足
		50～59歳	生協のチラシ・抗生物質を乱用すれば効かなくなるという知識
その他消費者一般	女性	30～39歳	子どもを妊娠していたり母乳をあげたりしている時は、薬をのまないようにしていたのに、食べるものを薬漬(?)にしていいのかという不安
		40～49歳	どの程度が人間に影響でるのか不安
		60～69歳	人間が食べる時にその物質が消えているという保障はないから

(5) 食品添加物について、不安を感じるようになったきっかけ その他（具体的に記入）

(回答者数=12人)

職務経験	性別	年代	回答
食品関係業務経験者	男性	60～69歳	生協学習会
			複合的な摂取への安全検証が十分でないから
	女性	30～39歳	過去に食品添加物を扱う会社にいたため
		40～49歳	使用が適正でないことが多い
食品関係研究職経験者	女性	60～69歳	輸入品の取扱いがあいまい
医療・教育職経験者	男性	40～49歳	環境ホルモン
	女性	60～69歳	事業者の法令遵守に疑問
その他消費者一般	女性	30～39歳	食品添加物を分析する機関で仕事をしていたので
			毎日の生活の中で使われている食品が多い為
		40～49歳	各国に規制値にちがいがあ 母親になったこと

(6) 農薬について、不安を感じるようになったきっかけ その他（具体的に記入）

(回答者数=7人)

職務経験	性別	年代	回答
食品関係業務経験者	男性	60～69歳	海外(特に中国)の農家は信用できない 農業を経験した事があるので
	女性	30～39歳	使用が適正でないことが多い
食品関係研究職経験者	女性	60～69歳	輸入品の取扱いがあいまい
その他消費者一般	男性	30～39歳	仕事での関係上、いろいろ見聞きして
		60～69歳	基準を守られているか不安
	女性	40～49歳	各国に規制値に違いがある

(7) BSE（牛海綿状脳症）について、不安を感じるようになったきっかけ

その他（具体的に記入）

(回答者数=3人)

職務経験	性別	年代	回答
食品関係業務経験者	男性	60～69歳	国の対応と検査体制
	女性	30～39歳	根拠がない
その他消費者一般	女性	40～49歳	輸入禁止になったこと

(8) 有害微生物（細菌・ウイルス・食中毒）について、不安を感じるようになったきっかけ

その他（具体的に記入）

(回答者数=4人)

職務経験	性別	年代	回答
食品関係業務経験者	男性	60～69歳	食品事業者等が取扱いを誤ればいつでも食中毒はおこる
	女性	30～39歳	強力な微生物が発生(耐性をもつため)
その他消費者一般	男性	60～69歳	発生時の原因が充分究明できていない
	女性	40～49歳	目に見えにくいものだから

(9) 体細胞クローン家畜由来食品について、不安を感じるようになったきっかけ

その他（具体的に記入）

(回答者数=11人)

職務経験	性別	年代	回答
食品関係業務経験者	男性	40～49歳	今までにないものができている
		60～69歳	技術の進歩に安全性の検証が追いつかないと思うから
	女性	30～39歳	根拠がない
		60～69歳	クローン家畜由来の食品を食べた人の時間がまだ短い、長く食べ続けた場合のデータはないと思う
食品関係研究職経験者	女性	60～69歳	未知な物質だから
医療・教育職経験者	女性	40～49歳	情報の不足(今後の状況もふまえて)
その他消費者一般	女性	30～39歳	遺伝子とかクローンとか、操作していいのかという不安
		40～49歳	一般の人にはわかりづらい
			食品として可能であるという結果が出ていないため
			自然のものではなく、人間が作ったものだから
50～59歳	クローン家畜の歴史が浅く、被害が出るまで時間がかかると思う		

(10) 器具・容器包装からの溶出化学物質について、不安を感じるようになったきっかけ

その他（具体的に記入）

(回答者数=11人)

職務経験	性別	年代	回答
食品関係業務経験者	男性	60～69歳	プラスチックの可塑剤、土鍋、重金属等使い方により、溶出化学物質はそれなりにある
			溶出物質に係る研究が十分か不安
	女性	30～39歳	容器などは軽視されがち
		40～49歳	問題なく管理できているというポジティブな情報を目にしたことがない 変なおいと、舌に残る異質感が特に気になる
食品関係研究職経験者	男性	50～59歳	合成樹脂からの溶出について、十分議論されていない、研究されていないと思うから
	女性	70歳以上	酸により変色・変型
その他消費者一般	男性	30～39歳	仕事での関係上、いろいろ見聞きして
	女性	40～49歳	検査してみないとわかりづらい
		50～59歳	食品に容器包装からのにおいがうつっていると感じる場合があり、安全性に不安を感じる
		60～69歳	以前からずっと気になっていて微量が、体内にたまっていくとどうなるか不安

(11) その他について、不安を感じるようになったきっかけ その他（具体的に記入）

（回答者数=3人）

職務経験	性別	年代	回答
食品関係業務経験者	男性	60～69歳	食糧難の時代の「衛生思想」が今なお残っている（特に高齢者に）
	女性	50～59歳	使用量によって安全なものか不安
		60～69歳	海外旅行してその国の文化や考え方、衛生状態の程度の差をはっきり見ることが出来るので

⑦食品の安全性の観点から不安を感じた情報源（問5b）

問5b 問3において、「①非常に不安である」又は「②ある程度不安である」を選択した食品や物質等についてお聞きします。選択した食品や物質について不安を感じたのは、どのような情報源からですか。あてはまるものを全て選んでください。

(1) 遺伝子組換え食品について、不安を感じた情報源 その他（具体的に記入）

（回答者数=4人）

職務経験	性別	年代	回答
食品関係業務経験者	男性	60～69歳	日本から輸出味噌が輸入不可となった
その他消費者一般	女性	30～39歳	食品に表示されるようになってから
		40～49歳	存在しないものを人為的に造り上げたものだから
		60～69歳	どう考えても、遺伝子の組み換えはやってはいけないと思う

(2) いわゆる健康食品について、不安を感じた情報源 その他（具体的に記入）

（回答者数=6人）

職務経験	性別	年代	回答
食品関係業務経験者	男性	60～69歳	メーカーの広告
			高校野球児等までも飲んでいきます
食品関係研究職経験者	女性	60～69歳	自分が摂取してみた
医療・教育職経験者	男性	40～49歳	患者
その他消費者一般	男性	60～69歳	テレビコマーシャル等、サプリメントにしては誘引的、放置しすぎる
	女性	50～59歳	広告

(3) 汚染物質（カドミウム、メチル水銀等）について、不安を感じた情報源
 その他（具体的に記入）

(回答者数=4人)

職務経験	性別	年代	回答
食品関係業務経験者	男性	30～39歳	食品衛生法に記載
		40～49歳	ホームページ
食品関係研究職経験者	女性	60～69歳	レクチャー
その他消費者一般	男性	20～29歳	公害についての社会科の教科書

(4) 家畜用抗生物質について、不安を感じた情報源 その他（具体的に記入）

(回答者数=2人)

職務経験	性別	年代	回答
食品関係業務経験者	男性	30～39歳	情報源がわかりにくい
その他消費者一般	女性	40～49歳	映画

(5) 食品添加物について、不安を感じた情報源 その他（具体的に記入）

(回答者数=0人)

回答者はその他を選択したが、回答欄に記載なし

(6) 農薬について、不安を感じた情報源 その他（具体的に記入）

(回答者数=3人)

職務経験	性別	年代	回答
食品関係業務経験者	女性	40～49歳	実際に仕事で農薬の管理をチェックすることが過去にあり、現場での完全なミスのない管理は難しいのが現状ではないかと感じた(特に小さな農家や海外では)
			昔(今はわからないが、小学生の時)農薬散布するので外に出ないように言われた
			研修会講師

(7) BSE（牛海綿状脳症）について、不安を感じた情報源 その他（具体的に記入）

(回答者数=0人)

回答者なし

(8) 有害微生物（細菌・ウイルス・食中毒）について、不安を感じた情報源

その他（具体的に記入）

(回答者数=9人)

職務経験	性別	年代	回答
食品関係業務経験者	男性	60～69歳	安全(セミナー)
	女性	20～29歳	仕事で関係してくるため
		30～39歳	調理師会、保健所
		40～49歳	食品において微生物危害を、生産・流通・消費の全ての過程で完全に防ぐことは、難しいのではないかと、食品関係の仕事をしていて感じた 業務(品質管理職)により
食品関係研究職経験者	男性	40～49歳	自分の仕事から
医療・教育職経験者	女性	50～59歳	「カキ」の食中毒の経験あり
その他消費者一般	男性	60～69歳	大学の講座(聴講)
	女性	50～59歳	自分の体験から

(9) 体細胞クローン家畜由来食品について、不安を感じた情報源

その他（具体的に記入）

(回答者数=4人)

職務経験	性別	年代	回答
食品関係業務経験者	女性	50～59歳	十分なデータがないから
			知識・認識不足
その他消費者一般	女性	40～49歳	存在しないものを人為的に造り上げたものだから
		50～59歳	食品安全委員会リスクコミュニケーションに参加

(10) 器具・容器包装からの溶出化学物質について、不安を感じた情報源

その他（具体的に記入）

(回答者数=4人)

職務経験	性別	年代	回答
食品関係業務経験者	女性	40～49歳	食品衛生法の基準についての講演を聞いて
		50～59歳	知識不足、不安
医療・教育職経験者	女性	40～49歳	使用業者の現状について情報がない
その他消費者一般	女性	40～49歳	実物をさわって(パッケージ)、あきらかに品質の違いを見て

(11) その他について、不安を感じた情報源 その他（具体的に記入）

(回答者数=2人)

職務経験	性別	年代	回答
医療・教育職	男性	70歳以上	集団訴訟
経験者	女性	50～59歳	家族で症状発症した経験あり

2) 食品の安全性に関する情報について

①食品の安全性に関する情報源（問8）

問8 あなたは、食品の安全性に関する情報をどこから得ていますか。あなたが情報を得ているものを全て選んでください。また、情報を多く得ている先から順に3つ選んでください。

(回答者数=12人)

職務経験	性別	年代	回答
食品関係業務経験者	男性	40～49歳	インターネットの専門情報サイト(11、9に当る)
			どんな人でも、一言を重要視する姿勢で入手
			ホームページ(ニュースサイト・コミュニティサイト以外)
	女性	30～39歳	セミナー
40～49歳		独立行政法人農林水産消費安全技術センター	
食品関係研究職経験者	女性	60～69歳	食品包装の表示内容
医療・教育職経験者	女性	30～39歳	栄養士会、保健所
		40～49歳	国立健康・栄養研究所のHPより
			教科書会社が定期的に発行する資料
50～59歳	日経フードサイエンス(インターネット有料サイト)、私的勉強会とその会員(従来のイメージでの消費者団体ではない)		
その他消費者一般	男性	30～39歳	仕事上、食品加工場、商談先などの関係者から
	女性	40～49歳	映画

②食品の安全性に関する情報源の信頼度（問9）

問9 食品の安全性に関する情報を得る場合、次に掲げるメディアや機関・団体等の情報について、あなたが信頼できるものを全て選んでください。また、その中から信頼できる順に3つ選んでください。

（回答者数=8人）

職務経験	性別	年代	回答
食品関係業務経験者	男性	40～49歳	情報発信者の言はそれなりに真ありと認識、但し後々検証する
	女性	20～29歳	半信半疑と言うか、最近は事実と過剰報道が一緒になっていて、全てを信じられるものがなくなっています
		40～49歳	独立行政法人農林水産消費安全技術センター
		60～69歳	業界団体
医療・教育職経験者	女性	30～39歳	栄養士会、保健所
		40～49歳	国立健康・栄養研究所のHPより
		50～59歳	食のコミュニケーション円卓会議の会員の話
その他消費者一般	男性	30～39歳	テレビ、新聞は信用しない

3) 食品の安全性の確保について

②評価している食品安全委員会の活動分野（問11）

問11 問10において、「①評価している」又は「②ある程度は評価している」を選んだ方にお聞きします。その理由は、食品安全委員会のどの活動分野を評価しているからですか。あてはまるものを全て選んでください。

(回答者数=5人)

職務経験	性別	年代	回答
食品関係業務経験者	男性	40～49歳	少しづつ関心のあるものをていねいに解説する姿勢に好感を持っている
		60～69歳	リスクコミュニケーション意見交換会や他の講演会、講習会
その他消費者一般	女性	30～39歳	他の国の機関に比べ(厚労・農水など)、格段にコミュニケーション能力の高い学識者の方々が集まり、私達国民の側に立って物事を進め、情報提供されていると感じる
		40～49歳	緊急事態への対応が早く、適切に行なわれていて安心しています
その他消費者一般	女性	50～59歳	科学的に中立、公正な立場で、国民の食の安全確保に貢献していること その信頼性が少しずつ国民の理解につながり、広まってきているように感じる

③評価していない食品安全委員会の活動分野（問12）

問12 問10において、「③あまり評価していない」又は「④全く評価していない」を選んだ方にお聞きします。その理由は、食品安全委員会のどの活動分野を評価していないからですか。あてはまるものを全て選んでください。

(回答者数=10人)

職務経験	性別	年代	回答
食品関係業務経験者	男性	40～49歳	「リスクコミュニケーション」に「科学コミュニケーション」を採り入れている感があり、馴染めない それぞれが学術的に分離した現状にある為 知名度がゼロ、存在を知られていない 存在を知られていなければ何をやっても意味がない
		70歳以上	輸入食品(輸入依存率64%?)に対し無力である(中国産)
	女性	60～69歳	まだまだ一般的に知られて無く、消費者との距離が有り過ぎると思います
食品関係研究職経験者	女性	60～69歳	全般的姿勢 表面的 情報提供の方法、分野の偏り
医療・教育職経験者	女性	20～29歳	自分が食品安全委員会の活動を把握してないからです、すみません
		30～39歳	モニターをしていて受けとる情報からも、あまり役に立つ知識が得られないし、一般向けに発信しても、届いていない自己満足の気がするから
その他消費者一般	女性	30～39歳	真に人間の食の安全を考えて活動しているのか疑問を感じる
		40～49歳	私の周辺の人々でこの制度を知っている人は“0”=ゼロであること
		50～59歳	いっしょうけんめいにならなくて良いと言われた 委員の方の職務に対する意気込みが不安です

④食品安全委員会に期待する役割（問13）

問13 あなたは、食品安全委員会に何を期待しますか、あてはまるものを5つ以内で選んでください。

（回答者数=12人）

職務経験	性別	年代	回答
食品関係業務経験者	男性	30～39歳	厚生労働省や農林水産省へもっと主体的に関わってほしい
		40～49歳	食品安全週間の実施に期待
			諸外国の食品安全行政(規制等)に関する調査と国内行政の見直し
	60～69歳	食品衛生法など食品の安全性に係る法律は、当委員会も共管することにより、当委員会が所掌する部分については独立して施策できるようになってほしい	
	女性	30～39歳	季刊誌「食品安全」の様なものを、もっと専門的な広報誌を、多方面において発刊してほしいです 学校、給食施設、等においても、沢山の情報を公開してほしいです
食品関係研究職経験者	男性	40～49歳	メディア関連とのリスコミ
	女性	60～69歳	一般消費者へのブレイクダウン
医療・教育職経験者	女性	40～49歳	事件・事故の際は、委員会の専門の先生方が情報(テレビ等)に出て下さり、正しいコメントをのべる機会を持って頂きたい →あまりに専門家外の憶測のような報道があり、国民にとって不利益であると思われます インターネットを利用しない情報提供、新聞紙上などで
			50～59歳
その他消費者一般	男性	60～69歳	施策ベースでの日本の地位向上
	女性	50～59歳	トランス脂肪酸やいわゆる健康食品など健康被害を及ぼすものを、国民に広く知らせてほしい(食品安全委員会のファクトシートだけでなく)

⑤発がんの可能性が高いと感じる要因（問14）

問14 癌の原因になるものは何だと思いますか。あなたが癌の原因になると思うものを全て選んでください。

(回答者数=33人)

職務経験	性別	年代	回答	
食品関係業務経験者	男性	30～39歳	遺伝	
		40～49歳	水	
			遺伝	
			コーヒー、アスベスト、コーラなど	
			化粧品、暴飲暴食、衣類	
		60～69歳	運動	
	加齢、体質、活性酸素、アスベスト			
	女性	40～49歳	摂取量と継続性	
			生活習慣	
			遺伝的体質	
遺伝、遺伝子				
生活習慣、親からの遺伝				
50～59歳	遺伝的なもの			
食品関係研究職経験者	女性	40～49歳	紫外線	
		60～69歳	複合汚染による	
医療・教育職経験者	男性	40～49歳	硝酸窒素	
			肥満、生活習慣	
	女性	40～49歳	加齢	
			慢性的物理的刺激	
その他消費者一般	男性	60～69歳	運動不足	
			70歳以上	井戸水など
	女性	20～29歳	30～39歳	遺伝
				生活習慣の乱れ・過労・遺伝
		40～49歳	予防注射、インフルエンザ・BCGなど	
			遺伝	
			生活習慣	
			遺伝子、親や体質的なものの隔世遺伝etc...	
		50～59歳	40～49歳	遺伝的なもの
				遺伝によるもの
50～59歳	40～49歳	遺伝		
		長寿		
50～59歳	40～49歳	長寿		
		いわゆる健康食品の長期摂取		

統計表

性別（単位：人）

	全体	男性	女性
合計	406	148	258

年代（単位：人）

	全体	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
合計	406	27	93	115	66	95	10

職業（単位：人）

	全体	食品関係業務経験者	食品関係研究職経験者	医療・教育職経験者	その他消費者一般
合計	406	169	43	56	138

モニター（単位：人）

	全体	平成20年度以前から	平成21年度から
合計	406	217	189

問1.1 環境問題の不安の程度（単位：％）

	全体	①とても不安を感じる	②ある程度不安を感じる	③どちらともいえない	④あまり不安を感じない	⑤全く不安を感じない	⑥よくわからない	無回答・無効回答
合計	406	44.6	45.8	6.2	2.5	0.0	0.0	1.0

問1.2 自然災害の不安の程度（単位：％）

	全体	①とても不安を感じる	②ある程度不安を感じる	③どちらともいえない	④あまり不安を感じない	⑤全く不安を感じない	⑥よくわからない	無回答・無効回答
合計	406	31.5	52.2	9.4	5.4	0.2	0	1.2

問1.3 食品安全の不安の程度（単位：％）

	全体	①とても不安を感じる	②ある程度不安を感じる	③どちらともいえない	④あまり不安を感じない	⑤全く不安を感じない	⑥よくわからない	無回答・無効回答
合計	406	25.1	51.7	10.1	11.1	0.7	0	1.2

問1.4 重傷感染症(新型インフルエンザなど)の不安の程度（単位：％）

	全体	①とても不安を感じる	②ある程度不安を感じる	③どちらともいえない	④あまり不安を感じない	⑤全く不安を感じない	⑥よくわからない	無回答・無効回答
合計	406	30.5	49.5	11.6	6.9	0	0	1.5

問1.5 犯罪の不安の程度（単位：％）

	全体	①とても不安を感じる	②ある程度不安を感じる	③どちらともいえない	④あまり不安を感じない	⑤全く不安を感じない	⑥よくわからない	無回答・無効回答
合計	406	19.0	51.0	18.2	9.6	0.5	0.2	1.5

問1.6 戦争・テロの不安の程度（単位：％）

	全体	①とても不安を感じる	②ある程度不安を感じる	③どちらともいえない	④あまり不安を感じない	⑤全く不安を感じない	⑥よくわからない	無回答・無効回答
合計	406	14.3	41.9	21.7	16.7	2.5	1.5	1.5

問1.7 交通事故の不安の程度（単位：％）

	全体	①とても不安を感じる	②ある程度不安を感じる	③どちらともいえない	④あまり不安を感じない	⑤全く不安を感じない	⑥よくわからない	無回答・無効回答
合計	406	12.1	50.2	22.4	12.6	0.7	0.5	1.5

問2 食品購入時に最近、重視したこと（単位：％）

	全体	①価格	②おいしさ	③鮮度	④見栄え	⑤栄養	⑥安全性	⑦量・大きさ
合計	406	83.3	67.0	86.0	14.5	53.4	77.3	40.9

	⑧低カロリー・ヘルシー	⑨天然素材・自然素材	⑩簡便性（手間がかからない）	⑪季節感・旬	⑫産地（国産・海外産等）	⑬生産者・食品メーカー	⑭その他	⑮特になし	無回答・無効回答
合計	25.1	43.1	18.5	62.8	82.0	47.0	9.4	0.0	1.5

問3.1 遺伝子組換え食品の不安の程度（単位：％）

	全体	①非常に不安である	②ある程度不安である	③あまり不安を感じない	④全く不安を感じない	⑤よく知らない	無回答・無効回答
合計	406	19.5	45.1	27.1	7.1	0.5	0.7

問3.2 いわゆる健康食品の不安の程度（単位：％）

	全体	①非常に不安である	②ある程度不安である	③あまり不安を感じない	④全く不安を感じない	⑤よく知らない	無回答・無効回答
合計	406	10.6	51.0	32.0	3.4	2.2	0.7

問3.3 汚染物質（カドミウム、メチル水銀等）の不安の程度（単位：％）

	全体	①非常に不安である	②ある程度不安である	③あまり不安を感じない	④全く不安を感じない	⑤よく知らない	無回答・無効回答
合計	406	36.2	41.9	18.2	1.0	2.0	0.7

問3.4 家畜用抗生物質の不安の程度（単位：％）

	全体	①非常に不安である	②ある程度不安である	③あまり不安を感じない	④全く不安を感じない	⑤よく知らない	無回答・無効回答
合計	406	21.2	47.0	21.4	2.7	6.7	1.0

問3.5 食品添加物の不安の程度（単位：％）

	全体	①非常に不安である	②ある程度不安である	③あまり不安を感じない	④全く不安を感じない	⑤よく知らない	無回答・無効回答
合計	406	14.5	48.0	30.3	6.7	0.0	0.5

問3.6 農薬の不安の程度（単位：％）

	全体	①非常に不安である	②ある程度不安である	③あまり不安を感じない	④全く不安を感じない	⑤よく知らない	無回答・無効回答
合計	406	24.1	49.0	22.9	3.0	0.2	0.7

問3.7 BSE（牛海綿状脳症）の不安の程度（単位：％）

	全体	①非常に不安である	②ある程度不安である	③あまり不安を感じない	④全く不安を感じない	⑤よく知らない	無回答・無効回答
合計	406	23.4	38.4	29.6	6.7	1.2	0.7

問3.8 有害微生物（細菌・ウイルス・食中毒）の不安の程度（単位：％）

	全体	①非常に不安である	②ある程度不安である	③あまり不安を感じない	④全く不安を感じない	⑤よく知らない	無回答・無効回答
合計	406	26.4	53.2	17.7	1.0	0.7	1.0

問3.9 体細胞クローン家畜由来食品の不安の程度（単位：％）

	全体	①非常に不安である	②ある程度不安である	③あまり不安を感じない	④全く不安を感じない	⑤よく知らない	無回答・無効回答
合計	406	19.5	42.6	23.2	5.4	8.6	0.7

問3.10 器具・容器包装からの溶出化学物質の不安の程度（単位：％）

	全体	①非常に不安である	②ある程度不安である	③あまり不安を感じない	④全く不安を感じない	⑤よく知らない	無回答・無効回答
合計	406	16.5	51.0	26.1	3.2	2.5	0.7

問3.11 その他の不安の程度（単位：％）

	全体	①非常に不安である	②ある程度不安である	③あまり不安を感じない	④全く不安を感じない	⑤よく知らない	無回答・無効回答
合計	406	2.7	4.4	0.2	0.0	0.5	92.1

問4A.1 遺伝子組換え食品について不安を感じている理由（単位：％）

	全体	①科学的な根拠に疑問	②規格基準や表示等の規制が不十分	③事業者の法令遵守や衛生管理が不十分	④食品の安全性に関する情報が不十分	⑤過去に問題になった事例があり、不安	⑥漠然とした不安	⑦その他
合計	262	49.2	12.2	4.2	19.1	1.1	9.2	5.0

問4A.2 いわゆる健康食品について不安を感じている理由（単位：％）

	全体	①科学的な根拠に疑問	②規格基準や表示等の規制が不十分	③事業者の法令遵守や衛生管理が不十分	④食品の安全性に関する情報が不十分	⑤過去に問題になった事例があり、不安	⑥漠然とした不安	⑦その他	無回答・無効回答
合計	250	25.6	28.4	18.0	10.4	10.8	2.8	3.2	0.8

問4A.3 汚染物質(カドミウム、メチル水銀等)について不安を感じている理由（単位：％）

	全体	①科学的な根拠に疑問	②規格基準や表示等の規制が不十分	③事業者の法令遵守や衛生管理が不十分	④食品の安全性に関する情報が不十分	⑤過去に問題になった事例があり、不安	⑥漠然とした不安	⑦その他	無回答・無効回答
合計	317	7.3	6.9	18.0	8.8	49.5	6.3	2.8	0.3

問4A.4 家畜用抗生物質について不安を感じている理由（単位：％）

	全体	①科学的な根拠に疑問	②規格基準や表示等の規制が不十分	③事業者の法令遵守や衛生管理が不十分	④食品の安全性に関する情報が不十分	⑤過去に問題になった事例があり、不安	⑥漠然とした不安	⑦その他	無回答・無効回答
合計	277	14.4	12.6	35.4	19.5	5.4	9.0	3.2	0.4

問4A.5 食品添加物について不安を感じている理由（単位：％）

	全体	①科学的な根拠に疑問	②規格基準や表示等の規制が不十分	③事業者の法令遵守や衛生管理が不十分	④食品の安全性に関する情報が不十分	⑤過去に問題になった事例があり、不安	⑥漠然とした不安	⑦その他	無回答・無効回答
合計	254	10.6	25.6	28.0	16.1	11.0	4.7	3.9	0.0

問4A.6 農業について不安を感じている理由（単位：％）

	全体	①科学的な根拠に疑問	②規格基準や表示等の規制が不十分	③事業者の法令遵守や衛生管理が不十分	④食品の安全性に関する情報が不十分	⑤過去に問題になった事例があり、不安	⑥漠然とした不安	⑦その他	無回答・無効回答
合計	297	8.8	18.2	34.7	10.8	16.5	5.7	5.1	0.3

問4A.7 BSE(牛海綿状脳症)について不安を感じている理由（単位：％）

	全体	①科学的な根拠に疑問	②規格基準や表示等の規制が不十分	③事業者の法令遵守や衛生管理が不十分	④食品の安全性に関する情報が不十分	⑤過去に問題になった事例があり、不安	⑥漠然とした不安	⑦その他	無回答・無効回答
合計	251	20.3	4.8	18.7	5.2	39.0	8.0	3.6	0.4

問4A.8 有害微生物(細菌・ウイルス・食中毒)について不安を感じている理由（単位：％）

	全体	①科学的な根拠に疑問	②規格基準や表示等の規制が不十分	③事業者の法令遵守や衛生管理が不十分	④食品の安全性に関する情報が不十分	⑤過去に問題になった事例があり、不安	⑥漠然とした不安	⑦その他	無回答・無効回答
合計	323	5.3	5.0	40.9	6.8	27.9	9.6	3.7	0.9

問4A.9 体細胞クローン家畜由来食品について不安を感じている理由（単位：％）

	全体	①科学的な根拠に疑問	②規格基準や表示等の規制が不十分	③事業者の法令遵守や衛生管理が不十分	④食品の安全性に関する情報が不十分	⑤過去に問題になった事例があり、不安	⑥漠然とした不安	⑦その他	無回答・無効回答
合計	252	52.4	6.3	3.2	14.3	2.4	15.1	4.4	2.0

問4A.10 器具・容器包装からの溶出化学物質について不安を感じている理由（単位：%）

	全体	①科学的な根拠に疑問	②規格基準や表示等の規制が不十分	③事業者の法令遵守や衛生管理が不十分	④食品の安全性に関する情報が不十分	⑤過去に問題になった事例があり、不安	⑥漠然とした不安	⑦その他	無回答・無効回答
合計	274	10.9	27.0	18.2	10.6	16.1	13.1	4.0	0.0

問4A.11 その他について不安を感じている理由（単位：%）

	全体	①科学的な根拠に疑問	②規格基準や表示等の規制が不十分	③事業者の法令遵守や衛生管理が不十分	④食品の安全性に関する情報が不十分	⑤過去に問題になった事例があり、不安	⑥漠然とした不安	⑦その他	無回答・無効回答
合計	29	10.3	13.8	6.9	13.8	13.8	10.3	31.0	0.0

問4B.1 遺伝子組換え食品について不安を感じていない理由（単位：%）

	全体	①科学的な根拠に納得	②規格基準や表示等の規制が十分なされている	③事業者の法令遵守や衛生管理が十分なされている	④食品の安全性に関する情報が十分ある	⑤過去に問題になった事例がなく、安心	⑥漠然とした安心	⑦その他	無回答・無効回答
合計	139	48.2	11.5	1.4	2.9	15.8	12.2	4.3	3.6

問4B.2 いわゆる健康食品について不安を感じていない理由（単位：%）

	全体	①科学的な根拠に納得	②規格基準や表示等の規制が十分なされている	③事業者の法令遵守や衛生管理が十分なされている	④食品の安全性に関する情報が十分ある	⑤過去に問題になった事例がなく、安心	⑥漠然とした安心	⑦その他	無回答・無効回答
合計	144	9.0	18.1	12.5	4.2	6.9	20.8	18.8	9.7

問4B.3 汚染物質(カドミウム、メチル水銀等)について不安を感じていない理由（単位：%）

	全体	①科学的な根拠に納得	②規格基準や表示等の規制が十分なされている	③事業者の法令遵守や衛生管理が十分なされている	④食品の安全性に関する情報が十分ある	⑤過去に問題になった事例がなく、安心	⑥漠然とした安心	⑦その他	無回答・無効回答
合計	78	11.5	34.6	16.7	12.8	5.1	7.7	6.4	5.1

問4B.4 家畜用抗生物質について不安を感じていない理由（単位：%）

	全体	①科学的な根拠に納得	②規格基準や表示等の規制が十分なされている	③事業者の法令遵守や衛生管理が十分なされている	④食品の安全性に関する情報が十分ある	⑤過去に問題になった事例がなく、安心	⑥漠然とした安心	⑦その他	無回答・無効回答
合計	98	10.2	32.7	22.4	6.1	11.2	11.2	1.0	5.1

問4B.5 食品添加物について不安を感じていない理由（単位：%）

	全体	①科学的な根拠に納得	②規格基準や表示等の規制が十分なされている	③事業者の法令遵守や衛生管理が十分なされている	④食品の安全性に関する情報が十分ある	⑤過去に問題になった事例がなく、安心	⑥漠然とした安心	⑦その他	無回答・無効回答
合計	150	22.7	52.7	6.7	8.0	2.7	2.0	2.7	2.7

問4B.6 農業について不安を感じていない理由（単位：%）

	全体	①科学的な根拠に納得	②規格基準や表示等の規制が十分なされている	③事業者の法令遵守や衛生管理が十分なされている	④食品の安全性に関する情報が十分ある	⑤過去に問題になった事例がなく、安心	⑥漠然とした安心	⑦その他	無回答・無効回答
合計	105	24.8	43.8	14.3	6.7	1.9	3.8	1.9	2.9

問4B.7 BSE(牛海綿状脳症)について不安を感じていない理由（単位：%）

	全体	①科学的な根拠に納得	②規格基準や表示等の規制が十分なされている	③事業者の法令遵守や衛生管理が十分なされている	④食品の安全性に関する情報が十分ある	⑤過去に問題になった事例がなく、安心	⑥漠然とした安心	⑦その他	無回答・無効回答
合計	147	28.6	23.8	9.5	11.6	4.1	8.2	8.2	6.1

問4B.8 有害微生物(細菌・ウイルス・食中毒)について不安を感じていない理由 (単位:%)

	全体	① 科学的な根拠に納得	② 規格基準や表示等の規制が十分なされている	③ 事業者の法令遵守や衛生管理が十分なされている	④ 食品の安全性に関する情報が十分ある	⑤ 過去に問題になった事例がなく、安心	⑥ 漠然とした安心	⑦ その他	無回答・無効回答
合計	76	7.9	6.6	32.9	30.3	1.3	5.3	6.6	9.2

問4B.9 体細胞クローン家畜由来食品について不安を感じていない理由 (単位:%)

	全体	① 科学的な根拠に納得	② 規格基準や表示等の規制が十分なされている	③ 事業者の法令遵守や衛生管理が十分なされている	④ 食品の安全性に関する情報が十分ある	⑤ 過去に問題になった事例がなく、安心	⑥ 漠然とした安心	⑦ その他	無回答・無効回答
合計	116	47.4	12.1	3.4	4.3	12.9	12.9	1.7	5.2

問4B.10 器具・容器包装からの溶出化学物質について不安を感じていない理由 (単位:%)

	全体	① 科学的な根拠に納得	② 規格基準や表示等の規制が十分なされている	③ 事業者の法令遵守や衛生管理が十分なされている	④ 食品の安全性に関する情報が十分ある	⑤ 過去に問題になった事例がなく、安心	⑥ 漠然とした安心	⑦ その他	無回答・無効回答
合計	119	12.6	35.3	7.6	6.7	7.6	17.6	1.7	10.9

問4B.11 その他について不安を感じていない理由 (単位:%)

	全体	① 科学的な根拠に納得	② 規格基準や表示等の規制が十分なされている	③ 事業者の法令遵守や衛生管理が十分なされている	④ 食品の安全性に関する情報が十分ある	⑤ 過去に問題になった事例がなく、安心	⑥ 漠然とした安心	⑦ その他	無回答・無効回答
合計	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0

問5A.1 遺伝子組換え食品について不安を感じたきっかけ (単位:%)

	全体	① 自分自身が健康被害を受けたことがある	② 身のまわりで健康被害を受けた人がいる	③ 事件・事故のニュース・報道を見て	④ 危険性・有害性を示すデータを見て	⑤ 否定的・警鐘的な論調(新聞・雑誌・テレビ・書籍・論文など)に接して	⑥ テレビなどで衝撃的な映像を見て	⑦ 学校の授業を受けて	⑧ 講習会・セミナー等に参加して
合計	262	0.0	0.4	22.1	19.1	54.6	8.4	3.4	13.4

	⑨ 国や研究機関などからの勧告を見て	⑩ 家族や知人などから話を聞いて	⑪ なんとなく	⑫ その他	無回答・無効回答
合計	5.0	2.3	9.9	6.5	1.9

問5A.2 いわゆる健康食品について不安を感じたきっかけ (単位:%)

	全体	① 自分自身が健康被害を受けたことがある	② 身のまわりで健康被害を受けた人がいる	③ 事件・事故のニュース・報道を見て	④ 危険性・有害性を示すデータを見て	⑤ 否定的・警鐘的な論調(新聞・雑誌・テレビ・書籍・論文など)に接して	⑥ テレビなどで衝撃的な映像を見て	⑦ 学校の授業を受けて	⑧ 講習会・セミナー等に参加して
合計	250	2.0	8.8	51.6	15.2	31.2	8.4	4.0	10.4

	⑨ 国や研究機関などからの勧告を見て	⑩ 家族や知人などから話を聞いて	⑪ なんとなく	⑫ その他	無回答・無効回答
合計	9.2	6.4	8.0	7.6	1.6

問5A.3 汚染物質(カドミウム、メチル水銀等)について不安を感じたきっかけ (単位: %)

	全 体	①自分自身が健康被害を受けたことがある	②身のまわりで健康被害を受けた人がある	③事件・事故のニュース・報道を見て	④危険性・有害性を示すデータを見て	⑤否定的・警鐘的な論調(新聞・雑誌・テレビ・書籍・論文など)に接して	⑥テレビなどで衝撃的な映像を見て	⑦学校の授業を受けて	⑧講習会・セミナー等に参加して
合計	317	0.6	4.4	52.4	32.5	23.3	22.1	13.6	6.6

	⑨国や研究機関などからの勧告を見て	⑩家族や知人などから話を聞いて	⑪なんとなく	⑫その他	無回答・無効回答
合計	10.7	1.3	2.5	1.9	1.6

問5A.4 家畜用抗生物質について不安を感じたきっかけ (単位: %)

	全 体	①自分自身が健康被害を受けたことがある	②身のまわりで健康被害を受けた人がある	③事件・事故のニュース・報道を見て	④危険性・有害性を示すデータを見て	⑤否定的・警鐘的な論調(新聞・雑誌・テレビ・書籍・論文など)に接して	⑥テレビなどで衝撃的な映像を見て	⑦学校の授業を受けて	⑧講習会・セミナー等に参加して
合計	277	0.0	0.4	25.6	23.1	39.0	9.4	3.2	10.8

	⑨国や研究機関などからの勧告を見て	⑩家族や知人などから話を聞いて	⑪なんとなく	⑫その他	無回答・無効回答
合計	4.7	6.1	11.6	4.3	1.4

問5A.5 食品添加物について不安を感じたきっかけ (単位: %)

	全 体	①自分自身が健康被害を受けたことがある	②身のまわりで健康被害を受けた人がある	③事件・事故のニュース・報道を見て	④危険性・有害性を示すデータを見て	⑤否定的・警鐘的な論調(新聞・雑誌・テレビ・書籍・論文など)に接して	⑥テレビなどで衝撃的な映像を見て	⑦学校の授業を受けて	⑧講習会・セミナー等に参加して
合計	254	0.8	5.5	27.2	36.6	37.8	9.8	10.6	16.9

	⑨国や研究機関などからの勧告を見て	⑩家族や知人などから話を聞いて	⑪なんとなく	⑫その他	無回答・無効回答
合計	5.5	7.9	6.3	4.7	0.8

問5A.6 農薬について不安を感じたきっかけ (単位: %)

	全 体	①自分自身が健康被害を受けたことがある	②身のまわりで健康被害を受けた人がある	③事件・事故のニュース・報道を見て	④危険性・有害性を示すデータを見て	⑤否定的・警鐘的な論調(新聞・雑誌・テレビ・書籍・論文など)に接して	⑥テレビなどで衝撃的な映像を見て	⑦学校の授業を受けて	⑧講習会・セミナー等に参加して
合計	297	1.0	7.7	44.4	31.3	32.0	18.9	7.7	13.1

	⑨国や研究機関などからの勧告を見て	⑩家族や知人などから話を聞いて	⑪なんとなく	⑫その他	無回答・無効回答
合計	3.4	5.1	5.4	2.7	1.7

問5A.7 BSE(牛海綿状脳症)について不安を感じたきっかけ (単位:%)

	全 体	①自分自身が健康被害を受けたことがある	②身のまわりで健康被害を受けた人がある	③事件・事故のニュース・報道を見て	④危険性・有害性を示すデータを見て	⑤否定的・警鐘的な論調(新聞・雑誌・テレビ・書籍・論文など)に接して	⑥テレビなどで衝撃的な映像を見て	⑦学校の授業を受けて	⑧講習会・セミナー等に参加して
合計	251	0.0	0.0	61.0	18.3	32.7	29.1	2.8	6.8

	⑨国や研究機関などからの勧告を見て	⑩家族や知人などから話を聞いて	⑪なんとなく	⑫その他	無回答・無効回答
合計	12.0	3.2	2.0	1.2	1.6

問5A.8 有害微生物(細菌・ウイルス・食中毒)について不安を感じたきっかけ (単位:%)

	全 体	①自分自身が健康被害を受けたことがある	②身のまわりで健康被害を受けた人がある	③事件・事故のニュース・報道を見て	④危険性・有害性を示すデータを見て	⑤否定的・警鐘的な論調(新聞・雑誌・テレビ・書籍・論文など)に接して	⑥テレビなどで衝撃的な映像を見て	⑦学校の授業を受けて	⑧講習会・セミナー等に参加して
合計	323	11.1	21.7	58.5	23.5	16.4	11.1	8.7	16.1

	⑨国や研究機関などからの勧告を見て	⑩家族や知人などから話を聞いて	⑪なんとなく	⑫その他	無回答・無効回答
合計	10.2	4.0	2.5	1.9	2.8

問5A.9 体細胞クローン家畜由来食品について不安を感じたきっかけ (単位:%)

	全 体	①自分自身が健康被害を受けたことがある	②身のまわりで健康被害を受けた人がある	③事件・事故のニュース・報道を見て	④危険性・有害性を示すデータを見て	⑤否定的・警鐘的な論調(新聞・雑誌・テレビ・書籍・論文など)に接して	⑥テレビなどで衝撃的な映像を見て	⑦学校の授業を受けて	⑧講習会・セミナー等に参加して
合計	252	0.0	0.4	25.8	15.1	49.2	12.3	2.4	8.7

	⑨国や研究機関などからの勧告を見て	⑩家族や知人などから話を聞いて	⑪なんとなく	⑫その他	無回答・無効回答
合計	6.0	1.6	16.3	4.4	2.4

問5A.10 器具・容器包装からの溶出化学物質について不安を感じたきっかけ (単位:%)

	全 体	①自分自身が健康被害を受けたことがある	②身のまわりで健康被害を受けた人がある	③事件・事故のニュース・報道を見て	④危険性・有害性を示すデータを見て	⑤否定的・警鐘的な論調(新聞・雑誌・テレビ・書籍・論文など)に接して	⑥テレビなどで衝撃的な映像を見て	⑦学校の授業を受けて	⑧講習会・セミナー等に参加して
合計	274	1.1	1.8	28.5	29.2	28.1	7.7	4.4	11.3

	⑨国や研究機関などからの勧告を見て	⑩家族や知人などから話を聞いて	⑪なんとなく	⑫その他	無回答・無効回答
合計	5.8	4.7	16.4	4.7	4.0

問5A.11 その他について不安を感じたきっかけ（単位：%）

	全 体	①自分自身が健康被害を受けたことがある	②身のまわりで健康被害を受けた人がいる	③事件・事故のニュース・報道を見て	④危険性・有害性を示すデータを見て	⑤否定的・警鐘的な論調(新聞・雑誌・テレビ・書籍・論文など)に接して	⑥テレビなどで衝撃的な映像を見て	⑦学校の授業を受けて	⑧講習会・セミナー等に参加して
合計	29	0.0	10.3	34.5	20.7	13.8	10.3	0.0	10.3

	⑨国や研究機関などからの勧告を見て	⑩家族や知人などから話を聞いて	⑪なんとなく	⑫その他	無回答・無効回答
合計	6.9	0.0	3.4	10.3	17.2

問5B.1 遺伝子組換え食品について不安を感じた情報源（単位：%）

	全 体	①テレビ：ニュース・報道番組	②テレビ：ワイドショー・情報番組	③テレビ：ドキュメンタリー番組	④ラジオ	⑤新聞	⑥雑誌	⑦書籍	⑧インターネット上のニュースサイト
合計	262	40.8	16.0	19.1	2.3	27.9	13.4	21.0	4.6

	⑨インターネット上のコミュニティサイト(SNS等)	⑩個人のブログ	⑪行政(国、地方自治体等)	⑫生産者・食品メーカー	⑬スーパー・小売店	⑭生協などの協同組合	⑮大学・研究機関・研究者	⑯学校(幼稚園、小・中学校、高校)	⑰病院
合計	1.1	0.8	5.3	2.3	1.1	11.1	9.5	0.8	0.8

	⑱NPO・消費者団体	⑲家族・知人	⑳その他	21特になし	無回答・無効回答
合計	7.3	3.1	2.3	1.1	6.1

問5B.2 いわゆる健康食品について不安を感じた情報源（単位：%）

	全 体	①テレビ：ニュース・報道番組	②テレビ：ワイドショー・情報番組	③テレビ：ドキュメンタリー番組	④ラジオ	⑤新聞	⑥雑誌	⑦書籍	⑧インターネット上のニュースサイト
合計	250	46.0	23.6	12.0	3.2	28.0	14.0	13.6	7.6

	⑨インターネット上のコミュニティサイト(SNS等)	⑩個人のブログ	⑪行政(国、地方自治体等)	⑫生産者・食品メーカー	⑬スーパー・小売店	⑭生協などの協同組合	⑮大学・研究機関・研究者	⑯学校(幼稚園、小・中学校、高校)	⑰病院
合計	1.6	0.8	11.2	4.0	1.2	3.6	14.0	1.2	1.6

	⑱NPO・消費者団体	⑲家族・知人	⑳その他	21特になし	無回答・無効回答
合計	3.2	9.2	2.8	1.2	4.0

問5B.3 汚染物質(カドミウム、メチル水銀等)について不安を感じた情報源 (単位: %)

	全 体	①テレビ: ニュース・ 報道番組	②テレビ: ワイド ショー・情報 番組	③テレビ:ド キュメンタ リー番組	④ラジオ	⑤新聞	⑥雑誌	⑦書籍	⑧インター ネット上の ニュースサ イト
合計	317	47.3	16.1	33.1	3.5	33.4	10.4	20.2	3.8

	⑨インター ネット上の コミュニティ サイト(SN S等)	⑩個人のブ ログ	⑪行政 (国、地方 自治体等)	⑫生産者・ 食品メー カー	⑬スー パー・小売 店	⑭生協など の協同組合	⑮大学・研 究機関・研 究者	⑯学校(幼 稚園、小・ 中学校、高 校)	⑰病院
合計	0.6	0.3	8.5	1.3	0.6	2.2	15.8	8.8	0.6

	⑱NPO・消 費者団体	⑲家族・知 人	⑳その他	21特になし	無回答・無 効回答
合計	2.8	2.2	1.3	1.3	5.0

問5B.4 家畜用抗生物質について不安を感じた情報源 (単位: %)

	全 体	①テレビ: ニュース・ 報道番組	②テレビ: ワイド ショー・情報 番組	③テレビ:ド キュメンタ リー番組	④ラジオ	⑤新聞	⑥雑誌	⑦書籍	⑧インター ネット上の ニュースサ イト
合計	277	31.4	14.1	15.9	2.2	22.0	15.5	18.1	5.1

	⑨インター ネット上の コミュニティ サイト(SN S等)	⑩個人のブ ログ	⑪行政 (国、地方 自治体等)	⑫生産者・ 食品メー カー	⑬スー パー・小売 店	⑭生協など の協同組合	⑮大学・研 究機関・研 究者	⑯学校(幼 稚園、小・ 中学校、高 校)	⑰病院
合計	1.4	0.4	6.9	2.9	1.4	7.9	9.7	1.8	1.1

	⑱NPO・消 費者団体	⑲家族・知 人	⑳その他	21特になし	無回答・無 効回答
合計	5.4	5.4	1.1	3.2	5.8

問5B.5 食品添加物について不安を感じた情報源 (単位: %)

	全 体	①テレビ: ニュース・ 報道番組	②テレビ: ワイド ショー・情報 番組	③テレビ:ド キュメンタ リー番組	④ラジオ	⑤新聞	⑥雑誌	⑦書籍	⑧インター ネット上の ニュースサ イト
合計	254	26.4	14.2	14.6	2.8	24.4	19.3	37.4	3.1

	⑨インター ネット上の コミュニティ サイト(SN S等)	⑩個人のブ ログ	⑪行政 (国、地方 自治体等)	⑫生産者・ 食品メー カー	⑬スー パー・小売 店	⑭生協など の協同組合	⑮大学・研 究機関・研 究者	⑯学校(幼 稚園、小・ 中学校、高 校)	⑰病院
合計	1.2	0.4	9.1	4.7	1.2	12.6	16.1	3.5	0.4

	⑱NPO・消 費者団体	⑲家族・知 人	⑳その他	21特になし	無回答・無 効回答
合計	6.7	8.3	0.4	2.0	3.5

問5B.6 農業について不安を感じた情報源（単位：%）

	全 体	①テレビ： ニュース・ 報道番組	②テレビ： ワイド ショー・情報 番組	③テレビ：ド キュメンタ リー番組	④ラジオ	⑤新聞	⑥雑誌	⑦書籍	⑧インター ネット上の ニュースサ イト
合計	297	44.8	18.2	24.9	2.7	30.3	15.5	24.9	4.7

	⑨インター ネット上の コミュニテ ィサイト(SN S等)	⑩個人のブ ログ	⑪行政 (国、地方 自治体等)	⑫生産者・ 食品メー カー	⑬スー パー・小売 店	⑭生協など の協同組合	⑮大学・研 究機関・研 究者	⑯学校(幼 稚園、小・ 中学校、高 校)	⑰病院
合計	2.0	1.0	7.7	5.7	1.3	8.4	11.1	4.0	0.3

	⑱NPO・消 費者団体	⑲家族・知 人	⑳その他	21特になし	無回答・無 効回答
合計	5.7	6.7	1.0	2.4	4.4

問5B.7 BSE(牛海綿状脳症)について不安を感じた情報源（単位：%）

	全 体	①テレビ： ニュース・ 報道番組	②テレビ： ワイド ショー・情報 番組	③テレビ：ド キュメンタ リー番組	④ラジオ	⑤新聞	⑥雑誌	⑦書籍	⑧インター ネット上の ニュースサ イト
合計	251	72.1	22.3	23.1	4.4	34.7	10.4	15.1	5.6

	⑨インター ネット上の コミュニテ ィサイト(SN S等)	⑩個人のブ ログ	⑪行政 (国、地方 自治体等)	⑫生産者・ 食品メー カー	⑬スー パー・小売 店	⑭生協など の協同組合	⑮大学・研 究機関・研 究者	⑯学校(幼 稚園、小・ 中学校、高 校)	⑰病院
合計	1.6	0.4	8.0	0.8	1.2	3.2	9.6	1.2	0.4

	⑱NPO・消 費者団体	⑲家族・知 人	⑳その他	21特になし	無回答・無 効回答
合計	4.0	2.4	0.0	0.0	5.6

問5B.8 有害微生物(細菌・ウイルス・食中毒)について不安を感じた情報源（単位：%）

	全 体	①テレビ： ニュース・ 報道番組	②テレビ： ワイド ショー・情報 番組	③テレビ：ド キュメンタ リー番組	④ラジオ	⑤新聞	⑥雑誌	⑦書籍	⑧インター ネット上の ニュースサ イト
合計	323	52.0	13.9	13.9	4.3	38.7	9.6	18.3	6.2

	⑨インター ネット上の コミュニテ ィサイト(SN S等)	⑩個人のブ ログ	⑪行政 (国、地方 自治体等)	⑫生産者・ 食品メー カー	⑬スー パー・小売 店	⑭生協など の協同組合	⑮大学・研 究機関・研 究者	⑯学校(幼 稚園、小・ 中学校、高 校)	⑰病院
合計	0.9	0.3	18.6	3.7	0.6	2.8	17.0	2.5	4.6

	⑱NPO・消 費者団体	⑲家族・知 人	⑳その他	21特になし	無回答・無 効回答
合計	4.0	9.6	3.1	0.9	5.3

問5B.9 体細胞クローン家畜由来食品について不安を感じた情報源（単位：%）

	全 体	①テレビ： ニュース・ 報道番組	②テレビ： ワイド ショー・情報 番組	③テレビ：ド キュメンタ リー番組	④ラジオ	⑤新聞	⑥雑誌	⑦書籍	⑧インター ネット上の ニュースサ イト
合計	252	46.0	19.8	23.0	3.6	30.6	16.3	13.1	6.0

	⑨インター ネット上の コミュニティ サイト(SN S等)	⑩個人のブ ログ	⑪行政 (国、地方 自治体等)	⑫生産者・ 食品メー カー	⑬スー パー・小売 店	⑭生協など の協同組合	⑮大学・研 究機関・研 究者	⑯学校(幼 稚園、小・ 中学校、高 校)	⑰病院
合計	1.2	0.4	7.1	0.8	0.8	6.3	6.7	1.2	0.4

	⑱NPO・消 費者団体	⑲家族・知 人	⑳その他	21特になし	無回答・無 効回答
合計	6.3	2.8	2.4	5.6	5.6

問5B.10 器具・容器包装からの溶出化学物質について不安を感じた情報源（単位：%）

	全 体	①テレビ： ニュース・ 報道番組	②テレビ： ワイド ショー・情報 番組	③テレビ：ド キュメンタ リー番組	④ラジオ	⑤新聞	⑥雑誌	⑦書籍	⑧インター ネット上の ニュースサ イト
合計	274	34.3	13.5	13.1	1.8	22.6	15.7	16.8	5.8

	⑨インター ネット上の コミュニティ サイト(SN S等)	⑩個人のブ ログ	⑪行政 (国、地方 自治体等)	⑫生産者・ 食品メー カー	⑬スー パー・小売 店	⑭生協など の協同組合	⑮大学・研 究機関・研 究者	⑯学校(幼 稚園、小・ 中学校、高 校)	⑰病院
合計	1.8	0.4	6.6	2.6	1.8	6.2	11.3	2.6	0.4

	⑱NPO・消 費者団体	⑲家族・知 人	⑳その他	21特になし	無回答・無 効回答
合計	6.9	5.1	2.6	5.8	6.6

問5B.11 その他について不安を感じた情報源（単位：%）

	全 体	①テレビ： ニュース・ 報道番組	②テレビ： ワイド ショー・情報 番組	③テレビ：ド キュメンタ リー番組	④ラジオ	⑤新聞	⑥雑誌	⑦書籍	⑧インター ネット上の ニュースサ イト
合計	29	24.1	3.4	10.3	0.0	13.8	10.3	17.2	10.3

	⑨インター ネット上の コミュニティ サイト(SN S等)	⑩個人のブ ログ	⑪行政 (国、地方 自治体等)	⑫生産者・ 食品メー カー	⑬スー パー・小売 店	⑭生協など の協同組合	⑮大学・研 究機関・研 究者	⑯学校(幼 稚園、小・ 中学校、高 校)	⑰病院
合計	0.0	0.0	6.9	3.4	3.4	0.0	10.3	0.0	0.0

	⑱NPO・消 費者団体	⑲家族・知 人	⑳その他	21特になし	無回答・無 効回答
合計	0.0	10.3	10.3	0.0	24.1

問7 残留農薬の基準について正しいと思うこと（単位：%）

	全 体	①人の健康を損なうおそれのない量の農薬の食品中への残留が認められている	②一部の農薬については、残留基準（一律基準を含む）が設定されていない	③残留農薬に対する規制は加工食品も対象である	④加工食品には農薬が残留してはいけない	⑤わからない	⑥上記のいずれも正しくない	無回答・無効回答
合計	406	80.0	38.0	53.0	12.0	10.0	2.0	0.0

問8 食品の安全性に関する情報源（複数回答）（単位：%）

	全 体	①テレビ：ニュース・報道番組	②テレビ：ワイドショー・情報番組	③テレビ：ドキュメンタリー番組	④ラジオ	⑤新聞	⑥一般の雑誌（週刊誌、月刊誌など）	⑦専門誌	⑧一般の書籍
合計	406	85.7	41.1	49.5	15.3	84.2	33.5	37.7	32.3

	⑨専門書・学術書・論文等	⑩インターネット上のニュースサイト	⑪インターネット上のコミュニティサイト（SNS等）	⑫厚生労働省	⑬農林水産省	⑭食品安全委員会	⑮保健所などの地方自治体	⑯生産者・食品メーカー	⑰スーパー・小売店
合計	27.1	32.5	9.6	41.1	38.2	74.4	34.0	26.1	17.2

	⑱生協などの協同組合	⑲大学・研究機関・研究所	⑳学校（幼稚園、小・中学校、高校）	21病院	22NPO・消費者団体	23家族・知人	24個人のブログ	25その他	無回答・無効回答
合計	24.9	21.4	6.2	4.4	12.3	18.5	3.4	3.0	0.0

問8 食品の安全性に関する情報源（各順位の回答者数の合計から割合を算出）（単位：%）

	全 体	①テレビ：ニュース・報道番組	②テレビ：ワイドショー・情報番組	③テレビ：ドキュメンタリー番組	④ラジオ	⑤新聞	⑥一般の雑誌（週刊誌、月刊誌など）	⑦専門誌	⑧一般の書籍
合計	406	57.1	14.3	10.6	2.2	58.4	7.6	12.6	8.9

	⑨専門書・学術書・論文等	⑩インターネット上のニュースサイト	⑪インターネット上のコミュニティサイト（SNS等）	⑫厚生労働省	⑬農林水産省	⑭食品安全委員会	⑮保健所などの地方自治体	⑯生産者・食品メーカー	⑰スーパー・小売店
合計	7.4	11.3	2.2	13.1	10.1	40.1	7.6	4.2	2.2

	⑱生協などの協同組合	⑲大学・研究機関・研究所	⑳学校（幼稚園、小・中学校、高校）	21病院	22NPO・消費者団体	23家族・知人	24個人のブログ	25その他	無回答・無効回答
合計	8.1	6.9	0.0	0.2	3.4	4.2	0.7	1.0	5.4

問8.1 食品の安全性に関する情報源(1位) (単位:%)

	全体	①テレビ: ニュース・ 報道番組	②テレビ: ワイド ショー・情報 番組	③テレビ:ド キュメンタ リー番組	④ラジオ	⑤新聞	⑥一般の雑 誌(週刊 誌、月刊誌 など)	⑦専門誌	⑧一般の書 籍
合計	406	36.0	3.2	1.2	0.2	17.7	1.0	3.4	1.7

	⑨専門書・ 学術書・論 文等	⑩インター ネット上の ニュースサ イト	⑪インター ネット上の コミュニテ ィサイト(SN S等)	⑫厚生労働 省	⑬農林水産 省	⑭食品安全 委員会	⑮保健所な どの地方自 治体	⑯生産者・ 食品メー カー	⑰スー パー・小売 店
合計	2.0	3.0	0.2	2.2	1.5	16.3	1.0	0.7	0.2

	⑱生協など の協同組合	⑲大学・研 究機関・研 究所	⑳学校(幼 稚園、小・ 中学校、高 校)	21病院	22NPO・消 費者団体	23家族・知 人	24個人のブ ログ	25その他	無回答・無 効回答
合計	3.0	1.7	0.0	0.0	0.2	1.7	0.0	0.5	1.2

問8.2 食品の安全性に関する情報源(2位) (単位:%)

	全体	①テレビ: ニュース・ 報道番組	②テレビ: ワイド ショー・情報 番組	③テレビ:ド キュメンタ リー番組	④ラジオ	⑤新聞	⑥一般の雑 誌(週刊 誌、月刊誌 など)	⑦専門誌	⑧一般の書 籍
合計	406	14.8	7.6	3.7	0.7	24.4	2.7	4.4	3.0

	⑨専門書・ 学術書・論 文等	⑩インター ネット上の ニュースサ イト	⑪インター ネット上の コミュニテ ィサイト(SN S等)	⑫厚生労働 省	⑬農林水産 省	⑭食品安全 委員会	⑮保健所な どの地方自 治体	⑯生産者・ 食品メー カー	⑰スー パー・小売 店
合計	2.7	3.9	0.7	5.9	4.7	8.6	2.7	1.2	0.2

	⑱生協など の協同組合	⑲大学・研 究機関・研 究所	⑳学校(幼 稚園、小・ 中学校、高 校)	21病院	22NPO・消 費者団体	23家族・知 人	24個人のブ ログ	25その他	無回答・無 効回答
合計	2.0	2.5	0.0	0.0	1.2	0.2	0.0	0.0	2.0

問8.3 食品の安全性に関する情報源(3位) (単位:%)

	全体	①テレビ: ニュース・ 報道番組	②テレビ: ワイド ショー・情報 番組	③テレビ:ド キュメンタ リー番組	④ラジオ	⑤新聞	⑥一般の雑 誌(週刊 誌、月刊誌 など)	⑦専門誌	⑧一般の書 籍
合計	406	6.4	3.4	5.7	1.2	16.3	3.9	4.7	4.2

	⑨専門書・ 学術書・論 文等	⑩インター ネット上の ニュースサ イト	⑪インター ネット上の コミュニテ ィサイト(SN S等)	⑫厚生労働 省	⑬農林水産 省	⑭食品安全 委員会	⑮保健所な どの地方自 治体	⑯生産者・ 食品メー カー	⑰スー パー・小売 店
合計	2.7	4.4	1.2	4.9	3.9	15.3	3.9	2.2	1.7

	⑱生協など の協同組合	⑲大学・研 究機関・研 究所	⑳学校(幼 稚園、小・ 中学校、高 校)	21病院	22NPO・消 費者団体	23家族・知 人	24個人のブ ログ	25その他	無回答・無 効回答
合計	3.2	2.7	0.0	0.2	2.0	2.2	0.7	0.5	2.2

問9 食品の安全性に関する情報源の信頼度(複数回答) (単位:%)

	全 体	①テレビ: ニュース・ 報道番組	②テレビ: ワイド ショー・情報 番組	③テレビ:ド キュメンタ リー番組	④ラジオ	⑤新聞	⑥一般の雑 誌(週刊 誌、月刊誌 など)	⑦専門誌	⑧一般の書 籍
合計	406	56.7	13.8	28.3	10.3	62.8	10.8	51.7	11.8

	⑨専門書・ 学術書・論 文等	⑩インター ネット上の ニュースサ イト	⑪インター ネット上の コミュニテ ィサイト(SN S等)	⑫厚生労働 省	⑬農林水産 省	⑭食品安全 委員会	⑮保健所な どの地方自 治体	⑯生産者・ 食品メー カー	⑰スー パー・小売 店
合計	44.1	10.6	4.2	56.9	51.7	84.2	48.0	11.3	5.4

	⑱生協など の協同組合	⑲大学・研 究機関・研 究所	⑳学校(幼 稚園、小・ 中学校、高 校)	21病院	22NPO・消 費者団体	23家族・知 人	24個人のブ ログ	25その他	26上記のう ち、信頼で きるものは ない	無回答・無 効回答
合計	16.5	37.2	6.2	10.1	13.5	7.1	1.0	2.0	1.5	0.5

問9 食品の安全性に関する情報源の信頼度(各順位の回答者数の合計から割合を算出) (単位:%)

	全 体	①テレビ: ニュース・ 報道番組	②テレビ: ワイド ショー・情報 番組	③テレビ:ド キュメンタ リー番組	④ラジオ	⑤新聞	⑥一般の雑 誌(週刊 誌、月刊誌 など)	⑦専門誌	⑧一般の書 籍	⑨専門書・ 学術書・論 文等
合計	406	27.8	2.0	6.7	0.7	32.5	1.2	19.5	2.2	17.0

	⑩インター ネット上の ニュースサ イト	⑪インター ネット上の コミュニテ ィサイト(SN S等)	⑫厚生労働 省	⑬農林水産 省	⑭食品安全 委員会	⑮保健所な どの地方自 治体	⑯生産者・ 食品メー カー	⑰スー パー・小売 店	⑱生協など の協同組合	⑲大学・研 究機関・研 究所
合計	3.2	0.5	29.3	22.9	70.7	15.3	1.7	1.0	6.7	15.5

	⑳学校(幼 稚園、小・ 中学校、高 校)	21病院	22NPO・消 費者団体	23家族・知 人	24個人のブ ログ	25その他	26上記のう ち、信頼で きるものは ない	無回答・無 効回答
合計	0.7	0.7	4.4	2.2	0.2	1.0	0.0	14.3

問9.1 食品の安全性に関する情報源の信頼度(1位) (単位:%)

	全 体	①テレビ: ニュース・ 報道番組	②テレビ: ワイド ショー・情報 番組	③テレビ:ド キュメンタ リー番組	④ラジオ	⑤新聞	⑥一般の雑 誌(週刊 誌、月刊誌 など)	⑦専門誌	⑧一般の書 籍	⑨専門書・ 学術書・論 文等
合計	406	10.3	0.0	0.5	0.0	7.1	0.0	5.9	0.5	4.7

	⑩インター ネット上の ニュースサ イト	⑪インター ネット上の コミュニテ ィサイト(SN S等)	⑫厚生労働 省	⑬農林水産 省	⑭食品安全 委員会	⑮保健所な どの地方自 治体	⑯生産者・ 食品メー カー	⑰スー パー・小売 店	⑱生協など の協同組合	⑲大学・研 究機関・研 究所
合計	0.2	0.0	9.4	2.0	43.8	3.0	0.0	0.0	1.7	4.7

	⑳学校(幼 稚園、小・ 中学校、高 校)	21病院	22NPO・消 費者団体	23家族・知 人	24個人のブ ログ	25その他	26上記のう ち、信頼で きるものは ない	無回答・無 効回答
合計	0.0	0.2	0.7	1.7	0.0	0.0	0.0	3.4

問9.2 食品の安全性に関する情報源の信頼度(2位) (単位:%)

	全 体	①テレビ: ニュース・ 報道番組	②テレビ: ワイド ショー・情報 番組	③テレビ:ド キュメンタ リー番組	④ラジオ	⑤新聞	⑥一般の雑 誌(週刊 誌、月刊誌 など)	⑦専門誌	⑧一般の書 籍	⑨専門書・ 学術書・論 文等
合計	406	8.6	0.7	2.0	0.2	11.3	0.2	5.9	0.5	6.4

	⑩インター ネット上の ニュースサ イト	⑪インター ネット上の コミュニテ ィサイト(SN S等)	⑫厚生労働 省	⑬農林水産 省	⑭食品安全 委員会	⑮保健所な どの地方自 治体	⑯生産者・ 食品メー カー	⑰スー パー・小売 店	⑱生協など の協同組合	⑲大学・研 究機関・研 究所
合計	1.5	0.2	13.8	9.9	14.0	6.4	0.5	0.5	3.0	6.7

	⑳学校(幼 稚園、小・ 中学校、高 校)	21病院	22NPO・消 費者団体	23家族・知 人	24個人のブ ログ	25その他	26上記のう ち、信頼で きるものは ない	無回答・無 効回答
合計	0.2	0.2	1.7	0.5	0.0	0.7	0.0	4.2

問9.3 食品の安全性に関する情報源の信頼度(3位) (単位:%)

	全 体	①テレビ: ニュース・ 報道番組	②テレビ: ワイド ショー・情報 番組	③テレビ:ド キュメンタ リー番組	④ラジオ	⑤新聞	⑥一般の雑 誌(週刊 誌、月刊誌 など)	⑦専門誌	⑧一般の書 籍	⑨専門書・ 学術書・論 文等
合計	406	8.9	1.2	4.2	0.5	14.0	1.0	7.6	1.2	5.9

	⑩インター ネット上の ニュースサ イト	⑪インター ネット上の コミュニテ ィサイト(SN S等)	⑫厚生労働 省	⑬農林水産 省	⑭食品安全 委員会	⑮保健所な どの地方自 治体	⑯生産者・ 食品メー カー	⑰スー パー・小売 店	⑱生協など の協同組合	⑲大学・研 究機関・研 究所
合計	1.5	0.2	6.2	11.1	12.8	5.9	1.2	0.5	2.0	4.2

	⑳学校(幼 稚園、小・ 中学校、高 校)	21病院	22NPO・消 費者団体	23家族・知 人	24個人のブ ログ	25その他	26上記のう ち、信頼で きるものは ない	無回答・無 効回答
合計	0.5	0.2	2.0	0.0	0.2	0.2	0.0	6.7

問10 食品安全委員会のこの1年間の活動に対する評価 (単位:%)

	全 体	①評価して いる	②ある程度 は評価して いる	③あまり評 価してい ない	④全く評価 していない	無回答・無 効回答
合計	406	41.4	52.5	5.7	0.2	0.2

問11 評価している食品安全委員会の活動分野（単位：％）

	全体	①厚生労働省や農林水産省等から諮問を受けて行う食品健康影響評価	②食品安全委員会が自らの判断により行う食品健康影響評価	③食品健康影響評価の結果に基づく施策の実施状況の監視(モニタリング)	④食品の安全性に関する科学的な根拠に基づいた情報の提供(加工食品中のアクリルアミドやトランス脂肪酸等のファクトシート等)	⑤緊急事態への対応(重要なお知らせのホームページ掲載、臨時メールマガジンの発行等)	⑥食品安全委員会委員長談話等の迅速な情報提供(新型インフルエンザ、愛知県のおうずら飼養農家における鳥インフルエンザの発生等)	⑦科学的調査や研究事業の取組	⑧「食品安全委員会の改善に向けて」のまとめ	⑨意見交換会など双方向型のコミュニケーションの場の提供(意見交換会、サイエンスカフェ、ジュニア食品安全委員会等の開催)
合計	381	69.0	66.4	40.9	55.4	57.7	60.6	33.1	19.9	45.4

	⑩地域におけるリスクコミュニケーションの担い手の育成(食品の安全性に関する地域の指導者育成講座等の開催)	⑪食品安全委員会の活動内容の広報	⑫季刊誌『食品安全』等印刷物の発行	⑬DVDの作成や動画配信	⑭ホームページ、食品安全情報システム	⑮メールマガジン(定期的に発行)	⑯食の安全ダイヤル	⑰食品安全モニター制度	⑱その他	無回答・無効回答
合計	34.1	26.0	31.2	23.6	35.4	34.9	35.2	52.0	1.3	0.5

問12 評価していない食品安全委員会の活動分野（単位：％）

	全体	①厚生労働省や農林水産省等から諮問を受けて行う食品健康影響評価	②食品安全委員会が自らの判断により行う食品健康影響評価	③食品健康影響評価の結果に基づく施策の実施状況の監視(モニタリング)	④食品の安全性に関する科学的な根拠に基づいた情報の提供(加工食品中のアクリルアミドやトランス脂肪酸等のファクトシート等)	⑤緊急事態への対応(重要なお知らせのホームページ掲載、臨時メールマガジンの発行等)	⑥食品安全委員会委員長談話等の迅速な情報提供(新型インフルエンザ、愛知県のおうずら飼養農家における鳥インフルエンザの発生等)	⑦科学的調査や研究事業の取組	⑧「食品安全委員会の改善に向けて」のまとめ	⑨意見交換会など双方向型のコミュニケーションの場の提供(意見交換会、サイエンスカフェ、ジュニア食品安全委員会等の開催)
合計	24	4.2	16.7	25.0	20.8	12.5	8.3	12.5	8.3	20.8

	⑩地域におけるリスクコミュニケーションの担い手の育成(食品の安全性に関する地域の指導者育成講座等の開催)	⑪食品安全委員会の活動内容の広報	⑫季刊誌『食品安全』等印刷物の発行	⑬DVDの作成や動画配信	⑭ホームページ、食品安全情報システム	⑮メールマガジン(定期的に発行)	⑯食の安全ダイヤル	⑰食品安全モニター制度	⑱その他	無回答・無効回答
合計	25.0	16.7	12.5	4.2	16.7	25.0	4.2	16.7	41.7	8.3

問13 食品安全委員会に期待する役割

	全 体	① 厚生労働省や農林水産省等から諮問を受けて行う食品健康影響評価の実施	② 食品安全委員会が自らの判断により行う食品健康影響評価の実施	③ 食品健康影響評価の結果に基づく施策の実施状況の監視(モニタリング)・勧告	④ 食品の安全性に関する科学的な根拠に基づいた情報の提供(加工食品中のアクリルアミドやトランス脂肪酸等のファクトシート等)	⑤ 緊急事態への対応(重要なお知らせのホームページ掲載、臨時メールマガジンの発行等)	⑥ 食品安全委員会委員長談話等の迅速な情報提供	⑦ 科学的調査や研究事業の取組	⑧ 意見交換会など双方向型のコミュニケーションの場の提供	⑨ 地域におけるリスクコミュニケーションの担い手の育成
合計	406	50.2	68.2	49.3	52.7	50.5	27.1	27.3	27.8	21.4

	⑩ 食品安全委員会の活動内容の広報	⑪ 季刊誌『食品安全』等印刷物の充実	⑫ DVDの作成や動画配信の充実	⑬ ホームページ、食品安全総合情報システムの充実	⑭ メールマガジン(定期的な発行)の充実	⑮ 食の安全ダイヤルの充実	⑯ 食品安全モニター制度の充実	⑰ その他	⑱ 特にない	無回答・無効回答
合計	11.6	6.7	3.9	12.8	4.9	13.3	26.1	3.0	0.0	0.2

問14 発がんの可能性が高いと感じる要因 (単位: %)

	全 体	①喫煙(タバコ)	②大気汚染と汚染物質(重金属など)	③電磁波・放射能・紫外線	④食品添加物	⑤残留農薬	⑥遺伝子組換え食品	⑦食品のおこげ	⑧ふつうの食べ物	⑨アルコール飲料
合計	406	95.3	75.1	80.0	51.2	40.6	18.5	42.1	22.2	39.2

	⑩食事の偏り	⑪ウイルス・細菌	⑫カビ	⑬医薬品	⑭ストレス	⑮性生活・出産	⑯その他	無回答・無効回答
合計	63.3	43.6	44.6	23.6	77.8	16.7	9.6	0.7

問15 食品安全委員会に対するイメージ (単位: %)

	全 体	①食品の健康影響評価(リスク評価)に取り組んでいる	②食品安全について消費者を含む幅広い関係者との情報・意見交換に取り組んでいる	③重大な食品事故などの緊急時対応に取り組んでいる	④食品安全に必要な施策などについて関係省庁に勧告している	⑤食品安全の基準設定や規制を実施している	⑥信頼性がある	⑦中立公正である	⑧科学的である	⑨親しみやすい
合計	406	88.7	61.3	61.6	47.5	48.8	49.0	46.6	62.3	6.2

	⑩透明性がある	⑪専門的である	⑫消費生活に密着している	⑬行動が迅速である	⑭消費者の安全・安心に貢献している	⑮消費者の立場や意見を大切にしている	⑯食品の生産者や製造・流通業者における食品安全の取組みに貢献している	⑰食品安全について正確な情報を提供している	⑱食品安全について消費者に分かりやすい情報を提供している	⑲豊富な科学的データを保有している
合計	19.0	70.0	13.3	16.0	48.8	22.2	19.5	55.4	20.4	49.3

	⑳わからない・イメージがない	無回答・無効回答
合計	1.2	1.5

食品安全モニター課題報告「食品の安全性に関する意識等について」調査票

1 食品の安全性に係る危害要因等について

問1 次に掲げる分野について、あなたはどのように思いますか。それぞれの分野について、選択肢の中から1つずつ選んでください。

【分野】

- 1 環境問題
- 2 自然災害
- 3 食品安全
- 4 重症感染症（新型インフルエンザなど）
- 5 犯罪
- 6 戦争・テロ
- 7 交通事故

【選択肢】

- ① とても不安を感じる
- ② ある程度不安を感じる
- ③ どちらともいえない
- ④ あまり不安を感じない
- ⑤ 全く不安を感じない
- ⑥ よくわからない

問2 最近、あなたが食品を購入したときに気をつけたこと、重視したことは何ですか。
あてはまるものを全て選んでください。

- | | |
|--------------|---------------------|
| ① 価格 | ⑨ 天然素材・自然素材 |
| ② おいしさ | ⑩ 簡便性（手間がかからない） |
| ③ 鮮度 | ⑪ 季節感・旬 |
| ④ 見栄え | ⑫ 産地（国産・海外産等） |
| ⑤ 栄養 | ⑬ 生産者・食品メーカー |
| ⑥ 安全性 | ⑭ その他（具体的に記入してください） |
| ⑦ 量・大きさ | ⑮ 特になし |
| ⑧ 低カロリー・ヘルシー | |

問3 以下の10個の食品や物質等それぞれについて、食品の安全性の観点からあなたはどのように思いますか。選択肢の中から1つずつ選んでください。

また、以下の10個の食品や物質等以外に気になっているものがあれば、併せて「11 その他」に食品や物質名を記入し、選択肢の中からも1つ選んでください。

【食品や物質等】

- 1 遺伝子組換え食品
- 2 いわゆる健康食品
- 3 汚染物質（カドミウム、メチル水銀等）
- 4 家畜用抗生物質
- 5 食品添加物
- 6 農薬
- 7 BSE（牛海綿状脳症）
- 8 有害微生物（細菌・ウイルス・食中毒）
- 9 体細胞クローン家畜由来食品
- 10 器具・容器包装からの溶出化学物質
- 11 その他（自由記述）

【選択肢】

- ① 非常に不安である
- ② ある程度不安である
- ③ あまり不安を感じない
- ④ 全く不安を感じない
- ⑤ よく知らない

※ 「いわゆる健康食品」とは、「保健機能食品」（注）以外のもので、広く、健康の保持増進に資する食品として販売・利用されるものです。

（注）厚生労働省の保健機能食品制度の下で一定の条件を満たすものとして販売を認めているもの

問4 問3において、「①非常に不安である」、「②ある程度不安である」、「③あまり不安を感じない」、「④全く不安を感じない」を選択した食品や物質等についてお聞きします。

不安を感じる（「①非常に不安である」又は「②ある程度不安である」を選択）食品や物質等については、不安を感じる理由を1つずつ選んでください。

不安を感じない（「③あまり不安を感じない」又は「④全く不安を感じない」を選択）食品や物質等については、不安を感じない理由を1つずつ選んでください。

【不安を感じる理由】

- ① 科学的な根拠に疑問
- ② 規格基準や表示等の規制が不十分
- ③ 事業者の法令遵守や衛生管理が不十分
- ④ 食品の安全性に関する情報が不十分
- ⑤ 過去に問題になった事例があり、不安
- ⑥ 漠然とした不安
- ⑦ その他（具体的に記入してください）

【不安を感じない理由】

- ① 科学的な根拠に納得
- ② 規格基準や表示等の規制が十分なされている
- ③ 事業者の法令遵守や衛生管理が十分なされている
- ④ 食品の安全性に関する情報が十分ある
- ⑤ 過去に問題になった事例がなく、安心
- ⑥ 漠然とした安心
- ⑦ その他（具体的に記入してください）

問5 問3において、「①非常に不安である」又は「②ある程度不安である」を選択した食品や物質等についてお聞きします。aとbの質問について、あてはまるものを全て選んでください。

a. 不安を感じるようになったきっかけは何ですか。

- ① 自分自身が健康被害を受けたことがある
- ② 身のまわりで健康被害を受けた人がいる
- ③ 事件・事故のニュース・報道を見て
- ④ 危険性・有害性を示すデータを見て
- ⑤ 否定的・警鐘的な論調（新聞・雑誌・テレビ・書籍・論文など）に接して
- ⑥ テレビなどで衝撃的な映像を見て
- ⑦ 学校の授業を受けて
- ⑧ 講習会・セミナー等に参加して
- ⑨ 国や研究機関などからの勧告を見て
- ⑩ 家族や知人などから話を聞いて
- ⑪ なんとなく
- ⑫ その他（具体的に記入してください）

b. 不安を感じたのは、どのような情報源からですか。

- | | |
|-------------------------------|---------------------|
| ① テレビ：ニュース・報道番組 | ⑪ 行政（国、地方自治体等） |
| ② テレビ：ワイドショー・情報番組 | ⑫ 生産者・食品メーカー |
| ③ テレビ：ドキュメンタリー番組 | ⑬ スーパー・小売店 |
| ④ ラジオ | ⑭ 生協などの協同組合 |
| ⑤ 新聞 | ⑮ 大学・研究機関・研究者 |
| ⑥ 雑誌 | ⑯ 学校（幼稚園、小・中学校、高校） |
| ⑦ 書籍 | ⑰ 病院 |
| ⑧ インターネット上のニュースサイト | ⑱ NPO・消費者団体 |
| ⑨ インターネット上のコミュニティサイト（SNS（注）等） | ⑲ 家族・知人 |
| ⑩ 個人のブログ | ⑳ その他（具体的に記入してください） |
| | ㉑ 特になし |

（注）SNS：ソーシャルネットワークサービスの略

問6 問3の「食品や物質等」に掲げた10個（遺伝子組換え食品、いわゆる健康食品等）について、それぞれどのようにお考えですか。次に掲げる項目ごとに、選択肢の中からそれぞれ1つずつ選んでください。

【選択肢】

- ① そう思う
- ② どちらかといえばそう思う
- ③ どちらかといえばそう思わない
- ④ そう思わない

<10個の食品や物質等の共通項目>

※ 但し、項目番号3と7は、10個全ての食品や物質等についてお答えいただく必要はありません。報告用紙の当該項目には×を記しています。

1. 国の安全基準が科学的な健康影響評価によって設定されている
2. 国など行政による安全管理施策・体制が確立している
3. 生産者、食品の製造・流通過程の安全管理施策・体制が確立している
4. 健康にどのような被害・影響があるのか知っている
5. どのように安全管理されているか知っている
6. どのようにすれば健康被害を回避できるか知っている
7. 食品表示によって消費者の選択肢が確保されている
8. 人体に悪い影響を与える
9. 事件・事故が発生したときの被害が大きい
10. 事件・事故が発生する確率が高い
11. 科学的に未知、不確かなものである
12. 得体が知れない
13. 怖い、恐ろしい
14. 将来世代にまで健康に影響を及ぼす
15. 摂取するたびに人体に蓄積されている
16. いったん健康に被害を受けると回復がむずかしい
17. 安全性を判断する材料が不十分
18. 人工的・人為的である

<遺伝子組換え食品の項目>

19. 栄養価の向上、作物の病気の予防など、自分の食生活の中で役立っている
20. 作物の生育向上、大量生産など、食糧確保の面などからも、社会にとって有益なものである
21. 遺伝子組換え食品について、健康への悪影響が生じる確率をゼロにすることはできない
22. 遺伝子組換え食品のメリットは認めるので、ある程度は受け入れることができる
23. 遺伝子組換え食品による健康への悪影響が生じる確率は低いので、遺伝子組換え食品でも摂ることができる
24. 国産のものであれば、遺伝子組換え食品かどうかはあまり気にしていない
25. 国の法律・基準に則って認められているのであれば、遺伝子組換え食品であっても摂ることができる
26. 多少高くても、遺伝子組換えでない食品を選ぶようにしている
27. 子どもに対しては遺伝子組換え食品は食べさせない
28. 遺伝子組換え食品について、わずかでも健康に悪影響があるならば、遺伝子組換え食品は一切禁止するべきである

<いわゆる健康食品の項目>

29. 栄養価の向上、病気の予防などの点で、社会にとって有益なものである

<家畜用抗生物質の項目>

30. 動物の疾病の治療や予防並びに飼料が含有している栄養成分の有効な作用により、自分の食生活の中で役立っている

<食品添加物の項目>

31. 味、見栄え、保存性をよくするなど、自分の食生活の中で役立っている
32. 酸化防止、保存性の向上など、食品製造・加工・流通の面からも、社会にとって有益なものである
33. 食品添加物について、健康への悪影響が生じる確率をゼロにすることはできない
34. 食品添加物のメリットは認めるので、ある程度は受け入れることができる
35. 食品添加物による健康への悪影響が生じる確率は低いので、食品添加物を使用した食品でも摂ることができる
36. 国産のものであれば、食品添加物についてはあまり気にしていない
37. 国で定めている基準値内であれば、食品添加物を使用した食品でも摂ることができる
38. 多少高くても、無添加のものを選ぶようにしている
39. 子どもに対しては食品添加物を使用した食品は食べさせない
40. 食品添加物について、わずかでも健康に悪影響があるならば、一切禁止するべきである

<農薬の項目>

41. 野菜への虫の付着を防ぐなど、自分の食生活の中で役立っている
42. 害虫から作物を守るなど、安定的な作物生産の段階で、社会に貢献している
43. 残留農薬について、健康への悪影響が生じる確率をゼロにすることはできない
44. 農薬使用のメリットは認めるので、ある程度の残留農薬は受け入れることができる
45. 残留農薬による健康への悪影響が生じる確率は低いので、農薬を使用した食品でも摂ることができる
46. 国産のものであれば、残留農薬についてはあまり気にしていない
47. 国で定めている基準値内であれば、農薬を使用した食品でも摂ることができる
48. 多少高くても、無農薬・低農薬のものを選ぶようにしている
49. 子どもに対しては農薬を使用した食品は食べさせない
50. 残留農薬について、わずかでも健康に悪影響があるならば、農薬は一切禁止すべきである

<BSE（牛海綿状脳症）の項目>

51. BSEに関する健康に悪影響が生じる確率をゼロにすることはできない
52. 牛肉を食べてもBSEによる健康への悪影響が生じる確率は低いので、気にせず牛肉を食べている
53. 国産牛肉であれば、BSEのことは気にせず食べている
54. 国でBSE対策がとられているので、牛肉を食べるのは気にならない
55. BSE騒動以来、牛肉を食べる頻度が少なくなった
56. 牛肉を購入する際、原産国を気にして購入している
57. 子どもに対してはBSEの影響が心配なので、牛肉は食べさせない
58. 牛肉は全てBSEに感染していないことを確認した上でなければ、一切流通させるべきではない

<体細胞クローン家畜由来食品の項目>

59. 畜産の分野で、生産性や品質の向上等を目的とした家畜の改良を進めるための有効な手段の1つである
60. 畜産の分野以外でも、実験用動物の生産手段、医薬品の製造手段及び希少動物の保護・再生手段への利用が期待できる

問7 食品中に残留する農薬の基準について、正しいと思うものを全て選んでください。

- ① 人の健康を損なうおそれのない量の農薬の食品中への残留が認められている
- ② 一部の農薬については、残留基準（一律基準を含む）が設定されていない
- ③ 残留農薬に対する規制は加工食品も対象である
- ④ 加工食品には農薬が残留してはいけない
- ⑤ わからない
- ⑥ 上記のいずれも正しくない

2 食品の安全性に関する情報について

問8 あなたは、食品の安全性に関する情報をどこから得ていますか。あなたが情報を得ているものを全て選んでください。また、情報を多く得ている先から順に3つ選んでください。

- | | |
|-------------------------------|---------------------|
| ① テレビ：ニュース・報道番組 | ⑭ 食品安全委員会 |
| ② テレビ：ワイドショー・情報番組 | ⑮ 保健所などの地方自治体 |
| ③ テレビ：ドキュメンタリー番組 | ⑯ 生産者・食品メーカー |
| ④ ラジオ | ⑰ スーパー・小売店 |
| ⑤ 新聞 | ⑱ 生協などの協同組合 |
| ⑥ 一般の雑誌（週刊誌、月刊誌など） | ⑲ 大学・研究機関・研究所 |
| ⑦ 専門誌 | ⑳ 学校（幼稚園、小・中学校、高校） |
| ⑧ 一般の書籍 | ㉑ 病院 |
| ⑨ 専門書・学術書・論文等 | ㉒ NPO・消費者団体 |
| ⑩ インターネット上のニュースサイト | ㉓ 家族・知人 |
| ⑪ インターネット上のコミュニティサイト（SNS（注）等） | ㉔ 個人のブログ |
| ⑫ 厚生労働省 | ㉕ その他（具体的に記入してください） |
| ⑬ 農林水産省 | |

（注）SNS：ソーシャルネットワークサービスの略

問9 食品の安全性に関する情報を得る場合、次に掲げるメディアや機関・団体等の情報について、あなたが信頼できるものを全て選んでください。また、その中から信頼できる順に3つ選んでください。

- | | |
|-------------------------------|---------------------|
| ① テレビ：ニュース・報道番組 | ⑭ 食品安全委員会 |
| ② テレビ：ワイドショー・情報番組 | ⑮ 保健所などの地方自治体 |
| ③ テレビ：ドキュメンタリー番組 | ⑯ 生産者・食品メーカー |
| ④ ラジオ | ⑰ スーパー・小売店 |
| ⑤ 新聞 | ⑱ 生協などの協同組合 |
| ⑥ 一般の雑誌（週刊誌、月刊誌など） | ⑲ 大学・研究機関・研究所 |
| ⑦ 専門誌 | ⑳ 学校（幼稚園、小・中学校、高校） |
| ⑧ 一般の書籍 | ㉑ 病院 |
| ⑨ 専門書・学術書・論文等 | ㉒ NPO・消費者団体 |
| ⑩ インターネット上のニュースサイト | ㉓ 家族・知人 |
| ⑪ インターネット上のコミュニティサイト（SNS（注）等） | ㉔ 個人のブログ |
| ⑫ 厚生労働省 | ㉕ その他（具体的に記入してください） |
| ⑬ 農林水産省 | ㉖ 上記のうち、信頼できるものはない |

（注）SNS：ソーシャルネットワークサービスの略

3 食品の安全性の確保について

問10 あなたは、食品安全委員会のこの1年間の活動を評価していますか。1つ選んでください。

- ① 評価している
- ② ある程度は評価している
- ③ あまり評価していない
- ④ 全く評価していない

問11 問10において、「①評価している」又は「②ある程度は評価している」を選んだ方にお聞きします。

その理由は、食品安全委員会のどの活動分野を評価しているからですか。あてはまるものを全て選んでください。

- ① 厚生労働省や農林水産省等から諮問を受けて行う食品健康影響評価
- ② 食品安全委員会が自らの判断により行う食品健康影響評価
- ③ 食品健康影響評価の結果に基づく施策の実施状況の監視（モニタリング）
- ④ 食品の安全性に関する科学的な根拠に基づいた情報の提供（加工食品中のアクリルアミドやトランス脂肪酸等のファクトシート（注1）等）
- ⑤ 緊急事態への対応（重要なお知らせのホームページ掲載、臨時メールマガジンの発行等）
- ⑥ 食品安全委員会委員長談話等の迅速な情報提供（新型インフルエンザ、愛知県のうずら飼養農家における鳥インフルエンザの発生等）
- ⑦ 科学的調査や研究事業の取組
- ⑧ 「食品安全委員会の改善に向けて」のまとめ
- ⑨ 意見交換会など双方向型のコミュニケーションの場の提供（意見交換会、サイエンスカフェ（注2）、ジュニア食品安全委員会（注3）等の開催）
- ⑩ 地域におけるリスクコミュニケーションの担い手の育成（食品の安全性に関する地域の指導者育成講座等の開催）
- ⑪ 食品安全委員会の活動内容の広報
- ⑫ 季刊誌『食品安全』等印刷物の発行
- ⑬ DVDの作成や動画配信
- ⑭ ホームページ、食品安全情報システム
- ⑮ メールマガジン（定期的に発行）
- ⑯ 食の安全ダイヤル
- ⑰ 食品安全モニター制度
- ⑱ その他（具体的に記入してください）

（注1）ファクトシート：危害要因についての科学的情報科学的な情報を収集し、分かりやすく整理したもの

（注2）サイエンスカフェ：疑問に直接答える小規模な意見交換の場

（注3）ジュニア食品安全委員会：対象は小学校5～6年生

問12 問10において、「③あまり評価していない」又は「④全く評価していない」を選んだ方にお聞きします。

その理由は、食品安全委員会のどの活動分野を評価していないからですか。あてはまるものを全て選んでください。

- ① 厚生労働省や農林水産省等から諮問を受けて行う食品健康影響評価
- ② 食品安全委員会が自らの判断により行う食品健康影響評価
- ③ 食品健康影響評価の結果に基づく施策の実施状況の監視（モニタリング）
- ④ 食品の安全性に関する科学的な根拠に基づいた情報の提供（加工食品中のアクリルアミドやトランス脂肪酸等のファクトシート（注1）等）
- ⑤ 緊急事態への対応（重要なお知らせのホームページ掲載、臨時メールマガジンの発行等）
- ⑥ 食品安全委員会委員長談話等の迅速な情報提供（新型インフルエンザ、愛知県のうずら飼養農家における鳥インフルエンザの発生等）
- ⑦ 科学的調査や研究事業の取組
- ⑧ 「食品安全委員会の改善に向けて」のまとめ
- ⑨ 意見交換会など双方向型のコミュニケーションの場の提供（意見交換会、サイエンスカフェ（注2）、ジュニア食品安全委員会（注3）等の開催）
- ⑩ 地域におけるリスクコミュニケーションの担い手の育成（食品の安全性に関する地域の指導者育成講座等の開催）
- ⑪ 食品安全委員会の活動内容の広報
- ⑫ 季刊誌『食品安全』等印刷物の発行
- ⑬ DVDの作成や動画配信
- ⑭ ホームページ、食品安全情報システム
- ⑮ メールマガジン（定期的に発行）
- ⑯ 食の安全ダイヤル
- ⑰ 食品安全モニター制度
- ⑱ その他（具体的に記入してください）

（注1）ファクトシート：危害要因についての科学的情報科学的な情報を収集し、分かりやすく整理したものの

（注2）サイエンスカフェ：疑問に直接答える小規模な意見交換の場

（注3）ジュニア食品安全委員会：対象は小学校5～6年生

問 1 3 あなたは、食品安全委員会に何を期待しますか、あてはまるものを5つ以内で選んで
ください。

- ① 厚生労働省や農林水産省等から諮問を受けて行う食品健康影響評価の実施
- ② 食品安全委員会が自らの判断により行う食品健康影響評価の実施
- ③ 食品健康影響評価の結果に基づく施策の実施状況の監視（モニタリング）・勧告
- ④ 食品の安全性に関する科学的な根拠に基づいた情報の提供（加工食品中のアクリルアミドやトランス脂肪酸等のファクトシート（注）等）
- ⑤ 緊急事態への対応（重要なお知らせのホームページ掲載、臨時メールマガジンの発行等）
- ⑥ 食品安全委員会委員長談話等の迅速な情報提供
- ⑦ 科学的調査や研究事業の取組
- ⑧ 意見交換会など双方向型のコミュニケーションの場の提供
- ⑨ 地域におけるリスクコミュニケーションの担い手の育成
- ⑩ 食品安全委員会の活動内容の広報
- ⑪ 季刊誌『食品安全』等印刷物の充実
- ⑫ DVDの作成や動画配信の充実
- ⑬ ホームページ、食品安全総合情報システムの充実
- ⑭ メールマガジン（定期的に発行）の充実
- ⑮ 食の安全ダイヤルの充実
- ⑯ 食品安全モニター制度の充実
- ⑰ その他（具体的に記入してください）
- ⑱ 特にない

（注）ファクトシート：危害要因についての科学的情報科学的な情報を収集し、分かりやすく整理したもの

問 1 4 癌の原因になるものは何だと思いますか。あなたが癌の原因になると思うものを全て
選んでください。

- | | |
|--------------------|---------------------|
| ① 喫煙（タバコ） | ⑨ アルコール飲料 |
| ② 大気汚染と汚染物質（重金属など） | ⑩ 食事の偏り |
| ③ 電磁波・放射能・紫外線 | ⑪ ウイルス・細菌 |
| ④ 食品添加物 | ⑫ カビ |
| ⑤ 残留農薬 | ⑬ 医薬品 |
| ⑥ 遺伝子組換え食品 | ⑭ ストレス |
| ⑦ 食品のおこげ | ⑮ 性生活・出産 |
| ⑧ ふつうの食べ物 | ⑯ その他（具体的に記入してください） |

4 食品安全委員会のイメージ・認識について

問15 あなたの食品安全委員会に対するイメージ・認識として、あてはまるものを全て選んでください。

- ① 食品の健康影響評価（リスク評価）に取り組んでいる
- ② 食品安全について消費者を含む幅広い関係者との情報・意見交換に取り組んでいる
- ③ 重大な食品事故などの緊急時対応に取り組んでいる
- ④ 食品安全に必要な施策などについて関係省庁に勧告している
- ⑤ 食品安全の基準設定や規制を実施している
- ⑥ 信頼性がある
- ⑦ 中立公正である
- ⑧ 科学的である
- ⑨ 親しみやすい
- ⑩ 透明性がある
- ⑪ 専門的である
- ⑫ 消費生活に密着している
- ⑬ 行動が迅速である
- ⑭ 消費者の安全・安心に貢献している
- ⑮ 消費者の立場や意見を大切にしている
- ⑯ 食品の生産者や製造・流通業者における食品安全の取組みに貢献している
- ⑰ 食品安全について正確な情報を提供している
- ⑱ 食品安全について消費者に分かりやすい情報を提供している
- ⑲ 豊富な科学的データを保有している
- ⑳ わからない・イメージがない

以上、御協力ありがとうございました。